

348
939



始



陳年

特216
728

簡野道明先生閱
國語漢文研究會編



新言志四錄

株式會社 明治書院發行



言志四錄

解題

言志四錄は、佐藤一齋翁の語録にして、言志録・言志後録・言志晚録・言志叢録の四種の單行本を合輯したる稱なり。言志とは蓋し論語、公冶長篇に「顔淵・季路侍。子曰、盍各言爾志」先進篇に「子路・曾皙冉有・公西華侍坐（中略）亦各言其志也」とあるに本づく。

言志録は、開卷第一に「文化癸酉五月念六日録」とあり。癸酉は即ち文化十年（皇紀二四七三年）にして翁が四十二歳、林家の塾長たりし時なり。爾來約十五年間書き續けられ、凡て二百四十六條。弘化三年上梓し、福知山城主源綱條の跋文あり。

言志後録は、卷頭に「文政戊子重陽録」とあるを見れば、文政十一年（皇紀二四八八年）九月九日に起稿せしを知るべし。時に翁年五十七歳なり。爾來約十一年間の隨筆にし

て、凡て二百五十五條、末尾に入學説を附載す。言志録と同じく弘化三年に上木す。言志晩録は、卷頭に「單記積年、又成一堆、及輯録、則略以類相從。事亦多係釋褐後。錄起天保戊戌孟陬月、至嘉永己酉仲春月」とあるを見れば、天保九年（皇紀二四九八年）正月に起稿して、嘉永二年（皇紀二五〇九年）八月に脱稿せしを知るべし。即ち翁六十七歳より、七十八歳まで、約十二年間に成りしものなり。蓋し翁が幕府の儒官となりしは天保十二年（皇紀二五〇一年）七十歳の時にして、いはゆる釋褐後とは、その以後をいふ。凡て二百九十二條、外に別存四十四條を附載す。別存は、祭酒林述齋の逸事と、自家の履歴とを記す。この晩録は嘉永三年に出版す。

言志叢録は、卷頭に「余今年齡躋八袞、耳目未至太衰、何其幸也。一息之存、學匪可廢。單記成編。呼曰叢録。嘉永辛亥夏五月」とあり。即ち嘉永四年（皇紀二五一年）翁八十歳の時に起稿せしを知るべし。凡て三百四十條。同六年（皇紀二五二三年）に刊行せられ、門人にして女婿たる河田興の跋文を附す。

翁は幕府の儒官たりしを以て、當時の正學とせし朱子學を奉じて、造詣最も深かり

しは言ふまでもなく、一面には、王陽明に私淑して、その學を尊崇せしを以て「陽朱陰王」の譏を受けたれども、四録中に載する所を見れば、陽明を尊崇せしは勿論なれども、必ずしも程朱を排斥せざるのみならず、盛に之を稱揚せしを見れば、其の善を取りて折中し持平の見を有せしを知るに足る。

四録中には多く四書・五經を引用し、就中易經は翁の最も精通して「周易欄外書十卷」「啓蒙欄外書一卷」「易學啓蒙圖考一卷」の著作あるが如くなれば易を引くこと最も多く、翁の宇宙觀も人生觀も悉く易理より得來りたるを見る。四録は固より翁の隨筆にして思想の斷片に過ぎずと雖も、誠意正心修齊治平の工夫は勿論、史論もあれば、人物の月旦もあり、或は時務を論じ、或は兵事を談じ、或は風流韻事を説く等、頗る多方面に涉り變化に富み、仔細に之を咀嚼すれば津津として味ふべきものあり。之を要するに翁が四十餘歳より臨没に至るまで凡そ四十年間の讀書・研究・閱歷・體驗の結晶にして文章も亦能く洗煉せられて絶えて和臭の弊なく、寸鐵人を殺すの妙あり。故に出版以來愛讀者益多く、維新志士の精神修養の資となりし功は蓋し鮮少なりとせず。

特に西郷南洲は、四録中より百有一則を抄録して自家が處世接物の準繩と爲し、秋月種樹は、それに評釋を加へて「南洲手抄言志録一卷」を出版したり。宜しく參考すべし。

四

著者小傳

佐藤坦、字は大道、通稱は捨藏、一齋と號す。曾祖周軒始めて儒を以て美濃の岩村侯に仕へ、家老職に陞り、祖信全、父信由、相襲ぎて國政に參す。信由、蔭田氏を娶り、安永元年（皇紀二四三二年）十月二十日を以て翁を江戸濱町の藩邸に生む。幼にして穎悟讀書を好み技能多く、年十二三屹として成人の如し。十九始めて仕へて近侍となる。藩主松本乘蘊の第三子（述齋）と親み同じく學ぶ。寛政五年（皇紀二四五三年）林簡順の門に入り、幾何も無く、簡順卒して嗣無し。幕府述齋を以て其の後を承けしむ。翁は改めて師弟の名を正し、文化二年林家の塾長と爲る。文政九年（皇紀二四八六年）岩村侯の

世子國を承け、翁を擢んで老臣に列す。天保十二年（皇紀二五〇一年）三月、述齋卒し、十一月翁は擢んでられて、昌平黌の儒官と爲る。時に年七十歳なり。爾來翁の學徳益高く、斯道の耆宿として天下の侯伯より庶人に至るまで、翁を尊びて泰山北斗と爲し、景仰せざる者無し。安政六年（皇紀二五一九年）八十八歳を以て卒し、麻布六本木の深廣寺に葬る。墓碑は高々凡そ八尺、正面に「惟一先生佐藤府君之墓」と題し、碑陰に門人岩村藩若山拯の碑文を刻せり。

五

新註言志四錄目次

解題	卷頭
著者小傳	卷頭
言志錄	一
言志後錄	六五
入學說	一二九
言志晚錄	一三三
別存	一九五
言志叢錄	二二三

言志錄

江都一齋居士錄

○代明、錯行、日月ガカハルガハル
 明カ三時ガ五ノ運行スル。
 中庸ニ辟如四時之運行、如日月
 之代明、朱註ニ錯、猶迷也。
 ○數、運命ヲハリアハセ、○歿、
 音「エウ」天ニ同ジ「ワカ」ニ
 ○傀儡、「カラクリ」人形。○役
 役、イメカシク折ル。○悴
 勞、「ヤウ」レツカレ「ル」悴、音
 「スキ」

○文化、光格天皇ノ年號、癸酉
 ハ其十年(二四七三)著者四十二歳。
 ○念、廿ナリ。
 ○太上、最モスグレタル上等ノ
 者。○經、經書、四書五經ナド。

一 凡、天地閒事、古往今來、陰陽晝夜、日月代明、四時錯
 行、其數皆前定。至於人、富貴貧賤、死生壽夭、利害榮辱、
 聚散離合、莫非一定之數。殊未之前知耳。譬猶傀儡之
 戲、機關已具、而觀者不知也。世人不悟其如此、以爲己
 之知力足恃、而終身役役、東索西求、遂悴勞以斃、斯亦
 惑之甚。

二 太上師天、其次師人、其次師經。

言志錄

一

○進學、學問ノ上達進步。○舜何人也、予何人也、孔子ノ高弟顔淵ガ自ラ發憤激勵セシ言葉、孟子、滕文公上。

○知恥、中庸「知恥近于勇」

○性分、「ウマレツキ仁義禮智信ヲイフ。○職分、孝悌忠信ナド人トシテ爲スベキ義務。

○崇卑、高イト低イト。○叔世、末ノ世、澆季ノ世。○今之君子、在位ノ君子ヲ指ス。○盍、何不ノ二字ヲ一字ニ音約セシ語「ナゾミザル」ト讀ム。

○省察、カヘリミテヨク考ヘ明カニスル。○共、供ニ同ジ、給ナリ。○天咎、天ノ「トガメ」揚雄、哀州箴「有國雖久、必畏天咎」

○權、「ハカリノオモリ」○度、「モノサシ」孟子、梁惠王上「權然後知輕重、度然後知長短」物皆然、心爲甚」

○三代、支那ノ夏殷周。

○資善之心、用ヒテ善ヲ爲ス心。○多聞多見、論語、爲政「子張學于祿。子曰、多聞闕疑、慎言其餘、則寡尤。多見闕殆、慎行其餘、則寡悔。言寡尤、行寡悔、祿在其中矣」

○修辭立其誠、易、文言傳ニ出ヅ、下ニ「所以居業也」トアリ。

三 凡作事、須要有事天之心。不要有示人之念。
四 天道以漸運、人事以漸變。必至之勢、不能卻之使遠。又不能促之使速。

五 憤一字、是進學機關。舜何人也、予何人也、方是憤。
六 學莫要於立志。而立志亦非強之、只從本心所好而已。

七 立志之功、以知恥爲要。

八 盡性分之本然、務職分之當然。如此而已矣。

九 君子有德之稱。有其德則有其位。視德之高下爲位之崇卑。及叔世有無其德而居其位者、則君子亦遂有專就在位而稱之者。今之君子、盍知冒虛名之爲恥。

一〇 人須自省察。天何故生我身、使我果供何用。我既天物、必有天役。天役弗共、天咎必至。省察到此、則知我身之不可苟生。

二 權能輕重物、而不能自定其輕重。度能長短物、而不能自度其長短。心則能是非物、而又自知其是非。是所以爲至靈歟。

三 以三代以上意思、讀三代以上文字。

三 爲學故讀書。

四 吾既有資善之心、父兄師友之言、唯恐聞之不多。至於讀書、亦得不多乎。聖賢所云、多聞多見、意正如此。

五 修辭立其誠、立誠修其辭、其理一也。

○栽者培之、傾者覆之、中庸第十七章ニ出ツ。栽ハ植ナリ。氣至リテ滋息スルヲ培ト爲シ、氣反リテ遊散スレバ則チ覆ル。○生生、絶エズ生ズル貌、易、繫辭、
 「行其所無事、孟子、離婁下「禹之行水也、行其所無事也。如智者亦行其所無事、則智亦大矣」
 ○妙、妙ニ同ジ。
 ○面云、冷頭ナレバ從容迫ラズ。○昔云、熱心ナレバ人ヲ動カシ事成ル。○胸云、私意ヲ去ル。○腹云、力ヲ丹田（一寸下の所）ニ聚ムレバ泰然トシテ動カズ。
 ○收斂、「ヒキシメル」
 ○痞塞、痞ハ音「ヒ」ツカヘフサガル
 ○閒思、無益ノ考。○雜慮、色色ノツマラス考。○潤、音「コン」ミダル。○肚裏、腹ノ中。○淨潔快豁、サツパリト心ヨシ。
 ○鍼、「ハリ」
 ○筆畫、筆ニテ書キタル文字。

六 栽者培之。雨露固生生也。傾者覆之。霜雪亦生生矣。
 七 靜觀造化之跡。皆行其所無事。
 八 凡事到妙處。不過自得天然形勢。此外更別無妙。
 九 面欲冷。背欲煖。胸欲虛。腹欲實。
 十 人精神盡在乎面。不免逐物妄動。須收斂精神。棲諸背。方能忘其身。而身眞爲吾有。
 十一 心下痞塞。百慮皆錯。
 十二 閒思雜慮。紛紛擾擾。由外物溷之也。常使志氣如劍。驅除一切。外誘不敢襲近。肚裏自覺淨潔快豁。
 十三 吾方將處事。必先於心下。自下數鍼。然後從事。
 十四 心之邪正。氣之強弱。筆畫不能掩之。至於喜怒哀懼。

○形、アラハス、現ナリ。○諸之乎ノ合字。

○周詳、「アマネクツマビラカ」
 ○易簡、「テガル」簡易ニ同ジ、易、繫辭「易簡天下之理得矣」
 ○克勤、小物、曾國藩曰ク「古之成大業者、多自克勤小物來」
 ○誇伐、誇ハ大言スル、伐ハ功ニホコル。
 ○大徳云、論語、子張篇、子夏ノ語、閑ハ「テスリ」禮法ノ義、大徳ノ閑ハ少シ位、出タリ入ツタリシテモ亦可ナリトノ意。○儘、「ママ」ソレデ「ママ」ノ意。
 ○躬自厚云、論語、衛靈公「子曰、躬自厚而薄責於人、則遠怨矣」
 ○料理、「キリモリスル」○閑事、「ムダゴト」

勤惰靜躁、亦皆形諸字。一日内、自書數字、以反觀亦省心之一助。
 十五 有心求名。固非有心避名。亦非。
 十六 慮事欲周詳。處事欲易簡。
 十七 眞有大志者。克勤小物。眞有遠慮者。不忽細事。
 十八 纔有誇伐念頭。便與天地不相似。
 十九 大徳不踰閑。小徳出入可也。以此待人。儘好。
 二十 自責嚴者。責人亦嚴。恕人寬者。自恕亦寬。皆不免於一偏。君子則躬自厚而薄責於人。
 二十一 今人率口說多忙。視其所爲。整頓實事。十一二料理。閑事十八九。又認閑事。以爲實事。宜其多忙。有志者勿。

○窠、音「クワ」。「アナ」四陷ノ處、即チ覆轍。

○窮理、物事ノ理ヲキハメル。易、說卦傳「窮理盡性、以至於命」。○尙、上ナリ。

○百邪、多クノ魔物。○辟易、驚キテ避ケテ舊所ヲ易ヘル。史記、項羽紀「赤泉侯人馬辟易數里」。○童蒙、事理ニ暗キ幼兒、蒙ハ味ナリ。易、蒙卦「童蒙求我」。○老成、少クシテ物事ニ老練ナル義。

○察言而觀色、論語、顔淵。○度、音「シウ」。「カクス」其情ヲ度スライフ。論語、爲政「人焉廋哉」。

○藻鑑、「メキキ」品藻鑑識。

○蕩、ホシイママナル意。○肅、「ツツシム」。

○昨非、昔日ノ非ナリシコト。陶淵明ノ歸去來辭「覺今是而昨非」。○自注「余築小軒以昨非名之」。○鮮、極メテ少キ義。○亢龍、ノボリツメタル龍、亢ハ至高ナリ、尊貴ノ人ニ喻フ。最モ盈滿ヲ戒ム、然ラザレバ敗滅ノ禍アリ。易、乾卦「上九亢龍」象傳「亢龍盈不可久也」。○昵、音「ヂツ」親ミ狎レル。○漸、キザシ(兆)。

誤踏此窠。

緊立此志以求之、雖搬薪運水亦是學所在、況讀書

窮理乎。志之弗立、終日從事讀書亦唯是閑事耳。故爲

學莫尙於立志。

有志之士、如利刃、百邪辟易、無志之人、如鈍刀、童蒙

侮翫。

少年時當著老成工夫、老成時當存少年志氣。

容物美德也、然亦有明暗。

人言須容而擇之、不可拒、又不可惑。

能容人者而後可以責人、人亦受其責、不能容人者

不能責人、人亦不受其責。

心之所形、尤在於言與色、察言而觀色、賢不肖、人不能度。

人之賢否、於初見時相之、多不謬。

愛惡念頭最累藻鑑。

富貴譬則春夏也、使人心蕩貧賤、譬則秋冬也、使人

心肅、故人於富貴則溺其志、於貧賤則堅其志。

知分、然後知足。

悔昨非者有之、改今過者鮮矣。

得意時候、最當著退步工夫、一時一事、亦皆有亢龍。

寵過者、怨之招也、昵甚者、疏之漸也。

與土地人民、天物也、承而養之、使物各得其所、是君職

○天物、天然ニ生ゼシ物。書經、武成「暴殄天物」

○元首股肱、元首ハ「クビ」君ノ稱。股肱ハ「モモ」ト「ヒヂ」ト、輔佐トナルベキ大臣ノ稱。君ハ臣ニヨリテ助ケラル。猶ホ元首ノ股肱ヲ須チテ用ヲ爲スガ如キナリ。書經、益稷「元首明哉。股肱良哉」○市道、市井交易ノ道、利ヲ重シテ義ヲ忘ルルナリ。史記、廉頗傳「天下以市道交」○天尊地卑乾坤定矣、天ハ高クシテ尊ク、地ハ低クシテ卑シ。易、繫辭上ノ語、乾坤ハ天地。○天工、自然ニナリタル「タクミ」鬼作ニ同ジ。○戕、音「シヤウ」ソコナフ「殘」○耒耜、農具、耒ハ「スキ」ノ柄。耜ハ「スキ」○財成輔相、キリモリシテ作成シ、天地ノ化育ヲタスケル。財ハ裁ニ通ズ。易、繫辭「后以財成天地之道、輔相天地之宜」

也。人君或謬謂土地人民皆我物也、而暴之、此之謂君
儉天物。

君之於臣、舉賢使能、與治天職、與食天祿、元首股肱、合成一體、此之謂義。人君若徒謂我出祿俸、以畜人、將報以赴驅使而已、則與市道何以異。

天尊地卑、乾坤定矣。君臣之分、已屬天定。各盡其職而已。故臣之於君、當不視畜養之恩何如、而厚薄其報也。

天工者、我從而賞之。戕天物者、我從而罰之。人君非容私焉。

吾五穀自生、假耒耜以助之。人君財成輔相、亦與此似。

○舊套、フルキシキタリ。○紛更、カキ亂シテ改メカヘル、紛亂更易。○勞擾、ウレヒミダス。

○社稷之臣、國家ノ安危ニ關スル重臣。社ハ土神、稷ハ穀神。國家必ズ之ヲ祀ル。故ニ國家ノ義トス。論語、季氏。孟子、盡心上。

○家翁、一齊ノ父、勸平信由、岩村侯ノ家老。○王制、禮記ノ篇名。○嫗、音「ウ」アタタム。○胸、膚嫗ハ肌ニテアタタムル。禮記ノ註「以氣曰煦、以體曰嫗」

○癸酉、文化十年。一齊四十二歲。○蒞月、陰曆十二月、蒞ハ臘ニ通ズ。○小寒、冬至ノ次ノ氣節。

○醜、音「ク」酒ニエヒテクルフ、醉狂。

三大臣之職、統大綱而已。日閒瑣事、遵依舊套可也。但發人難發之口、處人難處之事、年閒率不過數次、勿須紛更勞擾。

社稷之臣、所執二、曰鎮定、曰應機。

家翁今年齡八十有六、側多人時、神氣自能壯實、少人時、神氣頓衰脫。余思子孫男女、同體一氣、其所賴以安者、固也。不但此、老人氣乏、得人氣以助之、蓋一時氣體調和、如服溫補藥味一般。此其所以愛多人而不愛少人、因悟王制八十非人不煖、蓋謂以人氣煖之、非膚嫗之謂。癸酉蒞月小寒節後五日錄。

吾酒、穀氣之精也。微飲可以養生、矣。過飲至於狂醜、是

○人薨、人參ニ同ジ。○附子、
 「トリカブト」○巴豆、「ハヅ」支
 那ノ巴蜀ノ地ニ産スル藥草、形
 豆ノ如シ。○大黃、「ダイワウ」
 藥草、初夏ニ莖ヲ出シ綠色ノ莖
 小花ヲツク。根ヲ下劑ト爲ス。
 ○瞑眩、音「メン」ケン「藥ヲ飲
 ミテ頭目ノ昏暈（くらみかすむ）ス
 ルナリ。孟子、滕文公下ニ出ヅ。

○機緘、機ハ發動、緘ハ閉息ナ
 リ、消息トイハンガ如シ。莊子、
 天運「意者其有機緘、而不_レ得
 已耶」
 ○露宿、野宿スル。○徒爾、イ
 タヅラニノ意、爾ハ接尾語。○
 明窗淨几、アキラカナル窗ト清

因藥發病也。如人薨附子巴豆大黃之類、多服之、必致
 暎眩。飲酒發狂、亦猶此。
 薑酒之用有二。鬼神有氣無形。故以氣之精者聚之。老
 人氣衰。故亦以氣之精者養之。若少壯氣盛之人、祇足
 以致病已。

弄勤之反爲惰、儉之反爲奢。余思酒能使人生惰、又使
 人長奢。勤儉可以興家、則惰奢足以亡家。蓋酒爲之媒
 也。

吾培植草木、以觀元氣機緘之妙。何事非學。

弄登山嶽、涉川海、走數十百里、有時乎露宿不寐、有時
 乎饑不食、寒不衣。此是少實際學問。若夫徒爾明窗

キ「ツクエ」ト。

○變故、變事。○拂逆、心ニ「サ
 カラヒモトル」。○老吾才、吾ガ
 才ヲ老熟セシムル。○砥礪、音
 「シ」レ「レイ」共ニ物ヲ研グニ用
 フル。「トイシ」轉ジテ研磨スル
 義。禮記、儒行「砥礪廉隅」○
 切磋、トギミガク「詩經、衛風
 淇澳「如切如磋」切磋ハ骨角
 ヲ切リテ更ニスリミガク義。大
 學ニモ引用ス。

○教、使ナリ。○渠、彼ナリ。

淨几焚香讀書、恐少得力處。

弄凡所遭患難變故、屈辱讒謗、拂逆之事、皆天之所以
 老吾才、莫非砥礪切磋之地。君子當慮所以處之。欲徒
 免之不可。

吾古人讀經以養其心、離經以辨其志、則不獨讀經爲
 學、而離經亦是學。

六一藝之士、皆可語。

三凡與人語、須教渠說其所長、於我有益。

查凡事於吾分、不得已者、當爲之不避、可得已而不已、
 是則自我生事。

吾才猶劍、善用之則足以衛身、不善用之則足以殺身。

○商辛、殷ノ紂王。○微箕比干、微子箕子、比干ハ紂王ニ仕ヘ、諫ムレドモ聽カレズ。論語、微子「微子去之、箕子爲之奴、比干諫而死。孔子曰、殷有三仁焉」微ハ紂王ノ庶兄、箕子ト比干トハ紂王ノ諸父。故ニ賢且親トイフ。○格、正ナリ「タダス」ト訓ス。○珍、音「テン」絶ナリ「タツ」

○利者云云、論語、里仁「子曰、放於利而行、多怨」

○一套事、一ツノ同ジク似タル事、スベテ物ノ重ナル者ヲ套トイフ。衣ノ一襲ヲ套ト爲ス。

○虛懷、虛心ニ同ジ。

○懽欣、ヨロコブ。○鼓舞、之ヲ感動シテ奮發興起セシムル。

○方相氏、周禮、夏官ノ屬、古ノ神ニ像リテ疫ヲ殿ル者。熊皮ヲ蒙ルヨリ盾ヲ揚ゲマデハ、周禮ノ文。○儺、音「ダ」疫鬼ヲオフ「オニヤラヒ」論語、鄉黨ニ出ヅ。○玄衣朱裳、黒キ衣ト、朱キ裳ト。○伏陰、陽ノ中ニ隠レタル陰氣。○愆陽、天時ニタガヘル陽氣。左傳「冬無愆陽、夏無伏陰」○惟、音「クワイ」怪ノ俗字。○雜選、選音「ダフ」人ガゴタゴタト込ミ合フ、雜者ニ同ジ。○咲、笑ノ古字。○闔鄉、一村中コゾリテ。○邪慝、ネヂケテヨコシマナル心ナリ。慝ハ邪ニ同ジ。

蓋古今爲姦惡之小人、皆才過人。若商辛最是非常才子。雖有微箕比干諸賢且親、不能格其心。又不能易其位。終以斃其身而殄其世。是才之可畏也。

突辭爵祿、易不爲小利動難。

突利者、天下公共之物、何曾有惡。但自專之、則爲取怨之道耳。

突循情而制情、達欲而遏欲、是禮之妙用。

究治己與治人、只是一套事。自欺與欺人、亦只是一套事。

吉凡欲諫人、唯有一團誠意、溢於言而已。苟挾一忿疾之心、諫決不入。

聞諫者固須虛懷、進諫者亦須虛懷。

使人懽欣鼓舞、發於外者、樂也。使人整肅收斂、固守於內者、禮也。使人寓懽欣鼓舞之意於整肅收斂之中者、禮樂合一之妙也。

古者方相氏爲儺、蒙熊皮、黃金四目、玄衣朱裳、執戈揚盾、帥百隸而殿之。鄉人羣然出觀、蓋制禮者有深意焉。伏陰愆陽、結爲疫氣、欲驅除之、莫若資乎人。純陽之氣也。方相作氣率先、百隸從之。狀若怪物、然闔鄉老少、雜選聚觀、且駭且咲。於是陽氣四發、疫氣自能消散。乃至闔鄉人心、亦因以懽然和暢、無復邪慝之伏鬱於內矣。蓋其近於戲處、是其妙用所在歟。

○飲醴、醴ハ宴ニ同ジ。○在在、處處ニ同ジ、到ル處。○抑鬱、「フサガル」○發洩、發散スル、洩ハ「モラス」○疾疢、熱病。○赴時、時世ニ循フ。

○樂不至淫、論語、八佾「關雎樂而不淫」關雎ノ詩ハ純潔ナル男女ノ愛情ヲ歌ヘリ。樂ミテ而モ淫スルニ至ラズトハ孔子ノ評ナリ。○和不至流、中庸ノ語。人ニ交ルニ和合スレバ、無遠慮ニ流レ易キモ、中庸ヲ得テ失ハナイ。○移風易俗、風俗ヲ善キ方ニ移シ易ヘル。孝經「移風易俗、莫善於樂」○坊間、町中。○淫哇、ミダリガハシキ音曲。哇ハ淫聲、音「アイ」○巴

歛、巴ハ地名、俗曲ヲ巴調トイフ。歛ハ吳ノ歌。庚信ノ賦「吳歛越吟」○繳停、強ヒテサシトメル。繳、音「シヤク」

○刀稍、「カタナレト」ホコ（樂）○擊刺、擊劍。○治不忘亂、治世ニ居リテ世ノ亂ヲ忘レズシテ戒慎スル。易、繫辭「君子安而不忘危、存而不忘亡、治而不忘亂」

○管絃、琴ヤ琴瑟。○簫磬、樂器、簫ノ笛ヤ磬石。○親炙、親シク近ヅキテ其德ニ熏化スル。孟子、盡心下「而況於親炙之者乎」○感召、感動ナリ。齊書、文學傳「屬文之道、事出神恩、感召無象、變化不窮」○差繆、

齒治安日久、樂事漸多、勢然也。勢之所趨、即天也。如士女聚、歡飲讌歌舞、在在有之。固不可得而禁止。而乃強禁之、則人氣抑鬱、無所發洩、必伏為邪慝、藏為凶姦、或結為疾、疢毒瘡、其害殊甚。為政者、但當斟酌人情、為之操縱、置之於禁不禁之間、使其不至於過甚、是亦赴時之政為然。

壹人心不可無歡樂發揚處。故王者出世、必作樂以教之。使人心有所寄、樂不至淫、和不至流、風移俗易、斯無邪慝矣。當今所傳雅俗樂部、雖竝無移風易俗之用、而士君子為之、亦無不可。至如坊間詞曲、多是淫哇巴歛、有損無益。但舍此、則都鄙男女、無所可寄、以歡樂發揚、

勢亦不可繳停之。譬諸病、發揚表也。抑鬱裏也。擊表則入裏、不可救也。不若姑緩其表、以防內攻。此為政者之所宜知。

夫人君當令士人常遊於射騎刀稍之技。蓋其進退驅逐、坐作擊刺、使人心身大有所發揚。是不但治不忘亂、而又於政理有補。

老古樂不能不亡。樂其始於何世、果前乎聖人歟。若有待於聖人、而後作、則其人既亡、而其所作、安能獨保久遠。聖人德之精英、發而為樂、乃被之管絃、諧之簫磬、使聽者如親炙之。則樂之感召、以其德之寓於此也。今去聖既遠、傳之者非其人、其漸致差繆、遂以亡、亦理勢之

タガヒアヤマル。○詔、虞舜ノ作リシ音樂。論語、述而「子在齊聞韶三月、不知肉味。曰、不圖爲樂之至於斯也。」○元聲、黃鐘ノ管ヲ謂フ、其十二律ノ自リテ出ヅル所、故ニ曰フ。○太和、大樂ノ天地陰陽ノ氣ト調和スル沖和ノ氣ヲイフ。易經「保合太和」

○謙沖、ヘリクダリテ己ヲムナシクス。
○闕内、「シキミノウチ」轉ジテ都城内ノ義トシ、更ニ又後宮ノ義トス。ココハ後説ニ從ヒテ用フ。
○閨門、ヘヤノウチ。家庭ヲイフ。○好歹、「ヨシアシ」歹ハ音「タイ」俗語ノ惡ノ字。字彙「好之反也」集要「悖德逆行曰歹」○有司、部下ノ官吏。○嚴憚、オソレハベカル。

必然韶之傳於齊孔子深契於心然恐已非當時之全但、其遺音尙足以感人而今亦遂亡矣凡天地間事物生者皆死、金鐵亦滅、況乎寓於物者能保久遠乎故曰古樂不能不亡但、至於元聲太和存於天地人心者則前乎聖人後乎聖人未嘗有始終焉是亦不可不知夫一氣息一笑語皆樂也一舉手一投足皆禮也充聰明而重厚威嚴而謙沖爲人上者當如此△爲邦下手處在闕内之治禁淫靡省冗費最爲先務△人君閨門之事其好歹外人能識而竊議之故欲正風俗敦教化必起基於此△人主每事私自令則少威嚴歷有司則人嚴憚之

○庸主、凡庸ノ主君。

○虛器、名バカリノ位、君主ノ位アレドモ實權ナキヲイフ。○沿襲、義因襲ト同ジ。前例ニ循ヒテ事ヲ行ヒ、ソレガシキタリトナル義。○後昆、後世ノ子孫。

△不信大臣之言而信左右之言不聽男子之言而聽婦人之言庸主皆然△下情與下事不同君人者下情不可不通下事則不必通△全邦有道則君與大臣讓權權在於德不在於力邦無道則君與大臣爭權權在於力不在於德權在於德則權不離於上權在於力則權遂歸於下故爲政唯以德禮之爲尙△大臣弄權之風多自幼主而起權一下移不可復收主年既長仍擁虛器沿襲成風則患遺後昆矣但、大臣得其人則獨無此患耳。

○託孤之任、幼君ヲ委託スベキ重任。論語、泰伯「曾子曰、可_レ以託_レ六尺之孤、可_レ以寄_レ百里之命」○伊尹、殷ノ湯王ノ相、王崩ジテ其子太甲ヲ輔佐セリ。
○罔、亡ナリ。○寵利、恩寵ト利祿ト。伊尹ノ言ハ書經、太甲下ニ見ユ。○阿衡、殷時ノ宰相ノ官名。阿ハ倚ル、衡ハ平ラカ、天下ノ民ノ倚リテ平ラカニスル義。伊尹之ニ任ズ、因リテ又其號トス。○龜鑑、「テホン」龜ハ吉凶ヲトシ、鑑ハ鏡ニテ物ヲ照ス、皆則ルベキモノ、故ニイフ。唐書、劉蕡傳。
○不_レ歧、歧ハワカレ路、迷フコトナキ義。
○得喪、得失ニ同ジ。
○乙亥、光格天皇文化十二年(二四七五)著者四十四歳。○中秋、陰曆八月十五日。
○薄、「セマリイタル」書經、益稷「外薄四海、咸建五長」五長ハ五方ノ長。
○安排、程ヨク配置スル。沈彬詩「須知手筆安排定、不怕山河整頓難」

今當託孤之任者、迨孤主年長、則當早還權於君、以自退避。乃能君臣兩全。伊尹曰、臣罔以寵利居成功。是阿衡實踐之言、萬世大臣之龜鑑也。
 矧著眼高、則見理不歧。
 矧當今之毀譽不足懼、後世之毀譽可懼。一身之得喪不足慮、子孫之得喪可慮。
 矧已死之物、爲方生之用、既過之事、爲將來之鑒。
 矧人看月、皆徒看也。須於此想宇宙無窮之概。乙亥中秋、
 空薄於不得已、而後發諸外者、花也。
 空布置得宜、而不假安排者、山川也。
 空人須守地道。地道在敬順承乎天而已。

○四肢百骸、手足ト身體ノ全部。

○軀殼、「カラダ」○混、音「ビ」
 ン「ホロブ(滅)」○太虛、オホソラ(太空)天ヲイフ。

空耳目口鼻四肢百骸、各守其職、以聽乎心。是地順乎天也。
 空使地能承乎天者、天使之也。使身能順於心者、心使之也。一也。
 空舉目百物、皆有來處。軀殼出於父母、亦來處也。至於心、則來處何在。余曰、軀殼是地氣之精英、由父母而聚之。心則天也。軀殼成而天寓焉。天寓而知覺生。天離而知覺泯。心之來處、乃太虛是已。
 空氣有自然之形。結成體質。體質乃氣之聚也。氣人人異。故體質亦人人不同。諸其所思惟運動言談作爲、各從其氣之所稟而發之。余靜而察之、小則字畫工藝、大

○條達、木ノ枝ノ四方ニノビルガ如ク通達スル。

○社稷、社ハ土地ノ神、稷ハ五穀ノ神、轉ジテ國家ノ義トス。孟子、盡心下「民爲貴、社稷次之、君爲輕」○不可棄、スツルコトアタハズ。
○成王、周ノ武王ノ子。○周公、武王ノ弟。○三監、周ノ武王ノ弟、管叔、蔡叔、霍叔ヲイフ。武王殷ヲ滅シ、紂ノ子祿父ヲ立テ殷ノ後ト爲シ、三弟ヲシテ之ヲ監セシム。故ニ三監トイフ。○三叔助武庚以叛、三叔ハ即チ三

則事業功名其迹皆如其氣之所結而爲之形人之少長從童稚之面貌而漸以長既其長也凡發迹於外者推一氣而條達之如體軀之長大不已也故觀字畫工藝若其所結構堂室園池亦可以想見其人氣象何如充性同而質異質異教之所由設也性同教之所由立也

一〇 人君以社稷爲重而人倫殊重於社稷社稷可棄人倫不可棄

一一 或疑成王周公征三監非重社稷輕人倫乎余謂不然三叔助武庚以叛是則叛於文武矣爲成王周公者不爲文武討其罪而故縱之以黨其惡乎即仍是重

人倫矣

一二 諺云禍自下起余謂是亡國之言也不可使人主誤信之凡禍皆自上而起雖其出於下者而亦必有所致成湯之誥曰爾萬方有罪在予一人爲人主者當監此言

一三 征止十一則井田也經界不慢則井田也深耕易耨則井田也百姓親睦則井田也何必拘拘乎方里九區然後爲井田哉

一四 夏后氏而來人君皆傳於子矣是世其祿也人君既自世其祿而使臣獨不得世其祿者斯不亦爲自私乎故世祿之法天下之公也

監ナリ。武王崩ジ成王立チテ幼シ。周公冢宰ニ位シ政ヲ攝ス。三叔流言シテ曰ク「公將ニ孺子ニ利有ラザラントス」ト。武庚ト亂ヲ作ス。周公東征シテ、武庚管叔ヲ誅シ、蔡叔・霍叔ヲ放ツ。○文武、文王・武王。○故縱、「コトサラニハナチユルス」○成湯之誥、尙書、湯誥（僞古文）此語、論語、堯曰ニモ出ヅ。○萬方、四方ノ國。○監、鑑ト同ジ。

○征、賦稅。○十一、十分ノ一ヲ取ル。○經界、「サカヒ」○深耕易耨、深ク耕シヲサメクサギル、易ハ治ナリ。孟子、梁惠王。○拘拘乎、カカハル貌。○方里九區、孟子、公孫丑「方里而井、井九百畝、其中爲公田、八家皆私百畝、同養公田」○夏后氏、夏ノ代。夏ハ禪ヲ受ケテ玉タリ、故ニ后トイフ。○而來、以來ナリ。

○賁其須頤(おしがひ)ノヒゲヲ長ジ儀容ヲカザル。易經、賁卦六二ノ爻辭、須ハ鬚ノ古字。

○閒居爲不善、大學傳之六章、小人閒居爲不善、無所不至。論語、陽貨「子曰、飽食終日、無所用心、難矣哉。不有博奕者乎。爲之猶賢乎已。」トアル。小人閒居ノ害ヲ警メタマヒタル聖訓ニシテ此條ノ義ナリ。○纏綿ツキマトフ。

二五 天下事物、有理勢、不得不然者。學人或輒斥人事、目以無用、殊不知天下無無用之物、則亦無無用之事。其斥以爲無用者、安知其不爲大有用者乎。若輒一概以無用目之、則天之生萬物、一何無用之多也。有不中材之草木、有不可食之禽獸蟲魚。天果有何用而生之、殆非情量所及。易曰、賁其須、須亦將何用。

二六 凡年閒、人事萬端、算來十中七無用。但人處平世、心無所寄、則閒居爲不善、亦不少。今連貴賤男女、率爲無用纏綿驅役、以涉日、則念及不善者、或少矣。此亦其用處。蓋治安世界、不得不然、亦理勢也。

二七 欲知性之善、須先究爲惡之所由。人之爲惡、果何

「人心惟危、道心惟微」トアリ。人心ハ人ノ肉體ノ欲情ヨリ發スル心、道心ハ義理ヨリ發スル正シキ心。道心ガ常ニ主トナリテ人心ガ其ノ命ニ聽順スレバ、危キ者ハ安ク、微ナル者ハ著シクナルナリ。此條ノ義ト相發ス。

爲也。非爲耳目鼻口四肢乎。有耳目而後溺於聲色、有鼻口而後耽於臭味、有四肢而後縱於安逸、皆惡之所由起也。設令軀殼去耳目鼻口、打做一塊血肉、則此人果何所爲惡邪。又令性脫於軀殼、則此性果有爲惡之想否。盍試一思之。

二八 性稟諸天、軀殼受諸地。天純粹無形、無形則通。乃一於善而已。地駁雜有形、有形則滯。故兼善惡。地本能承乎天、以成功者、如起風雨、以生萬物是也。又有時乎風雨壞物、則兼善惡矣。其所謂惡者、亦非真有惡。由有過不及而然。性之善與軀殼之兼善惡、亦如此。

二九 性雖善而無軀殼、不能行其善。軀殼之設、本趨心

○形色天性也、孟子、盡心上。形ハ形體、耳目鼻口ノ類、色ハ形體ノ動クニツレテ表現スルモノ。此二者ハ自然ノ理方其中ニ存ス、故ニ天性ナリトイフ。即チ目(形)アレバ明(理)ナラザルベカラズ。耳(形)アレバ聽(理)ナラザルベカラザルガ如シ。○可(以)踐(形)、形色本然ノ理ヲ實踐スルヲ得ルヲイフ。凡人ハ物欲ニ蔽ハレテ天性ヲ失フモ、唯聖人ノミハ物欲ニ蔽ハレザル故、形色ノ理ヲ踐ミ得テ、天性ヲ完ウスルコトヲ得ルヲイフ。○潤、音「コン」ミダス。○膏脂、音「アブラ」九竅、竅、音「ケウ」孔穴ナリ。人體ノ九ツノ「ア」ナレバ按ズルニ陽竅七ハ耳目鼻口、陰竅二ハ前陰後陰ヲイフ。周禮疾醫ノ注「陽竅七、陰竅二」○孟子曰、盡心下。○孔子曰、論語、爲政「七十而從心所欲、不踰矩」○舜曰、書經、大禹謨「俾予從欲以治四方風動惟乃之休」願欲スル所ニ從ヒテ以テ天下ヲ治ムルヲイフ。

之使役以爲善者也。但其有形者滯則既承乎心以爲善、又由有過不及而流於惡。孟子云形色天性也。惟聖人然後可以踐形。可見軀殼亦本無不善。

三 人不能無欲。欲能爲惡。天既賦人以性之善者、而又必溷之以欲之惡者。天何不使人初無欲。欲果何用也。余謂欲者、人身之生氣膏脂精液之所蒸也。有此而生、無此而死。人身欲氣四暢、由九竅毛孔而漏出。因使軀殼熾其願。所以流於惡也。凡生物不能無欲。唯聖人用其欲於善處耳。孟子曰「可欲之謂善」孔子曰「從心所欲」舜曰「俾予從欲以治」皆就善處言之。

二 人身之生氣乃地氣之精也。故生物必有欲。地兼

善惡。故欲亦有善惡。

三 草木之有生氣、而日暢茂是其欲也。從其枝葉之所長、則欲漏。故伐其枝葉、則生氣反於根、而幹乃大如人、亦從軀殼之欲、則欲漏。欲漏則神耗、不能靈也。故窳欲於外、則生氣畜於內、而心乃靈、身亦健矣。

二 鍋內之湯、蒸成烟氣。氣漏於外、則湯減。以蓋塞之、則氣不能漏。化露滴下、湯乃不減。人能窒欲、則心身竝得其養、亦如此。

二 近代賞孝子、賜金帛粟米、以旌之。於風勵頹俗之意、則得矣。但其賞之、當原諸孝子之心。爲可。孝子之心、愛親之外、無他念。其身之艱苦、且甘受之。況敢求名乎。

○暢茂、ノビシゲル。○窳欲、私慾ヲフサグ。易、損卦象傳「山下有澤損、君子以懲忿窒欲」後錄九七條參看。

○風勵、ハゲマス。

○庭訓、家庭教育。孔子嘗テ獨
リ立ツ、伯魚趨リテ庭ヲ過グ、
孔子教フルニ詩ト禮トヲ學ブコ
トヲ以テス。因リテ父ノ教ヲイ
フ。論語、季氏。抱朴子「年十有
三、而慈父見背。夙失庭訓」

○博、取ル。○一舉而兩得之、
一事ヲ舉ゲテ兩ナガラ利スルヲ
イフ。晉書、東晉傳。

○大孝人、孟子、離婁上「瞽瞍
底豫、而天下之爲父子者定。此
之謂大孝」盡心上「舜視棄天
下、猶棄敝屣也。竊負而逃、遵

海濱而處、終身所然樂而忘天
下」○竦然、恐懼ノ貌。○備懼、
ヲノノキヲソレル。○砭刺、石
針ニテサス。○瞽瞍、メクラ。
○混然、全クホロビル。○暴白、
アラハシアキラカニスル。

○控、持シテ之ヲ告グル。詩、
廓風、載馳「控于大邦、誰因誰

故金帛粟米之賜、宜厚於其親、而薄於其子。蓋非薄於
其子。所以厚於其親者、即所以厚於其子也。賞親之辭
曰、庭訓有素。賞子之辭曰、能從庭訓。如此則孝子之素
願足矣。

二五 孝名之著、必由於貧窶艱難、疾病變故、則凡有孝
名者、率不幸人也。今若徒厚賜於孝子、而不及於親、則
於爲孝子者、幾乎資其家之不幸、以博賞微名也。其心
恐有所不安。且凡稱人之善、當必本其父兄。如此則不
獨勸其孝弟、而并以勸其慈友。可謂一舉而兩得之。

二六 古今以舜爲大孝人、舜固大孝矣。然余爲舜、不願
稱此名。舜果爲孝子歟。聞其有此名、必將竦然惴懼、不
翅膚受砭刺。蓋舜之孝名、由瞽瞍之不慈、而顯使瞽瞍
爲慈父、則舜之孝亦泯然無迹。此固其所願也。乃不得
然。故舜只憂苦百端、負罪引慝、爲父隱之思、已寧得不
孝之謗、而不使親之不慈暴白。然而天下後世論已定、
推舜以爲古今第一等孝子、而目瞽瞍以爲古今第一
等不慈。夫舜之孝名、不可磨滅、則瞽瞍之不慈、亦不可
磨滅。使舜知之、必有不勝痛苦者。故曰爲舜、不願稱此
名。

二七 上古之時、無人君、無百官、有司。人各食其力、以爲
生。殆與禽獸等耳。當是之時、強陵弱、衆暴寡、有不得遂
其生者。其間有才德出於衆者、則人必有來控、以情請

極

○億兆之君師、天子ガ一人ニシテ政治ト教化トヲ兼ヌルヲイフ。大學章句序「以爲億兆之君師、使之治而教之、以復其性」○丘民、丘ハ十六井ヲイフ、一ニ邱ニ作ル。丘民ハ田野ノ賤民。其人望ヲ得テ天子トナルヲイフ。孟子、盡心下「得乎丘民而爲天子、得乎天子爲諸侯、得乎諸侯爲大夫」

宰斷者。於是往而爲理解之。強者衆者。屈於其直。而服於其義。不敢復陵暴弱者。寡者。因以得遂其生。如此者。漸多。遂至於羣然來控。不能自食其力。勢不得不拒絕之。於是衆必相議曰。微是人。患復作。盍各出衣食。以給之。使是人無復食力之勞。則必能爲我肯專任之。衆議乃諧。以是再請。才德者。果諾之。是則君長之始。而貢賦之所由起也。如是者。彼此有之。其閒。又有才德大卓越乎衆者。次者亦皆來聽命焉。推而上之。以第一等才德者。置諸第一等地位。乃億兆之君師是也。孟子所謂得乎丘民而爲天子。意亦與此類。

二六 欲爲世閒第一等人物。其志不小矣。余則以爲猶

○濟、成就スル。○出頭人、一頭地ヲ出セル人。○古人錄中、俗ニイフ過去帳ノ中。○校、クヲブル、較ナリ。

○縮造、構造スル。
○依熱附炎、權勢アル者ニ附キ隨フヲイフ。宋史、季垂傳「見大臣不公、常欲面折之。焉能趨炎附熱、看人眉睫、以冀推轂手」柳宗元、宋清傳「炎而附、寒而棄」
○眞己、眞成（ほんたう）ノ自身。
○假己、カリノ我。

小也。世閒生民雖衆。而數有限。茲事恐非難濟。如前古已死之人。則幾萬倍於今。其中聖人賢人英雄豪傑。不可勝數。我今日未死。則似稍出頭人。而明日即死。輒忽入於古人籙中。於是。以我所爲。校諸古人。無足比數者。是則可愧矣。故有志者。要當以古今第一等人物自期焉。

二九 士當恃在己者。動天驚地。極大事業。亦都自一己締造。

三〇 喪己斯喪人。喪人斯喪物。

三一 士貴於獨立自信矣。依熱附炎之念。不可起。

三二 有本然之眞己。有軀殼之假己。須要自認得。

○惜陰、光陰ヲ愛惜スル。晉書、陶侃傳「大禹聖者、乃惜寸陰。至于衆人、當惜分陰。」○耗、段段ニヘル。○及時、及時云云、陶淵明、雜詩「盛年不重來、一日難再晨。及時當勉勵、歲月不待人。」○不則、不ハ不然ノ略。

○括、音「クワツ」ククル。不括ハ自由ナルコト。

○周官、周禮ノ異名、食醫ハ官名、天官ノ屬、調劑飲食ヲ掌ル。○食不厭精、膾不厭細、論語、鄉黨。食饍而餲、魚餒云云、肉雖多云云、亦同ジ。食ハ音「シ」飯ナリ。膾ハ「ナマス」餲ハ音「イ」飯ノ熱ニヨリテ「スユル」ナリ。餲ハ音「アイ」久シキヲ經テ味ノ變ルナリ。餒ハ音「タイ」魚ノタダレタルナリ。敗ハ腐ル。

○君臣佐使、調劑ノ法ナリ。主成分タル藥ハ君、補ヒ加フル藥材ハ臣ニシテ君ヲ輔佐スル義ナリ。即チ藥ニハ一君ニ臣三佐五使アリ。病ヲ主ル者ハ、專ラ一君ニ在リ。臣以下ハ調節シテ用ヲ爲ス。

○虛羸、虛弱ナリ。羸、音「ルキ」○需、易ノ卦名。三三乾ヲ下トシ坎ヲ上トス、乾ハ天、坎ハ水ナリ、故ニ雨天ナリト。需ハ須ナリ、時ヲ待ツ義。象傳「需于郊、不犯難行也。」○待則霽、太田道灌「急がずばぬれざらましを旅人のあとより霽るる野路の村雨」ノ意。

○丙子、光格天皇ノ文化十三年(二四七六)著者四十五歳。○一貫、一ノ仁ヲ以テ此道ヲ貫通スル。論語、里仁「子曰參乎、吾道一以貫之。」○秉彝、秉ハ執持スル、彝ハ常ナリ。人ノ常道ヲ執リ守ルヲイフ。詩、大雅烝民「天生烝民、有物有則、民之秉彝、好茲懿德。」○惻隱云云、孟子、公孫丑上「惻隱之心、仁之端也。羞惡之心、義之端也。」

三 人方少壯時、不知惜陰。雖知不至太惜。過四十已後、始知惜陰。既知之時、精力漸耗。故人爲學、須要及時立志勉勵。不則百悔亦竟無益。

三 雲烟聚於不得已、風雨洩於不得已、雷霆震於不得已。斯可以觀至誠之作用。

三 動於不可已之勢、則動而不括。履於不可枉之途、則履而不危。

三 周官有食醫、掌飲食。飲食須視爲常用藥餌耳。食不厭精、膾不厭細、即是製法謹嚴意思。食饍而餲、魚餒而肉敗、不食色惡不食臭惡不食、即是藥品精良意思。肉雖多不使勝食氣、即是君臣佐使分量意思。

三 聖人如強健無病人、賢人如攝生慎病人、常人如虛羸多病人。

三 身恆病者不覺其痛、心恆病者亦不覺其痛。

三 需雨天也、待則霽、不待則沾濡。需古文作需。丙子正月錄。

三 急迫敗事、寧耐成事。

三 茫茫宇宙、此道只是一貫。從人視之、有中國、有夷狄。從天視之、無中國、無夷狄。中國有秉彝之性、夷狄亦有秉彝之性。中國有惻隱、羞惡、辭讓、是非之情。夷狄亦有惻隱、羞惡、辭讓、是非之情。中國有父子、君臣、夫婦、長幼朋友之倫。夷狄亦有父子、君臣、夫婦、長幼朋友之倫。天寧有厚薄、愛憎於其間。所以此道只是一貫。但漢土

辭讓之心、禮之端也。是非之心、智之端也。惻隱ハ甚ダシク憐ミ痛ム心、羞惡ハ己ノ不善ヲ恥ヂ人ノ不善ヲ惡ム心。辭讓ハ自ラ辭退シ、或ハ人ニ推シ讓ル。是非ハ是ヲ是トシ非ヲ非トスル。○父子君臣云云、顧襄曰「道一而已矣。道之在天下也、猶日月一也。日月者天下之日月也、非一國所私有也。道亦然。父子君臣夫婦無國無之。而慈孝忠義有別不雜。皆存於自然、非有待於人作也。我邦列聖、保民如子、不讓堯舜禹湯。其風俗尊君親上、相愛相養、又有過唐虞三代之民、則雖無經籍、其道固具在。特末有名而教之、曰仁曰義者耳。」○橫文之俗、西洋ヲ指ス。

古聖人、發揮此道者、獨先又獨精。故其言語文字、足以興起人心。而其實則道在於人心、非言語文字之所能盡。若謂道獨在於漢土文字、則試思之、六合內、同文之域、凡有幾、而猶有治亂。其餘橫文之俗、亦能性其性、無所不足、倫其倫、無所不具。以養其生、以送其死。然則道豈獨在於漢土文字已乎。天果有厚薄愛憎之殊云乎。

一 聖人安死。賢人分死。常人畏死。

二 賢者臨物、見理當然、以為分。恥畏死、而希安死。故神氣不亂。又有遺訓、足以聳聽。而其不及聖人、亦在於此。聖人平生言動、無一非訓。而臨物未必為遺訓。視死生、真如晝夜、無所著念。

○典謨訓誥、古聖賢ノ法訓ヲイフ。書經ノ堯典・大禹謨・皋陶謨・伊訓・仲虺之誥・湯誥・大誥・康誥・酒誥・召誥・洛誥等。○顧命、書經ノ篇名。成王崩ズルニ臨ミ、回顧シテ命ヲ發スルナリ。○曾子善言、論語、泰伯「曾子有疾、孟敬子問之。曾子曰、鳥之將死、其鳴也哀。人之將死、其言也善。君子所貴乎道者三。云云」○泰山之歌、禮記、檀弓上「孔子蚤作、負手曳杖、消搖於門、歌曰、泰山其頽乎、梁木其壞乎、哲人其萎乎。既歌而入、當戶而坐。子貢聞之曰、泰山其頽、則吾將安仰。梁木其壞、哲人其萎、則吾將安放。夫子殆將病也。孔子曰、予殆將死也。蓋寢疾、七日而沒」○假托、カコツケテ作ル。○証候、病氣ノ容態。証、俗ニ症ニ作ル。

○釋老、佛教ト老子即チ道教ト。○溢然、溢、音「カフ」在忽ナリ。

一 堯舜文王、其所遺典謨訓誥、皆可以為萬世法。何遺命如之。至於成王、顧命、曾子善言、賢人分上自當如此。已因疑孔子泰山之歌、後人假托為之。檀弓、匡信多此類。欲尊聖人、而卻為之累。

二 常人平素無一善可稱、而偶有及病篤、自知不起、遺囑不亂、如賢者之為者。此則臨死一節、似可取。然一種死病証候、或有致然、是亦不可不知。

三 氣節之士、貞烈之婦、其心有所激、不敢畏死。分死者之次也。血氣之勇、輕死、狂惑之夫、甘死、則下於畏死者。又如釋老之徒、處死頗有自得。然其學畢竟亦由畏死而來。獨極大老人、生氣全盡、溢然無病以終者、則與

○揀出、エラミ出ダス。揀、音「カン」○順受之、孟子、盡心上「莫非命也。順受其正」○聽「マカス」

○幽明、アノ世トコノ世ト。幽界ト現界ト。○原、始反終、春ヲ始メトシテ之ヲ原ヌレバ、必ズ冬有リ。冬ヲ終トシテ之ニ反レバ、必ズ春有リ。死生ハ是レト類スル意。易、繫辭上傳「仰以觀於天文、俯以察於地理」是故知幽明之故。原、始反終、故知死生之說

○復性、本然ノ性ニ復ル。宋儒ノ說。蓋シ唐ノ李翱、性善門人。復性書三篇ニ淵源ス。禪ニテハ見性トイフ。

○崇、音「スキ」タタリ。神禍ナリ。○厲、タタリヲスル惡鬼。○凍、コホリテ固クナル、五ハ閉塞ナリ。○漸、氷ガ解ケテ盡キル。漸、音「シ」

○注脚、注解ナリ。困學紀聞「日用是根株、文字是注脚」古書ノ注ハ本文一行ノ間ニ二行ニ細書ス、故ニ脚トイフ。宋史、陸九淵傳「六經注我、我注六經。學苟知本、六經皆我注脚」○融會、十分ニ心ニ會得スル。

安死者無異耳。

一 生物皆畏死。人其靈也。當從畏死之中、揀出不畏死之理。吾思、我身天物也。死生之權在天。當順受之。我之生也、自然而生。生時未嘗知喜矣。則我之死也、應亦自然而死。死時未嘗知悲也。天生之而天死之。一聽乎天而已。吾何畏焉。吾性即天也。軀殼則藏天之室也。精氣之爲物也、天寓於此室、遊魂之爲變也、天離於此室。死之後、即生之前。生之前、即死之後。而吾性之所以爲性者、恆在於死生之外。吾何畏焉。夫晝夜一理、幽明一理、原始反終、知死生之說、何其易簡而明白也。吾人當以此理自省焉。

二 畏死者、生後之情也。有軀殼而後有是情。不畏死者、生前之性也。離軀殼而始見是性。人須自得、不畏死之理、於畏死之中、庶乎復性焉。

三 亡靈現形、往往有之。蓋其人於未死之時、或切思慕、或極憤恨、氣既凝結、遍身身雖死、而氣之凝結者不散。因或爲祟、爲厲、然聚者無不散之理。譬猶冬月貯水於器、凍成冰、器雖毀而冰尙存、終亦不能不漸盡。

四 方讀經時、須把我所遭人情事變、做注脚。臨處事時、則須倒把聖賢言語、做注脚。庶乎事理融會、見得學問不離日用意思。

五 一部歷史、皆傳形迹、而情實或不傳。讀史者、須要

就形迹以討出情實。

一 吾方讀書，一想古昔聖賢豪傑，體魄皆死，則俯首感愴。一想聖賢豪傑精神尚存，則開眼憤興。

二 古往歷史，是現世界。今來世界，是活歷史。

三 博聞強記，聰明橫也。精義入神，聰明豎也。

四 有一耆宿好讀書，除飲食外，手不釋卷，以至於老人皆稱篤學。以余視之，恐不濟事。渠其心常常放在書上，不收在腔子裏。人五官之用，須均齊役之，而渠精神尚注於目，目偏受其勞，而精神亦從昏聩。如此則雖能看書，而決不能深造自得，便除是放心。且如孔門之教，自終食至造次顛沛，不敢違仁。試思渠一生手不釋卷。

○耆宿，年老イテ德望アル學者。後漢書「耆宿大賢，多見廢棄」。○渠，彼ナリ。○腔子裏，身子ノ中。○尚，專ニ通ズ。○深造自得，孟子、離婁下「君子深造之以道，欲其自得之」。深造ハ深ク道ニ進ミ詣ルナリ。自得ハ之ヲ己ニ得ルヲ謂フ。○自終食云云、論語、里仁「君子無終食之間違仁。造次必於是，顛沛必於是」。終食之間ハ一飯ノ間ニテ片時ヲイフ。造次ハ倉卒ノ義。顛沛ハ將ニ倒レントスル危キ場合。○放心、物欲ノ爲ニ人心ヲ放逸スル。孟子、告子上「人

有難犬放，則知求之。有放心，而不知求。

○聞闢如，中正ニシテ和ゲル貌。聞、音「ギン」。○行行如，剛強ナル貌。○侃侃如，和ギ樂ム貌。○奄奄、氣息ノ僅ニ續ク貌。○霄壤、天地ノ如キ甚ダシキ差アルヲイフ。

○伯魚云云、伯魚ハ孔子ノ子鯉ノ字。陳亢ガ、伯魚ニ異聞有ルカト聞キシ時、異聞ハ無イガ、趨リテ庭ヲ過ギシ時、詩ト禮トヲ學ブベキコトヲ教ヘラレタト答ヘタレバ、陳亢退イテ喜ンデ曰ク、一ヲ問フテ三ヲ得タリ。詩ヲ聞キ、禮ヲ聞キ、又君子ノ其子ヲ遠ザクルヲ聞クト。論語、季氏。○易子而教、孟子、離婁上「古者易子而教之。父子之間不責善。責善則離。離則不祥莫大焉」。

放心如此，能不違仁否。

一 孔門諸子，或聞闢如，或行行如，或侃侃如，氣象何等，剛直明快。今之學者，終歲爲故紙陳編，所驅役神氣奄奄不奮，養成一種衰颯氣象。與孔門諸子霄壤。

二 伯魚趨庭，始聞詩禮。時年蓋已過二十。古者易子而教之，則伯魚必既從學矣。而趨庭之前，未聞詩禮。所學者何事。陳亢亦喜於問，一得三，則似前此未學詩禮。

此等處，學者宜深思之。
三 取信於人，難也。人不信於口，而信於躬。不信於躬，而信於心，是以難。

四 臨時之信，累功於平日。平日之信，收効於臨時。

○孚、信ナリ。信ガ十分ニ感通スル。

○責善朋友之道也、孟子、離婁下。責善トハ互ニ善行ヲ責メ合フ義。○博、取ル。

○慎獨、中庸第一章「莫見乎隱、莫顯乎微。故君子慎其獨也」獨トハ朱註「人所不知、而已所獨知之地」○接物、人ニ應接スル、物ハ人物。○恪謹、ツツシミツツシム。

一 信孚於上下、天下無甚難處事。

二 責善朋友之道也。只須懇到切至以告之。不然徒資口舌以博責善之名、渠不以爲德、卻以爲仇、無益也。

三 畜厚而發遠、誠之動物、自慎獨始。獨處能慎、雖於接物時、不太著意、而人自改容起敬。獨處不能慎、雖於接物時、著意恪謹、而人亦不敢改容起敬。誠之畜不畜、其感應之速已如此。

四 意之誠否、須於夢寐中事驗之。

五 不起妄念是敬。妄念不起是誠。

六 敬能截斷妄念。昔人云、敬勝百邪。百邪之來、必有妄念爲之先導。

○周公曰、書經、洛誥ノ語、周公ノ成王ニ語ケル言。辟ハ君ナリ、百辟ハ諸侯ヲイフ。享ハ朝享、上ニ奉ル幣物ナリ。諸侯ノ上ニ享スルニ誠有リ、僞有リ。タダ人君ノ克ク敬スル者之ヲ識ルノ意。

○脩己以敬云、論語、憲問。○壹是、「イツシ」ト讀ム、スベテ一様ニノ意。

○肚中、腹中。

○灑落、サツパリ。○越起、行キテ進マザル貌、一ニ越起ニ作ル。原本越ヲ越ニ作ル通ズ。○死敬、朱子曰ク「敬有死敬、有活敬」○甚事、「ナニゴト」

○神帥而氣從云、孟子、公孫丑上「夫志氣之帥也、氣體之充也。夫志至焉、氣次焉」

一 一箇敬、生許多聰明。周公曰、汝其敬識百辟、享亦識其有不享。既已道破。

二 敬則心精明。

三 脩己以敬。以安人、以安百姓。壹是天心流注。

四 勿錯認敬。做一物、放在胸中、不但不能生聰明、卻窒聰明。即是累。譬猶肚中有塊、氣血爲之澁滯、不流、即是病。

五 人不可無明快灑落處。若徒爾畏縮越起、只是死敬。濟得甚事。

六 胸臆虛明、神光四發。

七 耳目手足、都要神帥而氣從、氣導而體動。

○牀第、トコト「ユカ」ト。轉ジテ閨門、即チ房事ヲイフ。第音「シ」養ナリ。左傳、襄公二十七年「牀第之言、不踰闔」○不獨戒在少之時、論語、季氏「孔子曰、君子有三戒、少之時、血氣未定、戒之在色」

○規、戒ムル。

○民非水火不生活、孟子、盡心上。○飲食男女、禮記、禮運春秋、本性「出則以車、入則以輦、務以自佚。命之曰招蹶之機。肥肉厚酒、務以自強。命之曰爛腸之食。靡曼皓齒、鄭衛之音、務以自樂。命之曰伐性之斧。三患者、富貴之所致也」○戕害、ソコナフ。

○標榜、看版ヲ掲ゲテ表明スル。○釋、佛教。

一三 學者當德與齒長、業逐年廣、四十以後之人、血氣漸衰、最宜戒牀第、不然神昏氣耗、德業不能致遠、不獨戒在少之時。

一四 少壯人精固閉而不少漏、亦不可神滯而不暢、過度則又自戕焉、故得節之爲難、飲食之過度、人亦或規之、淫欲之過度、人所不伺、且難言、非自規而誰規。

一五 民非水火不生活、而水火又能焚溺物、飲食男女、人之所以生息、而飲食男女、又能戕害人。

一六 爲學標榜門戶、只是人欲之私。

一七 今之儒、勿攻今之釋、儒既非古之儒、釋亦非古之釋。

一八 儒其言而不儒其行、則其言也、祇躬自謗。

一九 泰西之說、已有漸盛之機、其所謂窮理、足以驚人、昔者程子以佛氏之近理爲害、而今洋說之近理、甚於佛氏、且其所出奇技淫巧、導人奢侈、使人不覺駸駸然入於其中、學者當亦以淫聲美色待之。

二〇 窮理二字、原本易傳、和順于道德而理于義、窮理盡性、以至于命、故吾儒窮理、唯理於義而已、義在於我、窮理亦在於我、若以徇外逐物爲窮理、恐終使歐邏巴人賢於吾儒可乎。

二一 吾俯仰而觀察之、日月昭然、揭明星辰、燦然列文、春風和煥、宣化雨露、膏澤洽物、霜雪氣凜、然肅雷霆。

○窮理、理化學。○奇技淫巧、アヤシクミダラナル手ワザ。書經、泰誓「作奇技淫巧、以悅婦人」○駸駸然、進ム貌。○淫聲、ミダラナル音樂。列女傳「目不視邪色、耳不聽淫聲」

○窮理二字、物ノ理ヲ窮メ明カニスル。易經、說卦傳「窮理盡性、以至於命」

○俯仰而觀察、易、繫辭上「易與天地準、故能彌論天地之道、仰以觀於天文、俯以察於地理」○燦然、キラキラト明カナル貌。○和煥、ノドカニアタタカ。

○幹旋、圓轉ナリ、事ヲ程ヨクトリモツ義。

○交易、易經、本義「易卦、本伏義所畫、有交易、變易之義、故謂之易」。交易トハ陰ガ陽ニ交リ、陽ガ陰ニ交ルガ如キ對待ノ易ナリ。變易トハ、陰ガ變ジテ陽トナリ、陽ガ變ジテ陰トナルガ如キ流行ノ易ナリ。

○市廛、町内、廛六店ニ同ジ。○誘、ユダヌ、委ナリ。○食、生財有大道。生之者衆、食之者寡、爲之者疾、用之者舒、則財恆足矣。舒ハ疾ノ反對、緩カナリ。

威赫然震、山嶽安靜不遷、河海弘量能納、谿壑深不可測、原野廣無所隱、而元氣生生不息、幹旋於其間、凡此皆天地一大政事、所謂天道至教、風雨霜露、無非教者、人君最宜體此。

一 天下之體、以交易而立、天下之務、以變易而行。

二 吾觀古今人主、志存文治者、必創業、不忘武備者、能守成。

一 國家於食貨無遺策、連園田山林市廛、無尺地欠租入、金銀銅竝寘、鑄出不知日幾萬計、而當今上下困弊、財帛不足、或謂奢侈所致、余則謂不特此蓋以治安日久、貴賤人口繁衍、比諸二百年前、恐不翅十數倍。

衣食之者逐年增多、生之者不給、勢必至於此、然則困弊如此、亦由於治安之久、是可賀、非可歎、但有世道之責者、不可徒諉諸時運、而不慮所以救之方、其方亦無別法、可設、唯不過曰食之者寡、用之者舒、生之者衆、爲之者疾、而至於制度一立、上下守之、措置得宜、士民信之、則蓋存乎其人矣。

一 世有小人、亦理也、小人可小知、不賢者識其小者、是亦天地間不可無是人、或謂堯舜之民、比屋可封、則過甚、但唐虞之世、雖有小人、皞皞自得、各安其分而已。一方以類聚、物以羣分、人君以國爲黨者也、苟不能然、下各自相黨、是必然之理也、故下有朋黨、君道之衰。

○小知、小事ニ通ジ知ル。論語、衛靈公「小人不可大受、而可小知也」。○堯舜之民、比屋可封、漢書、王莽傳ノ語、民ヲ世ニ作ル。堯舜ノ世ノ民ハ、家毎ニ侯ニ封ズベシ。一本ニ比屋ヲ屋比ニ作ル。○唐虞之世、堯舜時代、堯ハ陶唐氏、舜ハ有虞氏。○皞皞、廣大自得ノ貌。孟子、盡心上「王者之民、皞皞如也」皞一ニ皞ニ作ル。

○方以類聚云云、易、繫辭上傳

ノ語。方トハ事情ノ向フ所ヲイフ。事物ノ善惡ハ類ヲ以テ聚リ、羣ヲ以テ分ルルニ由リテ吉凶ガ生ズルナリ。

○聰明容知、聖人ノ四德。聰ハ聽カザル所ナク、明ハ見ザル所ナク、容ハ通ゼザル所ナク、知ハ知ラザル所ナシ。易、繫辭上傳「古之聰明容知、神武而不殺者夫」此章ハ大學章句序「一有聰明睿智能盡其性者、出於其間、則天命之、以爲億兆之君師、使之治而教之、復其性」トアルニ本ヅク。君師トハ、一人ニシテ治教ノ兩事ヲ兼ヌルナリ。

○五倫之日、孟子、滕文公上篇「父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信」○悞、誤ナリ。

○乾道、坤道、乾道ハ天道、坤道ハ地道ナリ。易ノ乾卦ト坤卦トニ詳説ス。

也。亂之兆也。

三 聰明容知能盡其性者、君師也。君之誥命、即師之教訓、無二也。迨世之下、君師判焉。師道之立、君道之衰也。故五倫之目、有君臣而無師弟、非無師弟、君臣即師弟、不必別立目。或謂朋友兼師弟者、悞。

天 爲邦之道、不出於教養二途。教、乾道也。父道也。養、坤道也。母道也。

五 辨虛實強弱、而後劑可投。知時世習俗、而後政可施。

六 見一物之是非、而不問大體之是非、拘一時之利害、而不察久遠之利害、爲政如此、國危矣。

○駕馭、馬ヲ御スルガ如クツカヒオサメル。

○候、待ナリ。○幾、時機。

○便己、己ニ勝手ナル事ヲ爲ス。利己ニ同ジ。○挾、ソレヲ心ニサシハサミ持チテ特ミトスル。

○聒聒騰口、ヤカマシク口ニノボス。

○饒舌、シヤベル、多言ヲイフ。傳燈錄「豐干饒舌」○氣暴、孟子、公孫丑上「持其志、無暴其氣」マタ「其爲氣也、配義與道、無是餒也」トアルニ本ヅク。暴トハ殘害(そご)スル義。餒トハ饑エテ氣ガ體ニ充タザル義。

一八 人情氣機、不可以一定求。誘之而勸、禁之而遏、順也。導之而反阻、抑之而益揚、逆也。是故駕馭之道、當察其向背、審其輕重、因勢而利導之、應機而激勵之、使其不自覺其所以然、此之爲得。

一三 遇難處之事、不得妄動、須候幾至、而應之。

一三 處事雖有理、而一點便己、挾在其內、則於理即做一點障礙、理亦不暢。

一四 教人者、要須責其志、聒聒騰口、無益也。

一五 饒舌之時、自覺氣暴、暴斯餒、安能動人。

一六 慎言處、即慎行處。

一七 昏睡發嚙語、足見心之不存。

○曠語、「ネゴト」タハゴト「夢中ニ知ラズシテ發スル」コトバ

○諺曰、傳玄ノ口銘「病從口入、禍從口出」

○放從、放ハ傲ノ古字。從ハ縱(正)シマシノ古字。此二句ハ禮記、曲禮ニ出ヅ。○大學教情、大學「之其所放情」而辟焉。○人往往疑之、伊藤仁齋、物徂徠等ヲ指ス。
○枚乘、前漢ノ淮陰ノ人。景帝ノ時、吳王濞ノ郎中トナル。吳王ヲ諫メテ納レラレズ、去リテ梁ニ之ク、梁ノ孝王尊ビテ上客ト爲ス。景帝召シテ弘農ノ都尉ニ拜ス。此語ハ諫「吳王書中ニ

出ヅ。○薛文清、明ノ大儒薛瑄、敬軒ト號ス、文清ハ其ノ諡。讀書錄・從政名言等ヲ著ス。原本清ヲ靖ニ作ルハ非。○闕、ウカガフ。
○游藝、藝ハ音樂、射、御、書、數ノ類。游ハ優游シテ情意ヲ適樂セシムル。論語、述而「游於藝」
○博奕、圍碁、雙六ノ類。論語、陽貨「子曰、飽食終日、無所用心、難矣哉。不有博奕者乎、爲之猶賢乎已」

○自反、自ラ反省スル。孟子、公孫丑上「自反而縮、雖千萬人吾往矣」
○禹聞善言則拜、夏ノ禹王ハ人ノ善言ヲ聞ケバ、則チ已ヲ屈シ拜謝シテ之ヲ受ク。孟子、公孫丑上。
○人心道心、書經、大禹謨「人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執其中」道心トハ義理ヨリ發スル心ヲイフ。佛經ノ菩提心ニ同ジ。人心ハ私欲ヨリ發スル心。

一八 病狂人言語無序。則言語無序者其去病狂也不遠。

一九 人最當慎口。口之職兼二用。出言語納飲食是也。不慎於言語足以速禍。不慎於飲食足以致病。諺云禍自口出病自口入。

二〇 同此軀殼則同此情。聖賢亦與人同耳。故其訓曰。教不可長。欲不可從。教欲亦是情種。何必斷滅之。只是不可長不可從而已。大學教情。人往往疑之。吾不謂然。

二一 枚乘曰欲人無聞莫若勿言。欲人無知莫若勿爲。薛文清以爲名言。余則以爲未也。凡事當問其心何如。心苟有物已雖不言人將聞之。人雖不聞鬼神將

闕之

二二 心猶火。著物爲體。不著於善則著於不善。故游藝之訓不特導諸善而又所以防不善也。博奕之賢乎已亦以此。

二三 理到之言人不得不服。然其言有所激則不服。有所強則不服。有所挾則不服。有所便則不服。凡理到而人不。服君子必自反。我先服而後人服之。

二四 禹聞善言則拜。中心感悅自然能如此。拜字最善。狀猶言膝不覺屈。

二五 人心惟危則堯舜之心。卽桀紂矣。道心惟微則桀紂之心。卽堯舜矣。

○六合、天地四方ヲイフ。○俯
瞰、ウツブキテ下ヲウカガヒ見
ル。○彈丸黒子、「ハジキダマ」
ト黒キ一ツノ「アザ」極メテ微
小ナル物ノ喩。庾信ノ賦「地惟
黒子、城惟彈丸」○渾然、一ツ
ニカタマリテ角立タザル貌。
○靈昭不昧、心ガ極メテ靈明ニ
シテ一點ノ昧キ所ナキヲイフ。
大學ノ明德ノ朱註「明德者、人
之所得乎天、而虛靈不昧、以具

衆理、而應萬事者也」○惕、音
「テキ」オソル

○分數、天ノ數ニシテ、分量又
ハ分限ノ義。○相若、相似タル
ヲイフ。○脩短、長短ニ同ジ。
○就、即ニ同ジ。○博學・審問
云云、中庸「博學之、審問之、慎
思之、明辨之、篤行之」之トハ
廣ク學ブ所ノ事ヲ指ス。○人一
十之、已百千之、中庸「人一能
之、己百之、人十能之、己千之」
果能此道矣、雖愚必明、雖柔必
強」○算籌、算ハ算木、籌ハ數
取、算盤勘定ノ義、轉ジテ運命、
又ハ考慮ノ意ニ用フ。

○參養、贅澤ナル生活、參、音
「ケン」養ナリ。○有所挾、挾ハ

一矣 水氣結爲魚鼈、魚鼈即水也。而魚鼈不自知其爲
水。山氣結爲禽獸、爲草木、禽獸草木、即山也。而禽獸草
木、不自知其爲山。地氣之精英結爲人、人即地也。而人
不自知其爲地。

一焉 人與萬物、畢竟不能離地。人物皆地也。今試且
游心六合外、以俯瞰世界、但見世界如一彈丸黒子、
而人物不可見。於是思察此、中有川海、有山嶽、有禽獸
草木、有人類、渾然成此一彈丸。著想到此、乃知人物之
爲地。

一矣 此心靈昭不昧、衆理具萬事出、果何從而得之。吾
生之前、此心放在何處。吾歿之後、此心歸宿何處。果有
生歿歟、無歟。著想到此、凜凜自惕、吾心即天也。

一矣 人所受之氣、其厚薄分數、大抵相若。如軀之大小、
壽之脩短、力之強弱、心之智愚、無大相遠者。其間有一
處受厚者、皆謂之非常。非常則姑置之。就如常人、軀與
壽與力之分數、不可奈之何。獨至於心之智愚、可以學
而變化之。故博學、審問、慎思、明辨、篤行、人一十之、己百
千之。果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強。可以漸進於非
常之域。蓋有此理矣。但常人多遊惰、不能然。豈亦天有
算籌歟。

一焉 有名之父、其子不墜家聲者、鮮矣。或謂世人推尊
其父、因及其子。爲子者、長於參養、且有所挾、遂養成傲

有、たもつ、特、たのむ、ト、ノ、二、義、ヲ、兼、ヌ。我、ガ、有、チ、物、ト、シ、テ、自、ラ、心、ニ、恃、ム。コ、コ、ハ、其、ノ、父、ノ、名、高、キ、ヲ、恃、ム、ナ、リ。孟、子、萬、章、下、不、挾、レ、長、不、挾、レ、貴、不、挾、レ、兄、弟、而、友、友、也、者、友、其、德、也。不、可、以、有、レ、挾、也。○歎、音、ケ、ン、實、ノ、ラ、ズ、シ、テ、乏、シ。○乘、除、増、損、ノ、意。

○裁、音、サイ、災、ニ、同、ジ。○讓、神、明、ニ、禱、リ、テ、災、厄、ヲ、除、ク。○有、レ、數、キ、マ、リ、タ、ル、天、命、ガ、ア、ル。○趨、避、福、ニ、趨、ハ、お、も、ひ、キ、禍、ヲ、避、ク。○博、カ、フ、レ、貿、易、ナ、リ。○君、子、順、受、其、正、孟、子、盡、心、上、莫、非、レ、命、也、順、受、其、正、君、子、ハ、天、理、ニ、順、ヒ、テ、以、テ、身、ヲ、修、メ、自、然、ニ、至、ル、正、シ、キ、命、數、ヲ、俟、ツ。

○理、氣、宋、儒、ノ、說、ニ、テ、天、地、間、ニ、ハ、先、ヅ、理、ア、リ、然、ル、後、氣、ア、リ、テ、物、ヲ、生、ズ、ル、ト、爲、ス。理、ハ、本、體、ノ、眞、理、氣、ハ、其、ノ、現、象、ヲ、イ、フ。朱、子、語、類、天、地、之、間、有、理、有、氣、理、也、者、形、而、上、之、道、也、生、物、之、本

也。氣也者、形而下之器也、生物之具也。是以人物生、必稟此理、然後有性、必稟此氣、然後有性。○對待、兩方、方、並、比、峙、ツ、義。張、憲、ノ、詩、萬、古、晨、昏、常、對、待、ル、コ、ト。孟、子、公、孫、丑、上、德、之、流、行、速、於、置、郵、而、傳、命、○相、耦、互、ニ、ナ、ラ、ヒ、合、フ。○召、公、名、ハ、爽、周、ノ、成、王、ノ、時、周、公、ト、並、ビ、仕、ヘ、テ、輔、佐、ノ、功、ア、リ。○無、疆、惟、休、今、王、ガ、命、ヲ、受、ケ、テ、天、子、ト、ナ、ル、ハ、限、リ、ナ、キ、ノ、美、ア、レ、ド、モ、亦、限、リ、ナ、キ、ノ、憂、ア、ル、ヲ、イ、フ。休、ハ、美、恤、ハ、憂、ナ、リ。語、ハ、書、經、召、誥、ニ、出、ヅ。○乾、以、易、知、坤、以、簡、能、易、繁、辭、上、傳、ノ、語、下、ニ、易、則、易、知、簡、則、易、從、○良、知、良、能、良、ト、ハ、本、然、ノ、善、孟、子、盡、心、上、人、之、所、不、學、而、能、者、其、良、能、也。所、不、慮、而、知、者、其、良、知、也。○太、極、天、地、未、ダ、分、レ、ザ、ル、以、前、ヲ、イ、フ。易、繫、辭、上、傳、易、有、太、極、是、生、兩、儀、兩、儀、ハ、天、地、即、チ、乾、(陽、坤、(陰)、ヲ、イ、フ。○宇、宙、天、地、ヲ、イ、フ。

情之性。故多不肖。固非無此理。而不獨此。父既非常人。寧不慮及豫爲之防。畢竟不能反之。蓋亦有數矣。試思之。就如草木。今年結實過多。則明年必歉。人家乘除之數。亦有然者。

人罹裁患。禱鬼神以禳之。苟以誠禱。或可以得驗。然猶惑也。凡天來之禍福。有數不可趨避。又不能趨避。鬼神之力。縱能一時禳之。而有數之禍。竟不能免。天必以他禍博之。譬如頭目之疾。移諸腹背。何益之有。故君子順受其正。

吉凶以理言之。君子常吉。小人常凶。以氣言之。有流行。有對待。如盛衰迭至。是流行也。憂樂相耦。是對待

也。

天下之憂。集於一身。非凶乎。天下之樂。歸於一身。非吉乎。享天下之樂者。必任天下之憂。則吉凶果何所定歟。召公云。無疆惟休。亦無疆惟恤。

乾以易知。良知也。坤以簡能。良能也。乾坤統於太極。知能一也。

看來宇宙內事。曷嘗有惡。有過不及處。即是善。看來宇宙內事。曷嘗有善。無過不及處。即是善。

萬物相待爲用。不能相兼。是亦其所以爲一體。形質相似者。氣性亦相類。人與物皆然。

相法。非沒道理。然其惑人不。故君子不爲也。苟

○沒、無ナリ。○非相、荀子ノ非相篇、人相ヲ見ルノ非理ナルコトヲ詳ル。曰ク「相、人古之人無有也、學者不道也」。○武斷、己ノ意ヲ擅ニシテ獨斷スル。○百獸率舞、音樂ノ妙ナルニ感ジテ衆クノ獸ガ引キ連レテ舞フ。書經、益稷「擊石拊石、百獸率舞、庶尹允諧」。庶尹允諧ハ衆クノ百官ノ長ガ信ニ皆和ギ諧フヲイフ。

○手舞足踏、喜ノ極リテ舞蹈スルニ至ル。禮記、樂記「不知手之舞之、足之踏之」。○亂雅樂、淫猥ナル鄭衛ノ音樂ガ正雅ナル音樂ヲ亂ス。論語、陽貨篇「惡鄭聲之亂雅樂也」。○魏文侯云、禮記、樂記「魏文侯曰、吾端冕而聽古樂、則唯恐臥、聽鄭衛之音、則不知倦」。○雅操、正シキ音樂。

○節奏、音樂ノフシ。○伶工、樂人。○大師、樂官ノ長。○孔子語之、論語、八佾「子語魯大師樂曰、樂其可知也。始作翕如也。從之喤如也。桴如也。響如也。以成」。翕如ハ八音ヲ齊シクテ絶エザルナリ。

合奏スル。純如ハ衆音調和シテ一ノ如クナルナリ。桴如ハ金ハ金、石ハ石ト衆音ガ判然トシテ明カナルナリ。釋如ハ聯リ續キテ絶エザルナリ。

○一喘一息、一ツノ「アエギ」一ツノ「イキ」。○皆父母也、禮記、祭義「曾子曰、身也者父母之遺體也」。○祖會高、祖父ト曾祖父ト高祖父トノ略。○孫會、曾孫ト曾孫ト支孫ト。○遞而下之、次第ニ下ノ子孫ニ推シ及ボセバノ意。○九族、高祖父會祖父・祖父・父・己・子・孫・曾孫・玄孫ヲイフ。書經、堯典「克明俊德、以親九族」。○念頭、考ヘ思フ心。

○蟣蝨、蟣、音「キ」、蝨ノ子。蝨、音「シツ」。シラミ。淮南子、說林「大庖既成、燕雀相賀、湯沐既具、蠹蟣相弔」。○刷除、ハラヒノゾク。○大人、大徳ノ人、マタ

卿、非相言、雖武斷、而亦說破痛快。

二〇 雅樂感召之妙、至於百獸率舞、庶尹允諧、蓋使聽者不覺手舞足踏、何曾思睡。如鄭衛淫哇、亦使人手舞足踏、故足以亂雅樂耳。乃知魏文侯聽古樂、唯恐臥者、恐已非先王之雅操。

三〇 雅樂秘訣、在聲音節奏之外。尋常伶工、固不及知。唯大師或可與語。故孔子語之。聖人以天地萬物爲一體、故其所作之樂、亦自與天地同流。春氣始至、萬物向榮、見諸翕如。暢茂條達、大和畢呈。見諸純如。結實成形、條理明整。見諸桴如。剝落於外、胎孕於內。見諸釋如。蓋其妙有與四時合其序者、如是。唯夫子能知之。故語以

洩其祕不然、大師既是大師矣。聲音節奏、彼所熟講。雖夫子、烏能倒誨之邪。

三三 須知親在時、親身即吾身、親沒後、吾身即親身。則自不得不以自愛之心、愛親、以敬親之心、自敬。

三三 吾靜夜獨思、吾軀、一毛一髮、一喘一息、皆父母也。一視一聽、一寢一食、皆父母也。既知吾軀之爲父母、又知我子之爲吾軀、則推而上之、祖會高無非我也。遞而下之、孫會玄無非我也。聖人親九族、其起念頭處、蓋在此。

三三 體膚垢汚、化爲蟣蝨、不得不刷除。又思念此物、亦爲吾皮毛之末、所生、猶不忍殺大人之心、以天地萬物

聖人ヲイフ。易經「大人者、與天地合其德」○一般、一樣即チ同ジキ義。

○方寸内、心ノ中ヲイフ。○中和位育、中庸「喜怒哀樂之未發、謂之中、發而皆中節、謂之和中也者、天下之大本也。和也者、天下之達道也。致中和、天地位焉、萬物育焉、天地位ハ天地各、其位ニ安ンジ、風雨寒暑其時ヲ失ハザルヲイフ。萬物育ハ萬物各、其生育ヲ遂グルヲイフ。

○事君不忠云云、曾子ノ語、禮記、祭義ニ出ツ。

○克伐怨欲、克ハ人ニ勝ツコトヲ好ム、伐ハ自ラ其功ニ伐(は)ル、怨ハ心ニ不平多ク怒リ恨ム、欲ハ貪欲ナリ。論語、憲問「克伐怨欲、不行焉、可_レ以爲仁矣。子曰、可_レ以爲難矣。仁則吾不知也。」○張公藝云云、唐書、張公藝傳「張公藝九世同居、北齊隋唐、皆旌表其門。麟德中、高宗封泰山、幸其宅、召見公藝、問其所_レ以能

爲一體。其恤刑慎罰、卽是與此念頭一般。

二四 深夜獨坐閤室、羣動皆息、形影俱泯。於是反觀、但覺方寸内有炯然自照者。恰如一點燈火、照破閤室。認得此正是我神光靈昭本體、性命卽此物、道德卽此物。至於中和位育、亦只是此物、光輝充塞宇宙處。

二五 孝子卽忠臣、賢相卽良將。

二六 事君不忠、非孝也。戰陳無勇、非孝也。曾子孝子、其言如此。彼謂忠孝不兩全者、世俗之見也。

二七 忍字、未拔去病根。所謂克伐怨欲不行者也。張公藝書百忍字、恐俗見。

二八 心上有刃、忍字非好字面。但借做喫緊寧耐、可

也要亦非道之至者。

二九 多一物、斯多一事。多一事、斯多一累。

三〇 衆人以爲幸者、君子或以爲不幸。君子以爲幸者、衆人卻以爲不幸。

三一 私欲不可有。公欲不可無。無公欲、則不能恕人。有私欲、則不能仁物。

三二 因民義以激之、因民欲以趨之、則民忘其生、而致其死。是可以一戰。

三三 漸必成事、惠必懷人。如歷代姦雄、有竊其祕者、一時亦能遂志、可畏之至。

三四 匿情似慎密、柔媚似恭順、剛愎似自信、故君子惡

陸族之道、公藝請紙筆以對。乃書忍字百餘、以進。其意以爲宗族所_レ以不協、由尊長衣食、或有不均、卑幼禮節、或有不備、更相責望、遂爲乖爭。苟能相與忍之、則家道雍睦矣。○非好字面、殘忍ノ意アルガ故。○喫緊寧耐、一所懸命ニ忍耐スル。

○匿情、邪惡ノ心情ヲ内ニ匿シテ見(み)ハサザルヲイフ。

○問目、質問ノ項目。○叩問、質問。○症、病ノ容態。○處劑、藥ヲ調合スル。○懿子、武伯子游子夏、懿子ハ孟孫氏、名ハ何忌。魯ノ三家ノ一。武伯ハ懿子ノ子。子游、姓ハ言、名ハ偃。子夏、卜商ノ字。共ニ孔子ノ高弟。論語、爲政「孟懿子問孝。子曰、無違」。孟武伯問孝。子曰、父母唯其疾之憂」。子游問孝。子曰、今之孝者、是謂能養、至於犬馬、皆能有養。不敬、何以別乎」。子夏問孝。子曰、色難。有事弟子服其勞、有酒食先生饌。曾是以爲孝乎」。○所問同、共ニ孝ヲ問ヒタルヲイフ。

事君之公事。是事天之職分也。

一 孔門之學、端在躬行。門人問目、皆舉己所當爲、質之。非如後人、執經叩問、故夫子之答之、亦人人異。大抵皆矯偏救弊、裁長補短、以歸諸正而已。譬猶良醫對症處劑、症人人異、故劑亦人人異。懿子、武伯、子游、子夏所問同、而答各不同、亦可以想當時之學。

二 經書文字、以文字注明之可也。意味、則當以我心透入得之、畢竟不能著文字。

三 窮經須要考據於此心、引證於此心。如徒就文字上考據引證、輒謂窮經止此、則陋甚。

四 窮經必有義理文理湊合處。一以吾識斷之、斯爲

得。

一 先儒經解、謬誤、不得不訂正。但須出於不得已、不容有好奇異之念。

二 讀書法、當師孟子三言。曰、以意逆志。曰、不盡信書。曰、知人論世。

三 講經之法、要簡明、不要煩悉。要平易、不要艱奧。只須使聽者得大意、分曉可也。至深意處、則畢竟非口舌所能盡。但或察識子弟受病處、閒及餘意、替聖賢口語、一二箴砭、使其頗有所省悟、亦儘好。若夫箴弄口舌、縱橫辨博、使聽者解頤忘疲、則非講經本意。

四 不定而定、謂之无妄。宇宙間、唯有此活道理、充塞

○以意逆志、己ノ意ヲ以テ作者ノ志ヲ迎ヘ取ル。孟子、萬章上「說詩者、不以文害辭。不以辭害志。以意逆志、是爲得之」。○不盡信書、孟子、盡心下「孟子曰、盡信書、則不如無書。吾於武成、取二三策而已矣」。○知人論世、孟子、萬章下「以友天下之善士、爲未足、又尚論古之人。頌其詩、讀其書、不知其人、可乎。是以論其世也。是尙友也」。尙友トハ上リテ古人ヲ友トスル。

○箴砭、箴ハ鍼ニ同ジ、砭ハ「イシバリ」共ニ病ヲ治ムルニ用フ。轉ジテ人ヲ戒メル義。○箴弄、箴ニテアフル如クオモチヤニスル。○解頤、感服シテ口ヲ開キ、惘然トシテ自失セシム。轉ジテ俗ニ大ニ笑フ義トス。漢書、匡

衡傳「衡好學、尤精力過絕人。諸儒爲之語曰、無說詩、匡鼎(まさじ)來、說詩解人頤。」

○不定而定、宇宙間ノ萬物ハ不定ナルガ如クニシテ自ラ一定不變ノ理ガ貫通スルヲイフ。即チ時ト處ト位トニ隨ヒ、千變萬化スレドモ、而モ安動セズ。即チ天理、即チ誠、之ヲ無安トイフ。

○物與ニ無安、易、無安卦ノ象辭「天下雷行、物與ニ無安」無安ハ

ナリ、天ノ下ニ雷行クノ象アリ。カクシテ陰陽交和シ、相薄リテ聲ヲ成ス。是ニ於テ蟄藏ヲ驚シ萌芽ヲ振ヒ、萬物ヲ發生シテ、其賦與スル所、大小高下、各其性命ヲ正シクシテ、差安アルコト莫シ。是レ物ゴトニ無安ヲ賦與スルナリ。

○消長、盛衰ノ義。
○盡於人、人トシテ爲ス可キ事ヲ十分ニ爲シ盡ス。○聽於天、天命ニ從ヒテ、ソレニマカス。
○天來、自然ノナリニキ。○天奪之魄、天ガソノ人ノ精魄ヲ奪ヒテ喪ハシムル。左傳、宣公十

五年「不及十年、原叔必有天奪之魄之矣。」○天誘之衷、衷ハ中心ナリ。天ガソノ人ノ中心ヲ開キ導キテ、善ヲ爲サシムル意。左傳、僖公二十八年「今天誘其衷、使皆降心相從也。」

○太極、天地ノ未ダ開ケザル時ヲイフ。易、繫辭上傳「易有太極、是生二儀、兩儀生四象、四象生八卦、八卦定吉凶。」兩儀ハ陰ト陽トヲイヒ、四象ハ少陽、老陽、少陰、老陰ヲイヒ、八卦ハ乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤ヲイフ。

焉。萬物得此、以成其性。所謂物與無安也。

物固活也。事亦活也。生固活也。死亦活也。

天定之數、不能移動。故人生往往負其期望、而趨其所不期望。吾人試反顧過去、履歷可知。

世有君子、有小人。其迭相消長者、數也。數之所以

不得不然者、即理也。理有可測之理、有不可測之理。要

之皆一理也。人當安於可測之理、以俟於不可測之理。是

人道也。即天命也。

凡作事、當盡於人、而聽於天焉。有人平生放懶怠

惰、輒謂人力徒勞無益。數誘於天來、則事必不成。蓋是

人、天奪之魄、使然。畢竟亦數也。有人平生敬慎勉力、乃

謂、人理不可不盡。數俟於天定、則事必成。蓋是人、天誘

之衷、使然。畢竟亦數也。又有盡於人、而事不成。是理可

成而數未至者。數至則成、不盡於人、而事偶成。是理不

可成而數已至者。終亦必致敗。要之皆數也。成敗有不

於其身、而於其子孫者、亦數也。

數始於一、而成於十。十復歸於一。大而百千萬億、

小而分釐毫絲、皆一十之分合、以至無窮也。易自太極

而起、至四象、而數略具。以其一二三四之積、始成十也。

就十中、除老陽位一、則餘九。故九爲老陽之數。就十中、

除少陰位二、則餘八。故八爲少陰之數。就十中、除少陽

位三、則餘七。故七爲少陽之數。就十中、除老陰位四、則

○天地之數、天地陰陽、自然、奇偶ノ數ヲイフ。易、繫辭上傳「天一、地二、天三、地四、天五、地六、天七、地八、天九、地十、天數五、地數五、五位相得而各有合。天數二十有五、地數三十。凡天地之數五十有五、此所以成變化而行鬼神也」

○著、「メドハキ」用ヒテ以テ筮ス。今ハ竹ヲ以テ之ニ代フ。即チ筮竹。○四十九、易、繫辭上傳「大衍之數五十。其用四十有九云云」筮スル時ニハ四十九本ヲ用フ。○竝未定也、著ノ數ト卦ノ數ト共ニ定マラザルナリ。○虛「其一、五十本ノ筮竹ノ中ヨリ、一本ヲ取り去ル。○著之德

餘六。故六爲老陰之數。又自一至十之積、則成五十五。謂之天地之數。今試屈伸五指、數之、先自大指屈爲一、食指爲二、中指爲三、無名指爲四、小指爲五、再自小指伸爲六、六與五、即十一。無名指爲七、七與四、即十一。中指爲八、八與三、即十一。食指爲九、九與二、即十一。大指爲十、十與一、即十一。每一指、皆十一、合五指、而成五十五。則天地之數、蓋既具於掌中矣。又就天地之數、以其五十充著數、餘五、虛之以擬卦位、卦位六虛、五則一不足。著用四十九、五十則一有餘。竝未定也。方筮時、著虛其一、蓋去其有餘、歸之於不足。是感應之幾也。乃著數退成四十九、而卦位進具六虛、以待於六十四數。於是

圓而神、易、繫辭上傳「著之德、圓而神。卦之德、方以知。知ハ智ニ通ズ。本義ニ「圓ニシテ神トハ變化无方ナルヲ謂フ」。○卦之德方以智、本義ニ「方ニシテ知トハ事ニ定理有ルヲ謂フ」。○悔吝、クヤムト、シクジルト。易、繫辭上傳「吉凶者、失得之象也。悔吝者、憂虞之象也」。本義ニ「憂虞ハ事ノ變ナリ。得レバ則チ吉、失ヘバ則チ凶ナリ。憂虞ハ未ダ凶ニ至ラズト雖モ、然レドモ已ニ以テ悔ヲ致シテ差ヲ取ルニ足レリ、悔ハ凶ヨリシテ吉ニ趨ク。吝ハ吉ヨリシテ凶ニ向フナリ」

定矣。著之德、圓而神。故七其七。卦之德、方以智。故八其八。用七求八、得九與六、以推吉凶悔吝之所趨。凡是數理之祕也。不獨易爲然、而萬物之數、亦皆不越於此。

文政癸未嘉平月 福知山城主源綱條校字

言志錄

○浪華副鎮、大阪城代ノ副官。
○久遠「教範」久シク御目ニカカ
ラヌ。○面命耳提、耳ヲ提ケテ
面前ニ之ヲ命ズル。懇切ニ教諭
スル義。詩經、大雅抑「匪面
命之、言提其耳」

○甲申、文政七年。○春仲月、
陰曆二月。○下浣、浣ハ澣ニ同
ジ。唐ノ時十日毎ニ休沐ヲ賜フ。
故二十日ヲ澣トイフ。下浣ハ下
旬ニ同ジ。○麻舍、官舍。

余受學於一齋先生有年矣。今茲承乏於浪華副鎮、久
違教範。因出此錄日讀數章沈潛而玩味之、猶之面命
耳提也。凡有志於學者皆當正其趣向、況於有邦有土
者乎。吾觀世之號稱好學者或馳虛文而無實得、或流
功利而失正路。其於家國也果何益。豈非以學乖其方
乎。此錄悉出於先生之所自得。正足以使人正其趣向
而得所歸宿矣。余不敢自私也。特校刻之、貽諸世之有
志者共焉。甲申春仲月下浣書於浪華城山里麻舍源
網條。

言志後錄

江都 一齋居士錄

○斃而後已、禮記、表記「俛焉
曰有學焉、斃而後已」。○堯舜之
上善無盡、傳習錄「堯舜之上
善無盡、桀紂之下、惡無盡」。○
自志學云云、志學ハ十五歳ヲイ
フ。論語、爲政「子曰、吾十有五
而志於學。三十而立。四十而不
惑。五十而知天命。六十而耳順。
七十而從心所欲不踰矩」。○孜
孜、勉メテ怠ラザル貌。學學ニ
同ジ。○不知老之將至、學ヲ
好ミテ倦マズ、年ノ寄ルノモ知
ラナイ。論語、述而「發憤忘食、
樂以忘憂、不知老之將至」。○
耄期、耄音「バウ」八十マダ九十
歳ヲイフ。禮記、曲禮上「八十
九十曰耄」耄ハ昏忘ナリ。期ハ

一此學吾人一生負擔當斃而後已。道固無窮。堯舜之
上善無盡。孔子自志學至七十、每十年自覺其有所進
孜孜自彊。不知老之將至。假使其踰耄至期、則其神明
不測。想當爲何如哉。凡學孔子者、宜以孔子之志爲志。
文政戊子
重陽錄

二自彊不息、天道也。君子所以也。如虞舜、學爲善、大
禹思日孜孜、成湯苟日新、文王不遑暇、周公坐以待旦、

百歲、禮記、曲禮上「百年曰期頤」頤ハ養ナリ、飲食起居皆人ニ養ハル。○戊子、文政十一年。著者五十七歲。○重陽、陰曆九月九日ノ節句。重九ニ同ジ。○自彊不息、易、乾卦象傳「天行健、君子以自彊不息」彊ハ強ニ同ジ。○虞舜學孝、學孝ハ勤勉ノ貌。孟子、盡心上「雞鳴而起、孳孳爲善者、舜之徒也」○大禹思「孜孜」書經、益稷「予思」日孜孜「孜孜」大學「湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新」○文王不「違」書經、無逸「自朝至于日中、不「違」暇食」○周公坐以待旦、孟子、離婁下「周公思兼三王以施四事、其有不合者、仰而思之、夜以繼日、幸而得之、坐以待旦」○孔子慎「發忘食、論語、述而「汝奚不「日」其爲人也、發忘食、樂以忘憂」

○嬰累聖想、心ニカカル種種ノ煩累。聖、音「クワイ」訓「カカル」

○修己以教云云、論語、憲問「子路問君子。子曰、修己以敬。」

孔子發憤忘食、皆是也。彼徒事靜養、冥坐而已、則與此學脈背馳。

三 自彊不息時候、心地光光明明、有何妄念遊思、有何嬰累聖想。

四 孔子之學、自修己以敬、至於安百姓、只是實事實學、以四教、文行忠信。所雅言、詩書執禮、不必尚事誦讀而已也。故當時學者、雖有敏鈍之異、各成其器、人皆可學、無能不能也。後世則此學墜在於藝、一途、博物多識、一過成誦、藝也。詞藻縱橫、千言立下、尤藝也。以其墜於藝也、故有能不能、而學問始與行儀離。人之言曰、某人學問有餘、而行儀不足。某人行儀有餘、而學問不足。孰有

曰、如斯而已乎。曰、修己以安人。曰、如斯而已乎。曰、修己以安百姓。○以四教、論語、述而「子以四教、文行忠信」○雅言、正言ナリ。論語、述而「子所「雅言」、詩書、執禮。皆雅言也」詩ハ詩經、書ハ書經。禮ハ禮記。徒ラニ誦説スルノミナラズ、執リ守ルヨリ執禮トイフ。○博物多識、博ク物理ヲ學ビ識ル。

○天爵、天然ノ爵位、即チ仁義忠信ノ類。孟子、告子上「有天爵者、有人爵者。仁義忠信樂善不倦、此天爵也。公卿大夫、此人爵也」○父母遺體、子ノ身ヲイフ。禮記、祭義「曾子曰、身也者、父母之遺體也。行「父母之遺體、敢不敬乎」

○清明在躬云云、仲尼閒居ニ出ヅ。註ニ「即至誠前知之謂也」○竦然、ゾツトシテ恐レツツシム貌。○褻慢、ナレアナドル。○一般、同ジキ意。○天下不足治、天下ヲ治ムルコト極メテ容易ナル義。

○生熟、未熟ト成熟ト。○穩妥、オダヤカニシテ適當ナリ。○過

學問有餘、而行儀不足者乎。可謂繆言矣。

五 凡教自外而入、工夫自內而出、自內而出、必驗諸外、自外而入、當原諸內。

六 吾人須知自重、我性天爵、最當貴重、我身父母遺體、不可不重、威儀人所觀望、言語人所取信、亦得不自重乎。

七 聖人清明在躬、氣志如神、故人之到其前、竦然起敬、不敢褻慢、不敢諂諛、信而親之、盡輸其情、如到鬼神前、祈請一般、使人輸情如是、天下不足治。

八 人當追思往時經歷事迹、某年所爲、孰是當否、孰是生熟、某年所謀、孰是穩妥、孰是過差、以此爲將來鑑戒。

差、アヤマチタガフ。○汲汲、アセリ急グ貌。○營營、アケセクスル貌。○鞠育、養ヒソダツル。○乳哺、乳ヲノマセ、ハゲタム。○顧復、子ヲカヘリミテ愛シ、子ヲクリカヘシテイタハル。詩經、我長我育、我顧我復、我撫摩、ナデサスル。○長養、ソダテル。

○應酬、交際。○開攘、ヤカマシクサワグ。○膠膠擾擾、動キ亂ルル貌。莊子、天道、堯曰、膠膠擾擾乎。○揣摩、我が心ヲ以テ推量臆測スル。戰國策、蘇秦乃夜發書、陳策數十、得、太公陰符之謀、伏而誦之。簡練以爲揣摩。○歆羨、ウラヤム。○慳吝、食リテヤブサカ。○客感、外界ニ應ジテ起ル感。○習氣、後天的ニ出來タル習癖。○魑魅、音「チ」山中ノ怪物。史記、五帝紀注、魑魅、人面獸身四足、好惑人、魑、一ニ蜻ニ作ル。○何思何慮、易、繫辭下「子曰、天下何

可也。不然、徒爾汲汲營營、算前途、計來日、亦何益之有。又尤當憶起幼穉時事、父母鞠育乳哺之恩、顧復懷抱之勞、撫摩憫恤之厚、訓戒督責之切、凡其所以艱苦而長養我者、無不悉以追思之、則今之所以自愛吾身、不肯自輕者、亦宜無所不至。

九、人處世、有多少應酬、塵勞開攘、膠膠擾擾、起滅無端。因復生此計較揣摩、歆羨慳吝、無量客感妄想、都是習氣爲之也。譬之魑魅百怪、昏夜橫行、及太陽一出、則遁逃潛迹、心之靈光、與太陽並明、能達其靈光、則習氣消滅、不能爲之嬰累。聖人一掃之曰、何思何慮、而其思歸於無邪。無邪即靈光之本體也。

思何慮。天下同歸而殊塗、一致而百慮。○無邪、少シノ邪念モナイ。詩經、魯頌、嘒篇ノ句、論語、爲政「子曰、詩三百、一言以蔽之、曰、思無邪」。○意嚮、心意ノ嚮フ所「オモハク」。○抒、心ノ思フ所ヲ陳ブル。○詔、告ナリ。○禍階、ワサハヒノキザハシ。○豐端、ナカタガヒノハジメ。

○寧人負我云云、唐ノ德宗ノ時ノ名臣陸贄ノ語、陸宣公奏議ニ出ヅ。○容、可ナリ「ベケン」ト訓ム。

○誘掖、ミチビキ、タスケル。○教亦多術矣、教誨ノ方法モ多端ナルヲイフ。孟子、告子下「孟子曰、教亦多術矣、予不屑之教誨也者、是亦教誨之而已矣」。不屑之教誨、其人ノ行ヲ潔トセズ、之ヲ拒絕シテ教誨セザル

二、天地間、靈妙莫如人、言語者、如禽獸、徒有聲音、僅通意嚮耳。唯人、則有言語、分明宣達情意、又抒以爲文辭、則可以傳之遠方、詔於後世。一何靈也。惟若是之靈、故其構禍階、造豐端、亦在言語。譬猶利劍之善護身者、輒復自傷、可不慎乎。

三、寧人負我、毋我負人、固爲確言。余亦謂、人負我時、我當思吾之所以致負、以自反、且以爲切瑳砥礪之地。於我多少有益、烏容仇視之。

三、誘掖而導之、教之常也。警戒而諭之、教之時也。躬行以率之、教之本也。不言而化之、教之神也。抑而揚之、激而進之、教之權而變也。教亦多術矣。

義。屑ハ潔。

○抑遏、オサヘトドムル。遏、音「アツ」止ナリ。

○錯慮、マチガツタ考。○當下事、サシアタリテ爲スベキ事。○今日不學云、朱熹、勸學文「勿謂今日不學而有來日。勿謂今年不學而有來年。日月逝矣。歲不我延。嗚呼老矣。是誰之愆。」○外物、己ノ心身ヨリ以外ノ物欲。富貴名利ノ類。○愚、謙遜

三有_リ小吏_ノ苟能_ク盡_ス心職_ヲ掌_ル爲_ル長官_者宜_{シク}勸_メ獎_シ而_{シテ}誘_ヒ掖_ス之_ヲ雖_モ時_ニ有_リ不_レ當_レ之_見而_モ亦_シ宜_{シク}姑_ク容_レ之_ヲ徐_ニ徐_ニ論_シ說_ス決_{シテ}不_レ可_ク抑_ス之_ヲ遏_ス抑_ス遏_ス則_チ意_ニ阻_ル氣_ニ撓_ル後_ニ來_ニ遂_ニ不_レ盡_ス其_ノ心_ヲ四居_ル官_ニ好_ク字_面有_リ四公_ノ字_正字_清字_敬字_能守_ラ此_ヲ可_ク以_テ無_カ過_ス矣_不好_ク字_面亦_リ有_リ四私_ノ字_邪字_濁字_傲字_苟犯_ス之_ヲ皆_テ取_ル禍_ノ之_道也

五凡人_ノ所_レ宜_{シク}急_ニ做_ス者_不肯_ゼ急_ニ做_ス可_ク不_レ必_シ急_ニ做_ス者_卻要_ス急_ニ做_ス皆_テ錯_ル慮_也如_キ斯_ノ學_即當_レ下_ノ事_即急_ニ務_實用_事勿_レ謂_フ今_日不_レ學_而有_リ來_日如_キ張_リ譙_會客_登山_泛湖_凡適_意游_觀事_則宜_{シク}謂_フ今_日不_レ爲_レ而_猶有_リ來_日可_ク也_六人_或謂_フ外_物爲_累愚_則謂_フ萬_物皆_與我_同體_不必_シ爲_レ累_蓋我_自累_也

的自稱ノ辭。拙トイフニ同ジ。○儻、「モシ」或ハ然ルノ辭。儻ハ俗字。○顔子不貳過、論語、雍也。孔子曰、有顔回者、好學不遷、怒、不貳過。○子路喜聞過、孟子、公孫丑上、孟子曰、子路人告之以有過則喜。禹聞善言則拜。○渾入、混入ニ同ジ。マジリ入ル。

○宇宙、淮南子、齊俗訓「往古來今謂之宙、四方上下謂之宇」字ハ空閒、萬物相對待スルノ象、即チ處ニ因リテ變化シテ各其宜シキヲ得ルヲイフ。宙ハ時間、萬物其間ニ流行スルノ象、即チ時ニ因リテ變化シテ各其宜シキ

累_蓋我_自累_也七過_ハ生_於不_レ敬_能敬_則過_自寡_矣儻_或過_則宜_{シク}速_ニ改_之速_改之_亦敬_也如_キ顔_子不_レ貳_過子_路喜_聞過_莫非_敬也_八閑_想客_感由_於志_之不_立一_志既_立百_邪退_聽譬_之清_泉涌_出旁_水不_得渾_入九心_爲靈_其條_理動_於情_識謂_之欲_欲有_公私_情識_之通_於條_理爲_公條_理之_滯於_情識_爲私_自辨_其通_滯者_即便_心之_靈言_字是_對待_之易_宙是_流行_之易_宇宙_不外_我心_三以_禮義_養心_者即_養體_軀之_良劑_心得_養則_身自_健以_旨甘_養口_腹者_即養_心之_毒藥_心失_養則_身亦_病

ヲ得ルヲイフ。讀書錄「易有變易。交易兩義。變易之易。陰陽晝夜流行是也。交易之易。天地上下四方對待是也。」言志錄一七二條參看。

○安舒、ヤスラカニノビノビシタル貌。○心廣體胖、大學「富潤屋、德潤身、心廣體胖」心ガ愧ヅル所ナク廣大ナレバ、身體モ自ラユタカナルヲイフ。○微柔、微恭、ヨクヤハラカニ、ヨクウヤウヤシ。書經、無逸篇ニ出ヅ。微、懿ハ皆美ナリ。○申申天天、申申ハ其容貌ノ舒（ゆるや）ナルナリ。天天ハ其顔色ノ愉（よろこび）和ゲルナリ。論語、述而「子之燕居、申申如也、天天如也」○桎梏、音「シツ」「コク」桎ハ足械（あしがせ）梏ハ手械（てがせ）○微纆、微ハ三ツヨリノ索（な）ニ纏ハニツヨリノ索。罪人ヲ拘ヘ係グニ用フ。易經、坎卦「上六、係用微纆」東縛セラレテ窮屈ナルニ喩フ。○坦夷、平テカ。○氣數、メグリアハセ。○易理、周易ニアル萬物變化ノ理法。○趨避、順境ニ趨

三心存中和、則體自安舒、即敬也。故心廣體胖、敬也。微柔懿恭、敬也。申申天天、敬也。彼視敬若桎梏微纆、然者、是賈敬、非真敬。
三君子亦說利害、利害本於義理、小人亦說義理、義理由於利害。
三眞功名、道德便是眞利害、義理便是。
三人一生所遭、有險阻、有坦夷、有安流、有驚瀾、是氣數自然、竟不能免、即易理也。人宜居而安焉、玩而樂焉。若趨避之、非達者之見。
三山水之可遊、可觀者、必是疊嶂攢峯、必是激流急湍、必是深林長谷、必是懸崖絕港。凡其紫翠蒙密、雲烟變

○疊嶂攢峯、カサナレル連山トアツマル峯。○激流急湍、ハゲシキ流レト急ナル早瀬。○懸崖絶港、キリツギタルガケ、隔絶セルミナト。○紫翠蒙密、山ノ草木ガ紫ヤ翠ノ色ヲナシテコンモリト茂レルヲイフ。○坤輿、地球ヲイフ。○生生、陰ハ陽ヲ生ジ、陽ハ陰ヲ生ジ、其ノ變窮リナキヲイフ。易經、繫辭上傳「日新之謂盛德、生生之謂易」○晝夜之道、易經、繫辭上傳「範圍天地之化、而不過、曲成萬物、而不遺、通乎晝夜之道、而知」本義「晝夜即幽明生死鬼神之謂」

○官、ツカサ。役目。孟子、告子上「心之官則思、思則得之、不思則不得也」○工夫、種種ニ思フメダラス。○知行云云、知行合一ハ陽明學ノ歸趨ナリ。此ノ條ハ陽明學ノ註脚トシテ看ヨ。○中字云云、論語、先進「子曰、過猶不及」中庸「中庸其至矣乎。民鮮能久矣」

○闇然・的然、闇然ハ晦キ貌。船晦シテ表面ニ目立タヌヤウニスレドモ、内ニ德ノ充實シテ日ニ明トナルヲイフ。的然ハ外ニ現レテ明カニ耀ク貌。即チ意ヲ用ヒテアラハス。始ハ明カナレドモ、根柢ナキモノハ、日日ニ其ノ箔ガハゲテ無クナルヲイフ。中庸ニ「詩曰、衣錦尙絺。惡其文之著也。故君子之道、闇然而日章、小人之道、的然而日亡。」○機心酬酢、機智ヲハタラカセテ人ニ應對スルコト。○稔、音「ジン」熟ナリ。

言氣魄人認以爲中者固過而其認以爲小過者則宛是狂人態也。懦弱人認以爲中者固不及而其認以爲不及者則殆是醉倒狀也。

三收斂精神時、自覺如閉聰明。然及熟後、則闇然日章。機心酬酢時、自覺聰明通達。然稔以成習、則的然日亡。

三申申天天氣象、收斂熟時、自能如是歟。

三以春風接人、以秋霜自肅。

三克己工夫、在一呼吸間。

三操則存、人也。舍則亡、禽獸也。操舍一刻、人禽判焉。可不戒乎。

其人往往有將不緊要事來語者。我輒易生傲情、太不

ヲ操持シテ放タザルナリ。舍ハ捨ナリ、之ヲ放チテ收メザルナリ。孟子、告子上「孔子曰、操則存、舍則亡。出入無時、莫知其鄉、惟心之謂與。」

○緩頰、婉言ヲ以テユルヤカニ曉諭スルナリ。史記、魏豹傳「緩頰往說魏豹能下之、吾以萬戶封若。」若ハ酈生(れいせい)ヲ斥ス。

○幾、キザシ。

○明紀、明朝ノ歴史、六十卷。清ノ陳鶴父子撰ス。○東林、宋ノ楊時ノ書院。明ノ神宗ノ時、顧憲成ガ同志高攀龍等ト學ヲ東

可。渠曾未經事。所以認閑事做緊要事。我緩頰論之可也。以傲情待之失德也。

毛人生於地而死於地。畢竟不能離於地。故人宜執地德。地德敬也。人宜敬地。地德順也。人宜順地。地德簡也。人宜簡地。地德厚也。人宜厚。

三一字積字、甚可畏。善惡之幾、在初一念。善惡之熟、在積累後。

三其難其慎、國家無不虞之患。惟和惟一、朝廷無多事之擾。

三余讀明紀、至其季世。君相匪其人。宦官宮妾用事、賂遺公行、兵馬衰弱、國帑則空虛、政事只是料理貨幣耳。



林ニ講ジ、時世ヲ諷議シ、學者多ク之ニ附ク。之ヲ東林黨ト稱ス。○闖賊、闖、晉「チン」無頼ノ稱、明ノ流寇李自成、初、闖將ト稱ス、賊黨自成ヲ推シテ闖王ト爲ス。○胡滿、清ハ北方滿洲ヨリ起ル、故ニイフ。愛親覺羅氏ヲ指ス。○夏、中夏即チ中國。

○鈔錢、紙幣。明ノ貨幣ニハ、寶鈔(紙幣)ト鑄鈔(硬貨)トノ二種アリ。

○以直報怨、論語、憲問「或曰、以德報怨、何如。子曰、何以報德。以直報怨、以德報德」

○透看、明カニ見ヌク。

○大硬事、大ニ困難ナル事。○剖決、二ツニハツキリト判斷スル。○商量、ハカリカンガヘル。○湊泊、アツマル。

東林不得不黨。闖賊不得不蠢。終馴致胡滿乘釁篡夏。嗟嗟後世可不知所戒乎。

一 鈔錢出而明衰。鈔錢盛而明亡。

二 以直報怨。要善看。只是以直待之。不相讎耳。

三 養生之道。只從自然爲得。有意於養生。則不得養生。

譬之蘭花之香。嗅則不來。不嗅則來。

四 通下情三字。當做彼我兩看。人主能通下情。是通

在我。使下情各得通達。是通在彼。如是透看。眞所謂通也。

五 凡遇大硬事。不消急心剖決。須姑舍之。宿一夜。於枕

上。粗商量一半。齋思而寢。及翌旦。清明時。續思惟之。則

必恍然見一條路。就即義理自然湊泊。然後徐區處之。大概不致錯悞。

六 實學人志。則美矣。然往往禁讀書。是亦因噎廢食。

七 易以天說人。書以人說天。

八 人一生履歷。除幼時與老後。率不過四五年間。其所聞見。殆不足一史。故宜讀歷代史書。上下數千年事

迹。羅在胸臆。不亦爲快乎。著眼處。最在人情事變上。

九 余常讀宋明人語錄。有可肯。有不可肯。有似可信。而

不可信。有似可疑。而不可疑。反覆讀之。殆如與諸賢同

堂親相討論。眞是尙友有益。

十 吾老莊固與儒不同。渠只是了一箇智字。老子深沈莊

○因噎廢食、ムセブノニ懲リテ食事ヲ止メル。以テ些ノ障礙ニヨリテ大事ヲ廢スルニ喩フ。噎、音「エツ」淮南子、説林訓「有以噎死者、而禁天下之食、則悖矣」

○易、易經。○書、書經。

○一史、二十二史中ノ一史。二十二史ニ就テハ言志叢錄二四一條參看。○羅、網羅スルコト。

○宋明人語錄、朱子ノ語錄・王陽明ノ傳習錄ノ類。○肯、合點ガユク。○尙友、尙ハ上ナリ、上リテ古人ヲ友トスル。言志錄二九九條參看。

○老莊、老子ト莊子ト。○另、音「レイ」別ニ一事ヲ爲スノ義。

○機軸、機ハ機關、軸ハ車ノ心木。轉ジテ新工夫ノ義ニ用フ。

○滿腔子是惻隱之心、腔子、俗語、軀殼ノ義、仁愛ノ心人身中ニ滿ツルヲイフ。宋ノ程頤(明道先生)ノ語、二程全書ニ出ヅ。

○須認心在腔子裏、心ハ常ニ身子ノ中ニ在ルヲ認ムベキヲイフ。孟子、告子上「求放心」ノ義。朱子語類ニ「問、心要在腔子裏、若慮事應物時如何。朱子曰、身在此、則心合在此」

○操履、操守シテ履ミ行フ。

○諦觀、アキラカニ見ル。○無非易理、スベテ陰陽虛實アルヲイフ。

周另出機軸。

吾知滿腔子是惻隱之心、則知滿世界都爲惻隱之心。宇宙間只是一實、更無虧欠。

吾人須認心在腔子裏、又須認心在腔子外。

吾鱗介之族、以水爲虛、不知水之爲實。

吾火滅、水涸、人死、皆迹也。

吾志氣欲銳、操履欲端、品望欲高、識量欲豁。

造詣欲深、見解欲實。

矣余固無藝無能、然不厭人之有藝能。每諦觀之、但見其理無非易理。

吾人一身、以上下分陰陽、上體爲陽、下體爲陰、降上陽

○地天泰、易ノ泰卦ヲイフ。即チ☰☷乾下坤上ナリ。坤(地)ノ陰ガ上ニ在リ、乾(天)ノ陽ガ下ニ在リ、天地陰陽ノ二氣相交ハリテ和シ、萬物生成ス、故ニ泰トイフ。

○面背云云、前條ヲ承ケテ易ノ陰陽交和ノ理ニヨリテ身心ノ安定法ヲ説明ス。

☰☷ 兌 離 ☰☷ 巽 ☰☷ 乾

○良背工夫、良背ハ精神ヲ統一スル修養法ナリ。易、良卦「良ニ其背、不獲其身、行其庭不見其人、无咎」良ハ止ナリ、一陽ガ二陰ノ上ニ止マル、其ノ象ヲ山ト爲ス。人ノ其止マルベキ所ニ安ンゼザル所以ハ、欲ニ動カサルレバナリ。欲前ヨリ牽ケバ、其止マランコトヲ求ムルモ得ベカラズ、背ニ止マレバ、見ルベキ者前ニ在ルモ、之ニ背キテ之ヲ見ルコト無シ。欲ノ以テ其心ヲ亂スコトナク、其所ニ止マリテ其身ヲ獲ズ(其身を見ざる也)其身

於下體、升下陰於上體、則上虛下實、函成地天泰。又以前後分陰陽、前面爲陽、後背爲陰、收前陽於後背、移後陰於前面、則前虛後實、亦函成地天泰。

吾面背又各分三段、乾三陽位在前、初爲震、中爲坎、上爲艮、坤三陰位在後、初爲巽、中爲離、上爲兌、其陽在顏

面者、收之背上、身柱與陰相代、則成前兌後艮、而面冷

背暖、胸陽收之背、中脊髓與陰相代、則成前離後坎、而

胸虛背實、腹陽收之背、下腰上與陰相代、則成前巽後

震、而腹柔畜氣、腰剛聚精、前三陽皆與後三陰相代、則

函成前坤後乾、而心神泰然、呼吸與天地通、余從良背

工夫得之。

ヲ忘ルルナリ。背ニ止マレバ、庭前至近ノ地モ之ヲ見ズ。故ニ其庭ニ行キテ其人ヲ見ザルナリ。外物接セズシテ内欲萌サズ、斯ノ如クニシテ止マル。管無キ所以ナリ。

○臨之繇、臨ノ卦ハ ䷒ 兌下坤上ナリ。繇ハ晉「チュウ」易ノ卦兆ノ占辭。兌ハ說（よろこ）坤ハ順フ、說順ヲ以テ人ニ臨ム。故ニ元（ふほ）ニ享（さ）ヒリテ貞（ただ）シキニ利アリ。然レドモ八月ニ至リテ凶アリトハ、方ニ盛ンナル時ニ於テ衰退ヲ慮リテ警戒スベキコトヲ教フルナリ。八月ハ陽盛ナル月ナリ。ソノ中陰自ラ生ズ。進ムニ急ニシテ退クヲ忘ルレバ、失敗ヲ來スライフ。

○先天・後天、易、文言傳「夫大人者、與天地合其德、與日月合其明、與四時合其序、與鬼神合其吉凶、先天而天不違、後天而奉天時」大人ハ時未ダ至ラザルトキ、天ニ先チテ之ヲ爲セバ、天ニハ必ズ之ニ違フ能ハズ、時既ニ至レバ、天ニ後レテ之ヲ奉行シ、亦天ニ違フ能ハズ。

堯進歩中不忘退歩、故不躓。臨之繇曰、元亨利貞、至于八月有凶、是也。

○先天而天不違、廓然太公未發之中也、誠也。後天而奉天時、物來順應、已發之和也、敬也。凡無事時、當存先天本體、有事時、當著後天工夫。先天後天、要其理則非二矣。學者所宜致思。

○人情事變、或做深看處之、却有失當者、大抵輕看區處、中肯綮者不少。

○空將處事、當先略視其大體如何、而後漸漸以至精密處、可也。

○空物得其所爲盛、物失其所爲衰。天下有人而無人、有

大人ハ即チ天、天ハ即チ大人ナリ。○未發之中、已發之和、中庸「喜怒哀樂之未發、謂之中。發而皆中節、謂之和。中也者、天下之大本也。和也者、天下之達道也。致中和、天地位焉、萬物育焉」○中肯綮、骨ハ骨ニツク肉、筋ハ筋ト骨トノ結合セル所。莊子、養生主「技經肯綮之未嘗、而況大軀乎」轉ジテ事ノ要所ニ喩フ。○有無人而無人、賢人有ルモ其ノ所ヲ得ザルヲイフ。○有財而無財、富ノ不均ヲイフ。

○雨澤、雨ノ恩澤。宋史、樂志「雨澤霑無涯」。○澗、大水。○蒼葦、草木ノ青青ト茂レル原野。

○躑躅、セグクマリテ伸ビズ。躑ハ曲脊、モト局ニ作ル。躑ハ累足（ねきあし）ナリ。恐ルルノ甚ダシク身ヲ容ルル處ナキナリ。詩經、小雅正月「謂天盖高、不敢不局、謂地蓋厚、不敢不跲」。○紛鬧、ゴダゴダト雜沓スル。○逍遙、ユツタリト遊行スル。○造化、造物者。○瞞人、人ヲ

財而無財。是謂衰世。

○空處晦者、能見顯據顯者、不見晦。

○空古人謂、天下事、過則有害。雨澤非不善也。過多則澇。其爲害也與旱同。今有意爲善、而任心自是者、皆雨澤之澇也。余亦往往見若人。然非他人也。不可不自警。

○空終年奔走於都城內、不自知天地之爲大。時可泛川海、時可登邱嶽、時可行蒼葦之野。此亦心學也。

○空躑躅於城市紛鬧之衢、不知春秋之偉觀。逍遙於田園閒曠之地、實見化工之無窮。余嘗有句曰、城市春秋淺、田園造化忙。自謂非瞞人語。

○空有好爲大言者、其人必小量。有好爲壯語者、其人必

欺キダマス。
○怯懦、臆病ナリ、慊ハ懦ナリ。
○弘恢、ヒロク大イナリ。

○昔賢、王陽明。語ハ傳習錄ニ出ヅ。○中庸云、「君子素其位而行。不願乎其外。素富貴、行乎富貴、素貧賤、行乎貧賤、素夷狄、行乎夷狄、素患難、行乎患難。君子無入而不自得焉。」朱註ニ「素猶見在也」トアリ。現在ノ地位ニ満足スル義。

○險夷、險阻ト平坦ト。夷ハ平ナリ。○猶豫、「タメラフ」

怯懦唯言語不大不壯、中有含蓄者、多是識量弘恢人物。

究人生有貴賤、有貧富、亦各有其苦樂、不必謂富貴樂而貧賤苦。蓋自其苦處言之、何莫不苦。自其樂處言之、何莫不樂。然此苦樂亦猶在外者也。昔賢曰「樂者、心之本體」此樂不離苦樂之樂、亦不墜苦樂之樂。蓋其處苦樂而超苦樂、安其所遭而無外慕。是真樂也已。中庸所謂君子素其位而行、不願乎其外、無入而不自得者、是也。

古人涉世如行旅、然途有險夷、日有晴雨、畢竟不得避。只宜隨處隨時相緩急、勿欲速、以取災、勿猶豫以後。

期是處旅之道、即涉世之道也。

人當自思察在母胎中之我、心意果如何、又當自思察出胎後之我、心意果如何、人皆竝全忘不記也。然我體既具、必有心意、則今試思察胎胞中心意、必是渾然純氣專一、無善無惡、只有一點靈光耳。方生之後、靈光之發竅、先知好惡、好惡即是非、即知愛知敬之所由出也。思察到此、可以悟我性之爲天、我體之爲地。

思未生時之我、則知天根、思方生時之我、則知天機。
天保壬辰十月念
錄。此日爲誕辰。

孔子在川上、嘆逝者、過滄浪、感孺子、遊舞雩、善樊遲、與浴沂於曾點、登東山、小魯國、登泰山、藐天下、聖人遊

○知愛知敬云云、孟子、盡心上「孩提之童、無不知愛其親也、及其長也、無不知敬其兄也」

○天根、天ノ根源。晉書、張協傳、七命「踰天根、越地隔」○天機、造化ノ「ハタラキ」淮南子「內有以通于天機」

○壬辰、天保三年。著者六十一歲。念ハ廿日。

○在川上云云、論語、子罕「子在川上曰、逝者如斯夫、不舍晝夜」○過滄浪云云、孟子、離婁上「有孺子歌曰、滄浪之水清兮、

可以濯我纓。滄浪之水濁兮，可以濯我足。孔子曰：小子聽之。清斯濯纓，濁斯濯足矣。自取之也。○遊舞雩，論語，顏淵「樊遲從遊於舞雩之下。曰：敢問崇德脩慝，辨惑。」子曰：善哉。問云云。○浴沂云云，論語，先進「曾點曰：莫春者春服既成。冠者五六人，童子六七人，浴乎沂，風乎舞雩，詠而歸。夫子喟然歎曰：吾與點也。」沂，河川之名。○登東山云云，孟子，盡心上「孟子曰：孔子登東山而小魯，登太山而小天下。天下之泰也。」○觀小，小，小也。○在齊聞韶云云，論語，述而「子在齊聞韶三月，不知肉味。」○之杞云云，夏時，夏ノ世ノ時令ヲ記シタル曆本、禮記、禮運「孔子曰：我欲觀夏道，是故之杞，而不足徵也。吾得《坤乾》焉。《坤》之《乾》也，吾得《坤乾》焉。《坤》之《乾》也，故曰《坤乾》。《坤》之《乾》也，故曰《坤乾》。《坤》之《乾》也，故曰《坤乾》。《坤》之《乾》也，故曰《坤乾》。」○觀周，孔子家語，觀周篇「見之。」○微服，孟子，萬章上「微服而過宋。」

觀無非學也。
 齒孔子在齊聞韶學之。之杞得夏時之宋得坤乾觀周感慨往古微服於宋厄於陳蔡適衛適鄭適楚皆不得意聖人之學蓋得力於遠遊艱難也多矣。
 室鄉愿一輩人有陰德惜福之說余謂德無陰陽公爲之而已其好陰德者有待於陽報若無陽報陰德必不爲而可乎禍福亦天來竟不可求又不可惜假令可惜亦朝三暮四之算耳究之皆揣摩天數斷斷不可也。
 夫人須知貴賤各有分貴人而摸放賤者之態賤者而僭竊貴人之事吾知非辱之招則蓄之及也。
 宅講說聖賢而不能躬之謂之口頭聖賢吾聞之一惕

桓魋ノ暴ヲ避ケテナリ。○厄於陳蔡楚ニ適ク時陳蔡ノ大夫ニ圍マレシヲイフ。孟子、盡心下「孟子曰：君子(孔子)之厄於陳蔡之間無上下之交也。」○鄉愿、鄉人ニ律義者(り)の(り)ト稱セラルル偽君子ヲイフ。論語、陽貨「子曰：鄉原德之賊也。」原ハ愚ニ同ジ。孟子、盡心下ニ詳説アリ。○朝三暮四、詐術ヲ用ヒテ人ヲ愚弄スル喻。列子、黃帝「宋有狙公者愛狙養之成羣能解狙之意狙亦得公之心將限其食先誑之曰與若芣朝三而暮四足乎。衆狙皆起而怒。俄而曰與若芣朝四而暮三足乎。衆狙皆伏而喜。物之以能鄙相籠皆猶此也。聖人以智籠羣愚亦猶狙公之以智籠衆狙也。名實不虧使其喜怒哉。」○揣摩、推測ス。○摸放、マネル。放ハ傲。○僭竊、身分不相應ノ事ヲスル。○口頭、口サキハカリ。○惕然、オソレツツシム貌。○道學、宋儒程朱等ノ唱ヘタル性理學。宋史ニ道學傳アリ。

然論辯道學而不能體之謂之紙上道學吾聞之再惕然。
 夫天始氣而地造物天變而地化也是知造化二字語地功不獨人爲地而萬物皆地也然非天氣入而主宰之則物不能活人不能靈主宰之靈卽性也。
 克爲政須知者有五件曰輕重曰時勢曰寬厚曰鎮定曰寧耐是也如舉賢遠佞勸農薄稅禁奢尙儉養老慈幼等數件人皆知之。
 合智仁性也勇氣也配以爲三德有妙理。
 昔人謂道之大端在道心人心而其節目在父子君臣夫婦長幼朋友五者之倫余謂道心性也人心情也。

○輕重、錢ノ貴賤ヲイフ。史記、管晏列傳「貴輕重」○寧耐、心ヲ寧靜ニシテ能ク耐ヘ忍ブ。
 ○三德、中庸「知仁勇三者、天下之達德也」
 ○道心・人心、中庸章句序「其見於經、論語、書曰「至善、大抵、則允執厥中者、堯之所以授舜也。人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執厥中者、舜之所以授禹也」道心ハ義理ヨリシテ發スル正シキ心、人心ハ形氣ヨリシテ發スル心。執中ハ過不及ナキ中庸ノ道ヲ執リ守ルコト。
 ○五者之倫、五倫。倫ハ常ナリ、人ノ常道ヲイフ。孟子、滕文公上「人之有道也、飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸。聖人有憂之、使契爲司徒、教以人倫。父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信」○虛玄、空虛ニシテ幽玄ナリ。
 ○機筭、機ハ弩牙。筭ハ音「クワツ」括ニ通ズ。矢ノ末。本ハ弩ヲ張リ、矢ヲ發スルニ筭ヲ以テ機ニ入レ、機動ケバ即チ發スルヲ言フ。引伸シテ時適(なまたま)

精一執中、約情於性也。本體工夫存焉。其著功處、則爲五倫之交、有親義別序信之教。即感應自然之條理、見性於情也。工夫本體存焉。後之講道學者、往往馳虛玄、過高妙、悠渺空曠、覓性於言語道斷、心行路絕之際。豈果人倫乎。或爲功利、或爲詞章、則於人倫亦滋遠矣。
 △性之動爲情。畢竟不可斷滅。唯發而中節、則爲性之作用。然鋼閉自性者、爲習氣。而情之發、每夾習氣、有所黏著。是鋼閉也。故習氣不可不除矣。工夫機筭、在一念發動上。就即反觀自性、覓未發時景象、以挽回之。則情之所感、純以性動、無不中節也。然工夫甚難、不爲習氣壓倒者少矣。故常常戒慎之於未感之時、猶有所失、則

相合シ、言語動作適當者ヲ謂フ。大切ナル「ハズミ」莊子「其發若機括」

○補瀉、補ハ補劑、滋養ヲ補フ藥。瀉ハ下劑。補ハ讀書セシムルニ、瀉ハ靜坐セシムルニ喩フ。

○篤實輝光、易、艮卦「程傳「艮、山之象。有安重堅實之意」マタ象曰「艮、止也。時止則止、時行則行。動靜不失其時、其道光明」本義「艮之義則止也。然行止各有其時。故時止而止、止也。時行而行、亦止也。艮體篤實。故又有光明之義。大畜與艮、亦以光輝言之」五八條參看。

○不獲其身、我ヲ忘ルル義。易、艮卦象辭「艮其背、不獲其身、

又必挽回之於纔感之際。工夫無此外耳。

△學者有不嗜讀書者、督之勵精讀書、有大耽讀書者、教之靜坐自省。是則對症而補瀉之耳。

△學稽諸古訓、問質諸師友、人皆知之。學必學諸躬、問必問諸心、其有幾人邪。

△艮爲篤實輝光。君子之象也。物之有實者、遠而益輝。近則狎之、不覺美也。面月而看月、不如背月而觀月。近花而看花、不如遠花而瞻花。

△順境如春、出遊觀花。逆境如冬、堅臥看雪。春固可樂、冬亦不惡。

△去假己而成真己、逐客我而存主我。是謂不獲其身。

身ト。程傳「不獲其身、不見其身也。謂忘我也」

○謙、易ノ卦名、䷎艮下坤上ナリ。「上六鳴謙、利、用行師征邑國」トアリ。上六ハ柔ヲ以テ謙ノ極ニ居ル。謙ガ極リテ聞ユルアレバ、人ノ與ヘムス所ナリ。故ニ用テ師ヲ行リ、邑國ヲ征スベシ。○柄、輿、何レモ肝要ナル場所。左傳、僖公十一年「敬、禮之與也。不敬則禮不行」

○調話、古文ノ意義ヲ解釋スルナリ。○非義、惡シキ心ノキザシ。○刺鍼、「ハリ」ヲウツ。○心下、「ムネ」ノ下。

敬、生勇氣

允謙、德之柄也。敬、德之與也。可以行師征邑國矣。

杏釋、靜爲不動者。訓話也。靜何曾不動。釋動爲不靜者、

訓話也。動何曾不靜。

丸箴者、鍼也。心之鍼也。非幾纔動、即便箴之可也。至於增長、則得効或少矣。余好刺鍼、值氣體稍不清快、輒早刺心下十數鍼、則病未成而潰、因悟此理。

丸人自嬰孩、至老耄、恆受德於陰闇之中、而不自知。是何物也。被褥枕席是也。有一先輩、甚敬被褥、必手展收之、不委之。臧獲其用心、亦云厚矣。至能慎寢食、孝也。

○脆、「モロシ」

○自慊、自ラ心ニ飽キ足リテ快キナリ。大學「所謂誠其意者、毋自欺也。如惡惡臭、如好好色。此之謂自謙。故君子必慎其獨也」ト謙ハ慊ニ通ズ。「朱註」謙讀爲慊、快也。○自彊、自ラ強メテ息マザルナリ。易、上象傳「天行健、君子以自彊不息」

齒以天而得者、固以人而得者、脆。至赤子、先知好惡、好屬愛邊、仁也。惡屬羞邊、義也。心之靈光、自然如是。矣君子自慊、小人則自欺。君子自彊、小人則自棄。上達下達、落在一自字。矣忿熾則氣暴、欲多則氣耗。懲忿窒欲、於養生亦得。矣人皆知問身之安否、而不知問心之安否。宜自問、能不欺闇室否、能不愧衾影否、能得安穩快樂否。時時如是、心便不放。矣古往今來、生生不息。精氣爲物、天地未嘗增一物、游魂爲變、天地未嘗減一氣。

○不欺闇室、正字通「程子曰、學始於不欺闇室、闇室、人ノ見ザル暗キ室。四書備考「不愧屋漏、猶曰不欺闇室」如何ナル處ニテモヤマシキコト無キヲイフ。○不愧、含影、宋史、蔡元定傳「獨行不愧影、獨寢不愧衾」○精氣、游魂、易、繫辭上傳「精氣爲物、游魂爲變、是故知鬼神之情狀、與天地相似」陰精陽氣聚リテ物ヲ成スハ神ノ伸ブルナリ生ライフ。魂ハ游離シ魄ハ地ニ降り、散ジテ變ヲ爲スハ、鬼ノ歸ルナリ、死ライフ。

○無爲、本體ヲイフ。○有爲、作用ヲイフ。

○先天、後天、易、乾卦文言傳「先天而天弗違、後天而奉天時、天且弗違、而況於人乎、況於鬼神乎」ココノ中ト誠トハ先天、和ト敬トハ後天。中庸「喜怒哀樂之未發謂之中、發而皆中節謂之和」

○釘牢繩縛、クダギレ打チツケ、繩デシバル。固定シテ融通ガキカヌコト。○蘇回、イキカヘル。

○中和、中庸「中也者天下之大

一〇 無爲而有爲之謂誠、有爲而無爲之謂敬。

一一 聖人見事於幾先、自事未發而言謂之先天、自幾已動而言謂之後天、中和一也、誠敬一也。

一二 道固活、學亦活、儒者於經解、釘牢繩縛、并道與學幾死、須拔其釘、解其縛、令得蘇回可也。

一三 心得中和、則人情皆順、心失中和、則人情皆乖、感應之機在於我矣、故人我一體、情理通透、可以從政矣。

一四 人當自認我軀、有主宰、主宰爲何物、物在何處、主於中而守於一、能流行、能變化、以宇宙爲體、以鬼神爲迹、靈顯明明、至微而顯、呼做道心。

一五 人當自認我有軀、軀爲何物、耳有天性之聰、目有

本也。和也者天下之達道也。致中和、天地位焉、萬物育焉。

○拗、マゲル。

○道心、人心、精一、精一ハ惟精惟一ノ約語、精ハクハシト訓ム。道心、人心ノニツテ精密ニ識別シテ二者ヲ混雜セシメザル義。一ハ「モツバラ」ト訓ム、專一ノ義。言志錄一九五參看。○踐其形、言志錄一〇九參看。

○齷齪、アクセクスル。○當下、眼前ノ事。○居處恭、論語、子路「子曰、居處恭、執事敬、與人忠、雖之夷狄、不可棄也」○言忠

天性之明、鼻口有天性之臭味、手足有天性之運動、此物也、各專於一、而不能自主、則其與物感應、而物之自外至、或有塗耳目、膠鼻口、爲其所牽引、以拗其天性、故人之爲善、固是自然之天性、而爲惡、亦是拗後之天性。以其涉於體軀、如是之危也、呼做人心。

一六 心非有二語、其本體、則謂之道心、性之體也、自其涉於體軀、則謂之人心、情之發也、故道心能主宰體軀、則形色不失、其天性之本然、唯聖人能、用精一之功、以踐其形而已、然知覺此功、亦即道心之靈光、非二也。

一七 人做事、目前多粗脫、徒思量來日事、譬如行旅人、齷齪思量前程、太不可、人須先料理當下、如居處恭、執

信、論語、衛靈公「子張問行。子曰、言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦、行矣。」○寢不尸、寢ヌル時ニハ僂臥シテ死人ノ如クセズ。又家ニ居ル時ニハ容儀ヲツクラヒテ勿體アラナイ。論語、鄉黨「寢不尸、居不容。」○恰好、程好キ處。

○矜式、矜、音「キョウ」敬ナリ。式ハ法ナリ。尊敬シテ法式ヲ取ル義。孟子、公孫丑下「他日王謂時子曰、我欲中國而授孟子室、養弟子以萬鍾、使諸大夫國人皆有所矜式。子盍爲我言之。」○伎倆、テナミ、技能。

○曠度、空シクスゴス。

○牽羊悔亡、易、夬(くわい)卦九四ノ辭。本義「以陽居陰、不中不正。居則不安、行則不進。若不與衆陽競進、而安出、其後則可以亡其悔。」牽羊者當其前則不進、縱之使前、而隨其後則可以行矣。羊ハ羣リ行ク物ナリ、若シ諸羊ニ從ヒテ羣行セバ、則チ其ノ悔ヲ亡ボス。

○介、カタク特立スル。○堪輿、大地ナリ。范浚ノ心箴「茫茫堪輿、俯仰無垠。」

○誠意、大學「古之欲明明德於天下者、先治其國。欲治其國者、先齊其家。欲齊其家者、先脩其身。欲脩其身者、先正其心。欲正其心者、先誠其意。意誠而后心正、心正而后身脩。身脩而后家齊、家齊而后國治。國治而后天下平。」○好惡、前ノ九五條參看。○絜矩、絜ハ挈ニ通ズ。矩ハ法ナリ。我が心ヲ矩即チ曲尺ト爲シ、ソレヲ挈(ひっさ)ゲテ物ヲ度(はかり)正スヲイフ。即チ己ヲ推シテ人ニ及ボシ、人ノ心ヲ思ヒヤル義。忠恕ニ同ジ。大學「所謂平天下、在治其國者、上老老、而民興孝、上長長、而民興弟、上恤孤、而民不倍。是以君子有絜矩之道也。」○忿懣、忿ハ怒ノ甚ダシキナリ。懣ハ音「チ」怒ノ強ク心ニ留マル

事敬、言忠信、行篤敬、至於寢不尸、居不容、一寢一食、造次顛沛、亦皆當下事。其料理當下得恰好處、即并過去將來、亦自得恰好耳。

老人、衆之所觀望而矜式也。其言動當益端、志氣當益壯、尤宜以容衆育才爲志。今之老者、或有漫唱年老、甘頹棄者、或有猶爲少年伎倆者、皆非也。

百年無再生之我、其可曠度乎。

牽羊悔亡、操存工夫當如此。

寬懷不忤俗情、和也。立腳不墜俗情、介也。

不苟字、可以寡過矣。不愧字、可以遠咎矣。

古往今來、一塊堪輿、皆情世界也。感應之幾在於

此而有公私焉。爲政者宜先持其公情、以待物、使人各得其公情而已。然私情亦有可恕、令達無碍者。臨事酌其輕重可也。

大學自誠意說好惡、至平天下說絜矩、中間亦忿懣四件、親愛五件、孝弟慈三件、都於情上理會。

聖人順萬物而無情、非無情也。以萬物之情爲情耳。

人多話己所好、不話己所惡。君子好善、故每稱人善、惡、故不肯稱人惡。小人反之。

不可誣者人情、不可欺者天理。人皆知之、蓋知而未知。

ナリ。四件ハ忿懣、恐懼、好樂、憂患ヲイフ。大學「所謂修身在正其心者、身有所忿懣、則不得其正。有所恐懼、則不得其正。有所好樂、則不得其正。有所憂患、則不得其正。」○親愛五件、親愛、賤惡、畏敬、哀矜、放情ヲイフ。大學「人之其所親愛而辟焉、之其所賤惡而辟焉、之其所畏敬而辟焉、之其所哀矜而辟焉、之其所放情而辟焉。」○孝弟慈三件、前ノ黎矩ノ解ニ出ヅ。○理會、サトル。○門面、門構へ、表面ノカザリ。○家儀、家ノ什寶類。○招牌、看板。○誇街、ホコリテラフコト。○爲己、論語、憲問「子曰、古之學者爲己、今之學者爲人。」○良背工夫、精神ヲ統一シテ、思フコト其位ヲ出デズ、忘我ノ境ニ入ルヲイフ。五八條參看。○敬也、形式ヲイフ。○仁也、内容ヲイフ。○懸空捕影、取リトメモ無キコトノ形容。○虛羸、虛弱「カヨワシ」羸、音「ルキ」。○補劑、オギナヒ藥。

- 二六 勿裝門面、勿陳家儀、勿揭招牌、勿假他物、以誇街書以自警。
- 二九 矯弊之說、必復生弊。只當知學爲己、知學爲己者、必求之於己。是心學也。至於得力處、則宜任其所自得。雖有小異、不害大同。
- 三〇 良背工夫、神守其室、卽敬也。卽仁也。起居食息、不可放過。非懸空捕影之心學。
- 三一 虛羸人、常服補劑、不俄覺其效、而久服自有效。此學工夫亦猶是。
- 三三 名利固非惡物、但不可爲己私所累。雖愛好之、亦自有恰好得中處。卽天理當然也。凡人情可愛好者何

○不舍晝夜、山嶽ノ草木禽獸ヲ生ズルヲイフ。論語、子罕「子在川上曰、逝者如斯夫、不舍晝夜。」孟子、離婁下「源泉混混、不舍晝夜。」○寂然不動、靜カニシテ動カズ。易、繫辭上「易無思也、无爲也、寂然不動、感而遂通天下之故。非天下之至神、其孰能與於此。」ココハ川流ノ増サズ減ゼザルニヨリイフ。

○胸中無物、心ノ中ニ少シノワダカマリナシ。世説「庾赤玉、胸中無宿物。」○萬物皆備、天下ノ萬物ノ理ハ皆悉ク我が性分ノ内ニ備ハラザルナキヲイフ。孟子、盡心上「萬物皆備於我矣。」○主宰、ツカサ、事物ヲ支配スル者。荀子、正名「心者、道之主宰。」○流行、ユキワタリ行ハルル。孟子、公孫丑上「德之流行、速於置郵而傳命。」○九思、論語、季氏「孔子曰、君

- 限而其閒亦有小大、有輕重、能權衡之、斯得其中、卽天理所在。人只怕己私爲累、名利豈果累人乎。
- 二二 山以實爲體、而其用虛也。水以虛爲體、而其用實也。
 - 二三 山嶽亦不舍晝夜、川流亦寂然不動。
 - 二四 收感於寂、是性之情。存寂於感、是情之性。
 - 二五 胸中無物、虛而實也。萬物皆備、實而虛也。
 - 二六 知是行之主宰、乾道也。行是知之流行、坤道也。合以成體、驅則知行是二而一、一而二。
 - 二七 孔子九思、曾子三省、有事時、以是省察、無事時、以是存養、可以爲靜坐工夫。

子有九思。視思明。聽思聰。色思溫。貌思恭。言思忠。事思敬。疑思問。忿思難。見得思義。○三省。幾度トナク反省スル。論語。學而。曾子曰。吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。與朋友交而不信乎。傳不習乎。○存養。心ヲ存シテ性ヲ養フ。語意孟子ニ本ヅク。陸游詩。致一工夫在存養。○竺氏。僧侶。佛教ハ天竺ニ起リシ故。○發憤。ケナシアナド。

○了事。事ヲ爲シトゲル。

○非水火不生活。孟子。盡心上。民非水火不生活。昏暮叩門入

二元 竺氏尊奉佛書太好。爲我學者。卻或褻慢經書。可愧可戒。

三言 收斂精神。以讀聖賢之書。讀聖賢之書。以收斂精神。

三三 好靜厭動。謂之懦。好動厭靜。謂之躁。躁不能鎮物。懦不能了事。唯敬以貫動靜。不躁不懦。然後能鎮物了事。

三三 震巽之感。爲氣。坎離之交。爲精。艮兌之合。爲形。是男女構精之理也。



三三 人物凝聚水火。成此體軀。故非水火不生活。所好

之門戶。求水火。無不與者。至足矣。○適中。程ヨクスル。

○澄心。心ヲスマス。○五行竝下。讀書スル時。同時ニ五行ヲ讀ミ下ス。後漢書。應奉傳。奉讀書五行竝下。○千言立成。魏志。陳思王傳。銅爵臺新成。太祖將諸子登臺。使各爲賦。植援筆立成。可觀。陸游詩。落筆千言。氣欲吞名場。○效顰。顰ニ效フ。強ヒテ人ノ眞似ヲシテ反リテ醜キヲイフ。美人ノ西施ガ胸痛ミテ顔ヲシカメタノガ美シカリシ爲。醜婦之ヲマネテ益々醜クカリシ故事。

亦在水火。但宜令適中。不偏勝。水勝則火滅。火勝則水涸。體軀亦不能保。

二言 酒是水火之合。水其形而火其氣也。故體軀喜之。烟茶起於近代。然人亦多好之。以茶能發水之味。烟能和水之味也。然不可多服。多服則害人。況於酒害尤甚。余嗜烟茶。故書以自戒。

三言 讀書宜澄心端坐。寬著意思。乃爲有得。五行竝下。何其心之忙邪。作文宜命意立言。一字不苟。乃爲無瑕。千言立成。何其言之易邪。學者其勿徒效顰才人。以陷於忙與易。

三言 靜坐之功。在於定氣凝神。以補小學一段工夫。要

○凝神、精神ヲ凝ラシ聚メル。莊子「用志不分、乃凝于神」蘇軾詩「莊周世無有、誰知此凝神」○小學一段工夫、宋儒、坐作進退等ノ儀節ヲ小學トイフ。陽明先生年譜「前在寺中、所云靜坐事、非欲坐禪入定也。蓋吾以此補小學收放心一段功夫耳」○氣容肅云云、禮記。○客慮、外ヨリ入り來ル雜念。○就、スナハチ、即ナリ。○按出、サガシダス、搜出ニ同ジ。

○呈露、外ニアラハレル。○標目、見出シ。○子稱、小別ノ名目。

○洞、洞達シテ明カナリ。

○晴翳、晴ルルトクモルト。

○草根木皮、草ノ根ト木ノ皮ト。漢藥ハ多ク之ヲ用フ。金史、食貨志「泗州被災、道殣相望、所食者草根木皮而已」○玄黓、壬ナリ。執徐、辰ナリ。天保三年（壬辰歲）著者六十三歲。○藹月、臘月ニ同ジ。陰曆十二月ノ異名。

○提撕、「ヒツサゲル」撕音「セイ」導キテ振作スル。韓愈ノ詩「所職事無多、又不自提撕」○鞭策、ムチウチハゲマス。馬ヲ御シテ進マシムルニ喻フ。○孟子曰、盡心上。

須氣容肅、口容止、頭容直、手容恭、棲神於背、儼然持敬、就自搜出胸中多少雜念客慮、貨色名利等病根、伏藏以掃蕩之、不然徒爾兀坐瞑目、養成頑空、雖似定氣凝神、抑竟何益。

仁義禮智種種名色、皆是本心呈露、標目有總稱、有子稱、隨處指點、究不過狀一己心體、即是我見在活物、今做此言、亦此是物、故讀書時、當認做講我物、至臨事時、卻當認做讀書、如是互看、於學有益。

學貴自得、人徒以目讀有字之書、故局於字、不得通透、當以心讀無字之書、乃洞有自得。

學人各有得力處、舉與人看固可、但主張太過、標

以爲宗旨、則後必有弊可虞也。

看月、觀清氣也、不在圓缺晴翳之間、看花、觀生意也、存於紅紫香臭之外。

小藥、是草根木皮、大藥、是飲食衣服藥原、是治心修身。玄戰執徐藹月、臥病偶書。

時時提撕、時時警覺、時時反省、時時鞭策。

聖人無爲、固以德感、然其所爲、則爲之。聖人無欲、固無私心、然其所欲、則欲之。孟子曰、無爲其所不爲、無欲其所不欲、如此而已矣。

讀書亦心學也、必以寧靜、勿以躁心、必以沈實、勿以浮心、必以精深、勿以粗心、必以莊敬、勿以慢心。孟子

○尙友、上リテ古人ヲ友トスル。言志錄三九條參看。○史子、歷代ノ歴史ト諸子百家。○相周旋、互ニ追逐シ交際スル。○對越、心ヲ清明ニシテ天地神明ニ答フルナリ。越ハ於ナリ。

○李延平、名ハ侗、字ハ愿中、宋ノ南劍ノ人、羅從彦ニ從ヒテ學ブ。朱熹ハ其門人ナリ。世ニ延平先生ト號ス。○李谷子、宋ノ華陽ノ人、名ハ敏。學行ヲ以テ鄉里ニ稱セラル。自ラ谷子ト號ス。著ニ谷子アリ。○究竟、ツマリ。

○橐籥、音「タク」「ヤク」「フイガウ」。金鐵ガ鍛冶ノ「フイガウ」ニ

カカリテ鍛鍊セラルルガ如ク、十分ニ切礫琢磨シテキタヘラルル義。○碌碌、何等爲ス所ナク、隨從スル貌。

○脩身二字云云、大學八條目中、脩身ノ二字ガ他ノ上下七條目ヲ一貫シテキル義。大學「物格而後知至。知至而后意誠。意誠而后心正。心正而后身脩。身脩而后家齊。家齊而后國治。國治而后天下平」。

○春心、性慾。○節、節制ナリ。○黃欄、木ノ葉ノ黄バミテ美ナルヲイフ。○頽白、老人ノ頭髮ノ黑白半スル者。班白ニ同ジ。孟子、梁惠王上「頽白者不負戴於道路」矣。○遲暮、晚年ヲイフ。楚辭「惟草木之零落兮、恐美人之遲暮」。莫ハ暮ノ古字。陸游ノ詩「年光遲暮壯心違」。○三戒、少年ノ時ハ色、壯年ノ時ハ闘、老人ハ得ヲ戒ムルヲイフ。ココハ老人モ色ヲ戒ムベキヲイフ。論

以讀書爲尙友。故讀經籍、卽是聽嚴師父兄之訓也。讀史子、亦卽與明君賢相、英雄豪傑相周旋也。其不可不清明其心、以對越之乎。

李延平曰、理不患其不一、所難者分殊耳。李谷子反之曰、分不患其不殊、所難者理一耳。余則謂、二先生之言、雖似各有所得、然恐非究竟語。其實眞能知理一者、卽能知分殊者。未知理一、焉能知分殊。眞知分殊者、卽能知理一者。未知分殊、焉能知理一。今以難易言之、見猶未透。

草木之萌芽、必移植而培養之、乃能暢茂條達。子弟之於業亦然、必使之就師於他邦、資其橐籥、然後有

成。碌碌膝下、區區鄉曲、豈有暢茂條達之望。

草木移植、必有其時。培養又有其度。勿太早、勿太遲、勿過多、勿過少。子弟教育亦然。

脩身二字、上一串、心意知物、雖有次第、而工夫則皆脩身內子目、無先後也。家國天下、雖有大小、而隨在皆脩身感應之地、無彼此也。

人至五十已後、有春心再動時候。是衰徵也。將滅之燈、必乍發焰、與此一般。余往年有自警詩曰、晚年莫學少年人、節輒荒、類多誤。身悟得秋冬黃爛際、一時光景似陽春。頽白誰憐遲暮人、自知三戒在終身。要看枯樹閑花發、也是枝頭一刻春。

語、季氏「孔子曰、君子有三戒。少之時、血氣未定、戒之在色。及其壯也、血氣方剛、戒之在鬥。及其老也、血氣既衰、戒之在得。」

○土氣、地氣ニ同ジ。國語、周語「陽輝愷盈、土氣震發」瘴ハ厚ナリ、憤ハ積ナリ。○習氣、一切社會ノ感染ヲ受ケテ生ズル氣質。華嚴經「斷除一切煩惱習氣」○滲染、シミコミソマル。○客氣、環境ノ影響ヨリ來ルモノ。「カラゲンキ」左傳、定公八年「盡客氣也」注「皆眞勇ニ非ザルヲ言フ。○順導、スナホニ導ク。

一 吾 武事不專在武藝。文學不必在文籍。
二 瞽目能以耳視物。聾瘡能以目聽物。人心之靈足賴者如此。

三 人氣質混合土氣習氣。須識別土氣。由其地氣結聚者。竟是主氣也。習氣緣其習俗滲染者。原是客氣也。客可逐而主不可逐。故易變化者習氣不易變化者土氣。土氣止順導之。去其過不及耳。

四 風俗亦人氣也。故有土俗有習俗。習可變而土不可變。是亦止順導之。抑其過而掖其不及耳。爲政者所宜知。

五 草木氣質有清濁輕重寒溫堅脆酸甘辛苦諸毒

○性、本質「タチ」稟性。

○浮屠、佛教。コホハ佛式ヲイフ。○勢笠兩家、伊勢家ト小笠原家ト。足利義滿ノ時、伊勢貞行・小笠原長秀兩人ノ創メタル禮式。○儀注、儀式ノ次第書。○哀敬編、論語八佾「爲禮不敬。臨喪不哀」ノ語ニ取リテ名ヅク。○漸、追追ト禮ヲ行フ。○別、夫婦ノ別ヲ慎ム。

之不同。醫書謂之性。即皆土氣也。人氣質亦然。然其同具生生之理。則一也。

六 仰觀山。厚重不遷。俯見水。汪洋無極。仰觀山。春秋變化。俯見水。晝夜流注。仰觀山。吐雲吞煙。俯見水。揚波起瀾。仰觀山。巍隆其頂。俯見水。遠疏其源。山水無心。以人爲心。一俯一仰。莫非教也。

七 邦俗喪祭。都用浮屠冠婚。依遵勢笠兩家。在吾輩。則自當用儒禮。而漢土古禮。今不可行。須斟酌時宜。別創一家儀注。喪祭。余嘗著哀敬編。冠禮。亦有小著。務要簡切明白。使人易行耳。獨婚禮。則事涉兩家。勢不得如意。當以漸與別爲要。

○祭法、禮記ノ篇名。○有虞氏、舜。○祖、始祖トスル。○顓頊、高陽氏、黃帝ノ孫。少昊ニ代リテ立ツ。

○責善以賊恩、孟子、離婁下「夫章子、子父責善、而不相遇也。責善、朋友之道也。父子責善、賊恩之大者」

○勿忘云云、ソノ事ヲ忘レテモナラヌガ、又人爲的ニ助ケテ長ゼシメントシテモナラス。孟子、公孫丑上「必有事焉。而勿正。心勿忘。勿助長也。無若宋人然。宋人有閔其苗之不長而振之者。芒芒然歸、謂其人曰、今日病矣。予助苗長矣。其子趨而往視

一毛 邦俗、養子承後、雖出於不得已。於道亦不太妨。堯以舜爲壻、後以天下與之。祭法曰、有虞氏祖顓頊而宗堯、則全然與養子承後相類。蓋亦天也。

二天 生生無病、物之性也。其受病、必有可療之藥、即生生之道也。然生物又有變焉、偶有不可藥之病、非醫之罪、譬猶百穀無不生、而時有稗不可食、非農之罪。

三教 教、子、勿溺愛以致縱。勿責善以賊恩。勿忘、勿助長。教、子亦可存此意、嚴而慈、是亦用待子可也。

四 易子而教、固然。余謂有三可擇。師可擇、友可擇、地可擇。

之、苗則稿矣。天下之不助苗長者寡矣。○易子而教、言志錄一四七條參看。

○商出、ハカリイダス。

○喫緊、甚ダシクキビシ。○學問思辨云云、中庸ニ出ヅ言志錄一九九條參看。○戒慎恐懼、中庸「道也者、不可須臾離也。可離非道也。是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞。○丟、音「チユ」去ナリ。方言。○悠渺冥、隨意ニ棄テ置ク義。○悠渺冥、淡、バツトシトリトメナイ。○開氣、豪傑ノ開、世ニ一タビ出ヅルハ、特殊ノ氣運ニ關スルヲ以テイフ。佩文韻府「以豪傑開世」出、關乎特殊之氣運、謂之開氣。○貽孫謀、詩、大雅有聲「貽厥孫謀」後嗣ノ計ヲ爲スライフ。○蠱、蟲ガ食フ。害スルライフ。○虞、夏・商・周、虞舜

一乘除 一理。福幸乘數也。患難除數也。歸之平數、則無福幸、無患難。故乘除、只是屈伸消長之迹耳。

二 人遭患難憂懼時、當自反把從前所受福幸、以乘除之、商出其平數、可也。

三 吾人爲學、只要喫緊實際。終日學問思辨、終日戒慎恐懼、便是見在篤行工夫。學無此外而已。若丟卻見在、另覓之悠渺冥漠、則非吾儒之學。

四 余讀史、歷代開國、人主無非開氣英傑。其貽孫謀亦多。至守成之君、有得於初政、而失於晚節者、尤可惜。蓋其得於初政、固非庸器。但輔弼大臣、不得其人、則往往爲其所蠱、投好中欲、以固一時之寵。於是人主亦不

ヤ夏ノ禹王ヤ、商(殷)ノ湯王ヤ、周ノ文王、武王ノ世。○左輔云云、古、天子ノ左右前後ニ侍スル輔佐ノ臣四人アリ。禮記、文王世子ノ疏ニ「古者天子有四鄰。前曰疑、後曰丞、左曰輔、右曰弼」丞ハ佐ナリ、以上四者ヲ四輔トイフ。

○癸酉、文化十年(一四一)條に天保三年(一〇八)ハ、西(八)ノ誤なるべし。癸巳ハ天保四年、著者年六十四。○王月、正月。○下濬、下旬。○藩鎮、唐代ノ地方官、即チ節度使ヲイフ。玄宗ノ時、邊境ニ於テ十節度使ヲ置キ、以テ外蕃ヲ禦ガシム、其ノ勢日ニ以テ強大トナリ、朝命行ハレズ。

○失言、與ニ言フ可カラザル人ニ對シテ言フハ、是レ言ヲ發スルニ失スルナリ。論語、衛靈公「子曰、可與言、而不與言、失人。不可與言、而與之言、失言。智者不レ失人、亦不レ失言。」○招尤、トガメヲ招ク、尤ハ咎ナリ。

○人情如水、あさしとてせければあふるる川水の心や民の心なるらむ(昭憲皇太后)

○平天下、大學ノ語、一一四條參看。

○典雅、高尚風雅。

○五倫、人ノ履ムベキ五ツノ常道。八一條參看。○三人行必有我師焉。擇其善者而從之、其不善者而改之。行ハ一ニ行ケバトモ訓ム。○夫教婦從、關尹子、三極篇「天下之理、夫者倡婦者隨、牡者馳、牝者逐、雄者鳴、雌者應」

○師嚴道尊、禮記、學記「凡學之道、嚴師爲難、師嚴然後道尊」

自知其過、意滿志懈、以爲無復可虞、終以謬國是、是故虞夏商周、必置左輔右弼、前疑後丞、以全君德、其爲慮也深矣。

君子而不才無能者有之、猶可以鎮社稷、小人而多才多藝者有之、祇足以亂人國。癸酉王月下濬議。

唐代三患、爲外寇、爲藩鎮、爲宦官、人主非不知然終以此斃、以宰輔非其人也、可鑑之至。

能受人言者而後可與一言、與不受人言者言、不翅失言、祇以招尤、無益也。

人情如水、使之如平波穩流、爲得若不然、激之壅之、忽起狂瀾、怒濤、可不懼乎。

凡處事、須要平平穩穩、至於駭人視聽、則事雖善、或傷於小過。

王政只是平穩、平天下、平字可味。

此學不見意趣、咏題風月、亦俗事、苟見意趣、料理錢穀、亦典雅。

余嘗曰、五倫有君臣、無師弟、非無師弟、君臣卽師弟、今更思、師不特有君之尊、而有父之親、則父道亦與師道通、長兄若父、則兄亦有師道、三人行必有我師、則朋友亦相師焉、夫教婦從、則夫亦師、歟、是則五倫配合、無適非師弟矣。

師嚴道尊、爲師者、宜自體察、如何是師嚴、如何是

道尊

一七 物無心。以人心爲心。故人所贈之物、必與其人同氣。失意人贈物、物以失意爲心。豪奢人贈物、物以豪奢爲心。喪人贈物、物以喪爲心。佞人贈物、物以佞爲心。但有名之贈遺、不得不受。而其物與其心感通。如是、則我有所不屑受。唯君父所賜、正人君子所贈、雖微物、甚足敬重耳。

一八 及其老也、戒之在得。得字、不知所指何事。余齡已老、因以自心證之。往年血氣盛時、慾念亦盛。及今血氣衰耗、慾念卻覺較澹泊。但是貪年齒、營子孫念頭、比之往時、較濃。得字、或指此類。不必指得財得物。人死生有

○喪人、猶ホヒ人ト言フガ如シ。公羊傳「喪人不佞、失守魯國之社稷」

○及其老也、戒之在得、論語、季氏。一四九條參看。○死生有命、論語、顏淵。子夏曰、商聞之矣、死生有命、富貴在天。

○蕝、音「キ」求ナリ。○引年、延年ニ同ジ。長壽ナリ。

○芻蕘、音「スウ」「ゼウ」芻ハ「マダサ」蕘ハ草薪。轉ジテ草ヲ刈リ薪ヲ採ル賤人。詩經、大雅板「先民有言、詢于芻蕘」

○衆采、多クノ色ドリ。○賁、音「ヒ」易ノ卦名、離下艮上ナリ。賁ハ飾ナリ、上卦ハ艮ニシテ山ナリ、下卦ハ離ニシテ火ナリ。火ノ山ヲ照シテ草木皆光彩アルヲ以テ賁トイフ。「上九、白賁、无咎」本義ニ「賁、反本、復於無色」象曰、白賁、无咎、上得志也。虚飾ヲ去リテ白賁ニシテ咎無キハ、其志行ハルヲ得ルナリ。○素以爲絢、素ハ白粉ナリ。絢、音「ケン」文采ナリ。

命。今強覓養生、蕝引年、亦不知命。子孫福幸、自有天分。今爲之故意營度、亦不知天。畢竟是老悖衰颯、念頭此都是戒得條件。不知他老人、著做何想。

一九 實言、雖芻蕘之陋、足以動物。虚言、雖能辯之士、不足感人。

二〇 人當自知己才性有短長。

二一 白能受衆采。五色之原也。賁之極、無色爲白。賁、素以爲絢、白也。素其位而行、白也。素履之吉、白也。余嘗攷之、五色之原起於白。白之凝聚爲青、青之舒暢爲黃、黃之爛熟爲赤、赤之積累爲黑、黑之極至、又歸於白。生出流行、蓋亦如此。

詩經ノ語。論語、八佾ニ引キテ「子曰、繪事後素」トアリ。古ノ繪畫ハ先ツ衆采ヲ布キ、最後ニ素ヲ以テ其間ニ分布シ、以テ其文ヲ成スナリ。周禮、考工記「凡畫績之事、後素功」トアルハ是レナリ。朱註ニハ「素ヨリ後ニス」ト讀ミテ、繪畫ハ先ツ素粉ヲ以テ下地ト爲シテ、然後ニ彩色ヲ施ス義トシ、著者モ朱註ニ從ヒタレドモ非ナリ。○素ニ其位ニ而行、中庸第十四章ニ出ヅ。六九條參看。○素履、己ノ本分ヲ守ルヲイフ、素行ニ同ジ。素ハ文飾ナキナリ。易、履卦「初九、素履往、无咎」スナホニ履ミ行フ時ハ往イテ吉ナルヲイフ。本義「以陽在下。居履之初、未爲物遷、率其素履者也。占者如是。則往而無咎也」。

○倚伏、起伏ト同ジ。
 ○豐歉、豐年ト飢饉。
 ○癸巳春季、天保四年ノ暮春。
 ○君子之澤、五世而斬、澤ハ餘澤、斬ハ絶ナリ。孟子、離婁下。○五百年云云、孟子、公孫丑下「五百年必有王者興、其間必有名」

一〇 氣運有小盛衰、有大盛衰。其間亦迭相成、倚伏猶海水有小潮、有大潮。天地間大抵不能逃數、即活易也。

一一 五穀豐歉、亦大抵有數。三十年前後、必有小饑荒。六十年前後、必有大凶歉。雖較有遲速、竟不能免。可不可爲之豫備乎。癸巳春季筆。

一二 三十年爲一世、百五十年爲五世。君子之澤、五世而斬。是盛衰之期限也。五百年有王者興、亦以氣運言。凡有意於世道者、不可不致察。

一三 處一罪科、亦有智仁勇。公以忘愛憎、識以盡情偽。斷以決輕重、識知也。公仁也。斷勇也。

一四 雞鳴而起、人定宴息。門內肅然、書聲滿室。道行妻

世者「堯舜」ヨリ殷ノ湯王マデ、湯王ヨリ周ノ文王・武王マデ皆五百年餘、故ニイフ。
 ○人定、甲夜ヲイフ。午後八時一説ニハ午後十時。○臧獲、奴婢ナリ。九二條參看。○虞、米倉。○俯仰無愧、孟子、盡心上「仰不愧於天、俯不作於人、二樂也」。○清白、清廉潔白。後漢書、楊震傳「使後世稱爲清白吏子孫」。

○顧命、書經ノ篇名。顧ハ還視ナリ。成王將ニ崩ゼントスル時、羣臣ニ命ジテ康王ヲ立ツ。史官其事ヲ序シテ篇ト爲シ、之ヲ顧命ト謂フ。○赤刀、赤削ナリ。武王ガ紂ヲ誅スル時ノ刀、飾ルニ赤ヲ以テス、周ノ正色ナリ。○大訓、三皇五帝ノ書。文王、武王ノ訓誥モ亦其中ニ在リ。○天球、鳴球（玉聲の色）ナリ。玉ノ色天ノ如シ。故ニイフ。○河圖、伏羲ノ時、龍馬、圖ヲ負ヒテ河ヨリ出ヅ。其文ニ則リテ八卦ヲ畫ス。其文、一六下ニ居リ、二七上ニ居リ、三八左ニ居リ、四九右ニ居リ、五中ニ居ル。赤

子、恩及臧獲。家無酒氣、廩有餘粟。豐不至奢、儉不至嗇。俯仰無愧、唯守清白。各有其分。如是亦足。

一五 戲言固非實事。然意之所伏、必露見於戲謔中。有不可揜者矣。

一六 物有一而無二者、爲至寶。如顧命赤刀、大訓天球、河圖、皆有一而無二。故謂之寶。試思、己一身亦是物。果有二否。人不知自重而寶愛之、亦弗思之甚。

一七 處事平心易氣、人自服。纔動於氣、便不服。

一八 寬而不縱、明而不察、簡而不麤、果而不暴、能此四者、可以從政矣。

一九 人或性迫切、好擔當事者。驅使之卻難、迫切者

刀、以下ハ顧命ヲ廉王ニ傳フル時、陳列セル重寶。
○執拗、剛情。
○蔑如、ナイガシラニスル。輕蔑スル。

○養望、名望ヲ培養シテ自ラ高尚ニスル。北史、魏收傳「不養望丘壑、不待價於城市」○苛察、キビシク人ノ過失ヲシラベル。莊子「君子不爲苛察」

○火急云云、日本智囊「小早川隆景、使書佐急作書、謂之曰、事急矣、宜靜心以書之。書佐由是無誤寫」トアルト同ジ。○悞、誤ナリ。

○簡牘、手紙。○應酬、往復ナリ。ヤリトリスル。○嘗、音「ケン」意ナリ。アヤマツ。○巨、音「ハ」不可ナリ。巨革ハ不可革

ト同ジ。○革、易ノ卦名、三三離下兌上ナリ。改革・革新ノ義アリ。革之「夬」ノ之ハ變ズルヲイフ。革ノ第二爻ガ變ジテ夬即チ三三トナリシヲイフ。革ノ六二ノ辭「巳日乃革之。征吉、无咎」ト。本義「六二柔順中正、而爲文明之主。有應於上。於是可革矣。然必巳日然後革之、則征吉而无咎。戒占者。猶未可遽變也」ト巳日トハ「巳」ニ革命ベキ期日ナリ、才足リ位ヲ得、時可ナリ、宜シク進ミテ革命ムベシ、故ニ「征吉、无咎」トイフ。已ムヲ得ズシテ變革セヨトノ義。○夬、音「クワイ」易ノ卦名、三三乾下兌上ナリ。程傳「夬者剛決之義、衆陽進而決去一陰、君子道長、小人消衰將盡之時也」○噬臍、後悔ストモ及ブ可カラザルニ喩フ。左傳、莊公六年「若不早圖、後君噬臍」

銘曰、言語或讟、猶無形迹。簡牘弗慎、追悔巨革。謂此意也。
一五 攻者有餘、守者不足。兵法或其然也。余則謂、守者有餘、攻者不足。以不攻攻之、攻之上也。
一六 事動於不得已、動亦无悔。在革之夬日、巳日乃革之、是也。若其容易紛更、取快一時、雖外面如美、後必噬臍爲政者所宜戒。
一七 敬忠寬厚、信義公平。廉清謙抑、六事十二字、居官者所宜守。
一八 人主之學、在智仁勇三字。能自得之、不特終身受用不盡、而掀天揭地事業、可垂憲於後昆者、亦斷不

以テ高ク擧グルナリ。○後昆、後世又ハ子孫。

○角立、争ヒ立ツ。

○宸居、皇居。○神璽、皇位ノミシルシタル御璽。

○罔、クラシ。

○唐書、イタウジヨシ唐代ノ歴史、新舊二種アリ。○劉書、舊唐書二百卷ヲ斥ス。五代石晉ノ劉昫等詔ヲ奉ジテ撰ス。○歐宋、宋ノ歐陽修・宋祁二人詔ヲ奉ジテ撰セシ唐書二百二十五卷ヲイフ。モト舊唐書ヲ改修セシモノナレバ新唐書トモイフ。○范鑑、宋ノ范祖禹ノ撰セシ唐鑑二十四卷

ヲ斥ス。○温史、宋ノ司馬温公ノ資治通鑑二百九十四卷ヲ斥ス。○宋明二史、宋史ハ元ノ托克托等ノ勅ヲ奉ジテ撰スル所四百九十六卷、明史ハ清ノ張廷玉等ノ勅ヲ奉ジテ撰スル所、三百三十六卷。○浩瀚、廣大ナル貌。轉ジテ卷帙ノ多キヲイフ。○有德者必有言、論語、憲問「子曰、有德者必有言。有言者、不_レ必有德。」○朱呂、朱熹ト、東萊博議ノ著者呂祖謙ト。○擊壤詩、宋ノ邵雍ノ擊壤集、二十三卷附錄一卷ヲ斥ス。其詩、寒山拾得ニ出ヅ。○道學、七_レ條ニ出ヅ。○香山、唐ノ白居易ヲ斥ス。居易、字ハ樂天、香山居士ト號ス。白氏文集七十一卷アリ。○耐、能クナリ。○朱文公、文公ハ朱子ノ諡。○章柳、唐ノ韋應物（韋蘇州集十卷アリ）ト、柳宗元（柳河東集四十五卷外集二卷アリ）ト。○辭尙體要、周公ノ言。書經、畢命「政貴有_レ恆、辭尙體要、不_レ惟好異、趣ノ完ク具ハルヲ體トイヒ、衆體ノ會スル所ヲ要ト謂フ。

出於此。

一六 我邦南北朝、與漢土南北朝、事體迥別。漢土則南北異姓角立、又各相篡奪。真是判爲南北矣。我邦則皇統一姓、宸居雖分南北、而皇胤實無南北。但以神璽所歸爲順而已。烏得與漢土一例視之哉。

一七 本邦事跡、儒者多罔。是衣服在躬、不知其名也。而可乎。

一八 余近爲兒課唐書、昔嘗一過、今則大半忘、如讀未見書、偶記一二在胸閒者、宛如逢故人、太可喜。劉書雖詳而瑣猥、不如歐宋之爲簡淨。范鑑宜與溫史、唐紀並讀、可也。我邦古昔典章、蓋資諸隋唐者不少。故軌範在

此。鑑戒亦在此。不厭熟讀。

一九 宋明二史、事跡人情、於今爲近。但卷帙浩瀚、能抽其要處、讀之可。

二〇 朱子以經學掩文章。有德者必有言。如朱呂二家、真是能文。

二一 擊壤詩、道學之香山也。耐警醒人。宜著意讀。

二二 朱文公詩、實見性情之正。誦之似章柳、而意味自別。

二三 言語文章一也。文宜師經。辭尙體要。周公也。辭達而已。孔子也。

二四 先草創、次討論、次脩飾、最後潤色。鄭國辭命之精

辭合ハ簡實ニシテ體ヲ得ルヲ尙
ビ、浮華ニシテ異ヲ好ムコトヲ
戒ム。○辭達而已、言語文章ハ
意義ノ通達スルヲ以テ本旨トス
ル義。論語、衛靈公「子曰、辭達
而已矣」

○先草創云云、論語、憲問「子
曰、爲命、禘、禘、草創之、世叔討
之、行人子羽脩飾之、東里子產
潤色之」孔子、鄭國ニテ辭命即
チ外交文書ヲ爲スルニ能ク人
才ヲ得タルヲ美メタマヒシナリ
○數賢、裨諶、世叔、子羽、子產ヲ
斥ス。

○詩在言志、書經、舜典「詩言
志、歌永言」○離騷、戰國ノ時、
楚ノ屈原作ル。離ハ遭ナリ、騷
ハ憂ナリ、憂ニ遭ヒテ作ルノ義
○陶詩、晉ノ陶潛ノ詩。陶淵明
集八卷アリ。

○顧亭林、清ノ顧炎武、亭林ト
號ス。博學多識、清朝考證學ノ
開祖タリ。日知錄三十二卷ヲ著
ス。
○議量、推理判斷ヲ要スル議見。
○知識、多見多聞ノ物知リ。○
藥方、藥劑ノ處方。○劄記、見

密不但取、數賢之長。於文章鍛鍊之法、亦宜然。

二八 詩在言志。如離騷、陶詩。尤能言其志。今之詩人、詩
與志背馳。如之何。

二九 應酬文詩、畢竟供人翫弄。可羞之甚。顧亭林曰、能
文不爲文人、能詩不爲詩人。此語太好。

三〇 識量與知識自別。知識在外、識量在內。

三一 人才有虛實。宜辨識。

三二 老人話、不可苟聞。必記之可也。聞藥方、亦必劄記。
益人不少。

三三 文儒一概蔑視。武人俗吏、太錯也。老鍊人話頭、往
往起予。

三四 平心聽之。婦人孺子之語、亦天籟。

三五 論人賢不肖、不必問細行。必須就倫理大節上、觀
其得失如何。不然、則世無全人。

三六 人各有能。無不可器使。一技一藝、皆寓至理。如詞
章筆札、亦是藝。蓋器使中之一耳。

三七 人至老境、體漸懶散、而氣太急促。往往爲人所厭。
余視此、爲鑑。齡踰六十後、尤著功、要氣不失從容。然未
能也。

三八 學而優、則仕、易做。仕而優、則學、難做。

三九 心躁則動妄、心蕩則視浮、心歉則氣餒、心忽則貌
惰、心傲則色矜。昔人嘗有此言、誦之不覺惕然。

開シテ得ル所アレバ隨時ニ簡條
書トシテ輯録スルモノ。札記ニ
同ジ。

○起予、予ノ氣付カザリシ意ヲ
起發スル所アルヲイフ。論語、
八佾「子曰、起予者、商也。始可與
言詩已矣」朱註「起、猶發也。起
予、言能起發我之志意」

○天籟、天然ノ音響。莊子、齊物
「女聞人籟、而未聞地籟。女聞
地籟、而未聞天籟」轉ジテ言語
文章ノ自然ナル者ヲ天籟トイフ。

○全人、キズノ無キ完全ナル人。
○器使、人ヲ使フニ其ノ才能ノ
長ズル所ニヨリテ用フルヲイフ。
○懶散、物ウクナゲヤリニスル。
○急促、セハシク性急。○著功、
修養ニ工夫ヲ用フル。

○學而優則仕云云、優トハ餘力
アルナリ。論語、子張「子夏曰、
仕而優則學。學而優則仕」

○歎、アキタラズ、不滿ナルコ
ト。○氣餒、孟子、公孫丑上。氣
力ノ萎縮スルヲイフ。○昔人、王
陽明ヲ斥ス。觀德亭記中ニ在リ。

○禹吾無閒然論語、子罕、子曰、禹吾無閒然矣。非飲食、而致孝乎鬼神、惡衣服、而致美乎黻冕、卑宮室、而盡力乎溝洫。禹吾無閒然矣。閒然トハ缺漏ヲ指摘シテ誹ルコト。

○肝氣、肝臟ヨリ出ヅル氣、即チ怒氣ナリ。三才圖會「肝者將軍之官、謀慮出焉。屬風木、性動而急也、故爲將軍之官。肝者木之精也、人怒則無不色青、目眼張者其效也」俗ニイフ癩癩持。

○齎用、ヲシミテ使フ。

○周易、周代ノ易、即チ今ノ易經。○兩呂復古、周易ハ、經傳卷ヲ分チタリシガ、漢ノ費直始メテ傳ヲ以テ經ノ下ニ附シテヨリ、鄭玄・王弼等之ニ從ヒシヲ、宋人呂大防ト呂東萊トハ、經傳分卷ノ古ニ復シタルヲイフ。即

名雖不可求、亦不可棄、棄名斯棄實矣。故不可交、非類以壞名。不可犯、非分以損名。不可近、權豪以貶名。不可黷、貨財以汚名。

人乞物於我、勿厭。我乞物於人、可厭。

運財有道、在不欺人。不欺人、在不自欺。

今之欲爲君興利者、非不焦心苦思、然有自利一念、插在其間、則君利竟不能興。

取信於人、則財無不足。

禹吾無閒然矣。飲食衣服宮室、知其所輕重、必如是、而財亦不乏。

有肝氣者、多卜急。又不能容物、每失人和。故雖有

好意思、不耐完成。或謂稍有肝氣、卻能了事。余則謂肝氣惡、能濟事。厯足灑掃一室耳。

理財、當著何想。余謂財者、才也。著想當如驅使才人。然辦事在才、取禍亦在才。可不慎乎。

財者天下公共之物。其可得自私乎。尤當敬重之。勿濫費、勿齎用、愛重之、可也。愛惜之、不可也。

器物必有正副、而後無缺事。凡將區處一事、亦當立案、開兩路、如正副然。

周易、自兩呂復古、而朱子用其本、亦有見。程傳、則名傳注、而實與經亞。不論書本之古今、最高。

尚書亦有古今文。而今之所傳、即古文經、無可疑。

チ大防ハ古經ノ錯亂セルヲ歎キテ周易古經十二篇ヲ定メ、東萊ハ晁説之ノ古文易八篇ニ因リ、朱子モ亦其ノ編次ニ本ヅキテ古易ニ復シテ本義十二卷、易學啓蒙三卷ヲ作レリ。○程傳、程頤ノ撰セシ伊川易傳四卷ヲイフ。○與經、經文ニ亞ギテ貴キ名傳注。

○尙書、書經ヲイフ。秦ノ博士伏勝ノ傳フル所ノ者ヲ今尙書トイヒ、漢ノ景帝ノ時、孔子ノ舊宅ヲ壞チテ得タル者ハ皆科斗ノ文ナリシガ故ニ古文尙書ト名ヅク。○閻若璩、清ノ大儒、尙書古文疏證八卷ヲ著シ、古文ノ偽タルコトヲ痛擊ス。○毛奇齡、古文ヲ辯護セントシテ古文尙書冤詞八卷ヲ著シテ閻ノ説ヲ反駁ス。○非經、經ヲ誹ル。○沙汰、粗ヲ去リテ精ヲ取ル。

○濂・洛、宋ノ周敦頤、字茂叔ハ濂溪ニ居リ、程頤、字伯淳、其弟頤、字正叔ハ洛陽ノ人、皆道學ノ大儒。故ニ竝稱ス。

○訓詁、訓ハ句意ナリ、詁ハ字義ナリ。漢書、揚雄傳「雄少而

宋以後、信疑分曹、近世閻若璩著疏證、而毛奇齡冤之、是也。凡五經中確言之夥、莫若此經。乃妄沙汰之、不翅非尊經之道、而更有非經之罪。

三 學苟原本濂洛訓詁、則假令用漢唐亦無妨。試思之、古今無訓詁、字爲逆親、訓忠字爲叛君者。

三 兵書亦宜一涉。孫吳固佳、孫子筆鋒、與兵法亞。但有意於著書、吳子較著實、昔人亦云。

三 陰陽變化、使人不識其端倪。莊周謂之詭弔、孫子詭道、卽是。

三 宋代創武經七書之名、除孫吳外、都屬僞贗。但其言之可取、不必問眞贗可也。如近世俞戚諸著、亦有實

好學、不爲章句訓詁、通而已。詁ハ一ニ故ニ作ル。○漢唐、宋儒ノ註釋ニ對シテ古註ヲイフ。

○逆親、父母ニ逆フ。○叛君、君ニ叛ク。

○一涉、ヒトワタリ讀ム。

○孫吳、周ノ孫武ノ著孫子ト、吳起ノ著吳子ト。史記ニ孫武・吳起列傳アリ。

○端倪、端ハ山嶺、倪ハ水涯ナリ、本末終始ヲ測リ知ル可カラザルヲ不知ニ端倪トイフ。莊子、大宗師ニ出ヅ。○詭弔、弔詭ノ誤カ、弔音「テキ」至ナリ、詭ハ怪ナリ、至リテ怪異ナル義。莊子、齊物「丘也與、女皆夢也、予謂女夢亦夢也。是其言也、其名爲弔詭。」○詭道、不正ノ道ヲイフ。孫子、始計「兵者詭道也、故能而示之不能。」○武經七書、宋ノ元豐中ニ六韜、孫子、吳子、司馬法、黃石公三略、尉繚子、李衛公問對ヲ以テ武學ニ分チ號シテ七書トイフ。○俞戚、俞名ハ大猷、明ノ晉江ノ人。洗海近事ヲ著シ、用兵ノ委曲ヲ論ズ。戚、名ハ繼光、明ノ定遠ノ人。紀效新書、練

得。

三 先爲不可勝、以待敵之可勝。是其下手處、必以全爭於天下。是其著眼處、校之以計、而索其情。是其祕密處。

三 聖賢故舊不遺、是美德也。卽人情也。余家小園、無他雜卉、唯有石榴、紫薇、木犀三樹耳。然此樹植在四十年外。朝昏相對、與主人偕老矣。夏秋閒、花頗可觀。足以娛心目。是老友也。余性於草木、嗜好較澹。然此三樹、眷愛特厚。凡交之舊者、畢竟不能忘。是人情也。故舊不遺、情與此一般。

三 余左右聘用、凡硯諸具、率皆爲五十年前所得物。

兵實記等ヲ著ス。
○先爲不可勝云云、必以全云云、校之以計云云、共ニ孫子ノ語。

○故舊不遺、論語、泰伯「君子篤於親、則民興於仁、故舊不遺、則民不偷」○石榴、「ザクロ」○紫薇、「サルスベリ」○百目紅、「○木屋、モクセイ」

○晏子一狐裘三十年、晏子ハ齊ノ景公ノ賢臣、節儉力行ヲ以テ重ンゼラル。禮記、檀弓下「有若曰、晏子一狐裘三十年、晏子焉知禮」
○弱冠、二十歳。曲禮「二十曰弱冠」

○視・觀・察、視ハ見ヨリハ氣ヲ付ケテヨク見ル、觀ハ視ヨリハ更ニ詳カニ見ル。察ハ觀ヨリハ層審カニ見ル。論語、爲政「子曰、視其所由、觀其所由、察其所安。人焉廋哉、人焉廋哉」

○知命・樂天、易、繫辭上「樂天知命、故不憂」
○天保丁酉、八年(二四九七)○瓜月、陰曆七月。

○在聖人爲知命、論語、爲政「子曰、四十而不惑、五十而知天命」○展、墓參ナリ、省墓ノ義。禮記、檀弓下「展墓而入」鄭注「展、省視之」○誘衷、天ガ人心ヲ導キテ善ヲ爲サシムル義、左傳、僖公廿八年「今天誘其衷、使皆降心以相從也」衷ハ中ナリ。

○含産、ハニカム、蒲道源ノ詩「晨妝初罷含尙産」○鉛華、オシロヒ曹植ノ賦「芳澤無加、鉛華不御」○褪、音「トシ」調「アス」色ガサメル。

舊則不忍屏棄。因念晏子一狐裘三十年、亦恐不必在儉齋。

三 余弱冠前後、銳意讀書、欲目空千古。及過中年、一旦悔悟、痛戒外馳、務從內省。然後自覺、稍有所得、不負於此學。今則老矣、少壯所讀書、過半遺忘、茫如夢中事。稍留在胸臆、亦落落不成片段。益悔半生費力無用。今而思之、書不可妄讀、必有所擇、且熟可也。只要終身受用足矣。後生勿蹈我悔。

四 余自翻轉視觀察、姑配一生、三十已下、似視時候、三十至五十、似觀時候、五十至七十、似察時候。察時候、當達於知命樂天、而余齡今六十六、猶未能深入理路。

而況於知命樂天乎。餘齡無幾、不容不自勵。天保丁酉瓜月記。

五 齡比五十、閱歷日久、鍊磨已多。在聖人爲知命、於常人亦爲從政、事時候。然以世態習熟、易生驕慢、則其失晚節、亦在此時候。可不慎乎。余以文政辛巳、往美濃、鈍尾、訪七世八世祖故墟、抵京師、展五世六世祖墳墓、歸途過東濃巖邑、謁女兒、時齡適五十、因益加自警。至今年、犬馬齒六十有六、無疾病、無事故、保全首領、蓋誘衷使然、一何幸也。

六 婦人齡四十、亦爲一生變化時候。三十前後猶含羞、且多有舅姑在上。比至四十、鉛華漸褪、頗能料理人事。因或得賢婦稱、多在此時候。然又以其漸忘含羞、無

○易曰云云、離卦三三九三、日昃之離、不鼓缶而歌、則大耋之嗟、凶。及日傾、夕而歌、缶ハホトギ(瓦器)ナリ、蓋ハ八十ヲイフ、九三ハ内卦ノ極ニ在リ、此ノ日將ニ没セントシテ又來日アラントスルノ象ナリ、故ニ日昃之離トイフ。天道流行シ、日月盈虚ス、盛アレバ必ズ衰アリ、始アレバ必ズ終アルハ天地ノ常道ナリ。達人ハ命ヲ知り、日傾クノ時ニ方リテ武缶ヲ擊チテ歌ヒ樂ムベシ。若シ從容トシテ天

所脩飾、則或挾機智、縱淫妬、大失婦德、亦多在此時候。其一成一敗之關、猶男子五十時候、可不知預爲之防乎。

血氣有老少、志氣無老少。老人講學、當益勵志氣、不可讓少壯人。少壯人春秋富、假令今日不學、猶容有來日、可償。老人則真無來日、尤當勿謂今日不學而有來日。易曰、日昃之離、不鼓缶而歌、則大耋之嗟、謂此也。偶有所感、書以自警。天保八年嘉平月朔錄。

孟子三樂、第一樂說事、親似少年時事、第二樂說成己、似中年時事、第三樂說成物、似老年時事。余自顧、齡已桑榆、父母兄弟皆亡、何樂之有。但自思察、我身

ヲ樂ム能ハザレバ、徒ニ身ノ老衰ヲ嗟憂スルモ何ノ益カアラン、凶ナル所以ナリ。
○天保八年、著者六十六歳。
○嘉平月、陰曆十二月。
○孟子三樂、孟子、盡心上「孟子曰、君子有三樂、而王天下、不與存焉。父母俱存、兄弟無故、一樂也。事親、少年時仰不愧於天、俯不作於人、二樂也。成己、中年時得天下英才、而教之、三樂也。」
○成物、老年時君子有三樂、而王天下、不與存焉。
○桑榆、日暮ナリ。日西ニ傾キテ影、桑榆ノ上ニ在リ。人ノ老イテ死期ノ迫レルニ喻フ。後漢書、循吏傳「年歲有訖、桑榆行盡」榆ハ「ニレ」ノ木。
○雞鳴而起、禮記、内則「子事父母、雞初鳴、咸盥漱云云」○一响、一刻ニ同ジ。响、音「シヤウ」少シノ時間。○夜氣、夜間ニ生息スル所ノ清明ノ氣。孟子、告子上「其日夜之所息、平旦之氣、其好惡與人相近也幾希。則其且晝之所爲、有梏亡之矣。梏之反覆、則其夜氣不足。以存。夜氣不

即父母遺體、兄弟亦同一氣、則我今自養、自慎、弗虧、弗辱、即可以當事親。歟。至於教育英才、固非我易能。然亦可以不盡己乎。獨不作不愧、則不止。中年時事、而自少至老、一生受用、當慎守之。夙夜弗諼。如是則三樂皆可、以爲終身事矣。

每旦、雞鳴而起、澄心默坐。一响、自察、夜氣存否如何。然後出、蓐盥嗽、讀經書。日出視事。每夜昏刻、至人定、了內外事、有閒則讀古人語錄。人定後、亦澄心默坐。一响、自省、日間所行當否如何。然後就寢。余近年欲守此、以爲常度。然此事似易而難、不能常常如是。是稟酬酢紛紜中、不可忘提醒工夫。

足_レ以存_レ則其違_レ禽獸_レ不_レ遠矣_一
 ○辟_レ、梅_ニ同ジ_一「シトネ」○盥
 嗽、手ヲアラヒロフス。○
 人定、甲夜、今ノ午後八時。後
 漢書、來歙傳ノ語。通鑑ノ註、
 「日入りテ羣動息ム。故ニ甲夜ヲ
 人定ト謂フ」一説ニ人ノ寐靜マ
 ル時、今ノ午後十時。海錄碎事
 「柳公綽、毎日與_レ子弟論_レ文、或
 講_レ求_レ蒞_レ官治_レ家之要_一至_レ人定鐘
 鳴_レ始_レ就_レ寢_一
 ○酬酢、杯ノ獻酬(ヤリトリ)轉ジテ
 人ト應待スルコト。○提醒、我
 ガ本心ヲ喚ビ醒ス。
 ○弄_レ光景、想像ヲ馳スル。
 ○放鬆、ホシイママニシテシマ
 リガナク、我儘一杯ナルコト。
 鬆音「シヨウ」緊(キビシ)ノ反、虛
 ニシテ實ナラザルナリ。○安排
 矯揉、安排ハ加減シテ工夫ス
 ル。矯揉ハ無理ニタメ直ス。○
 天和、自然ノ中和ノ氣。
 ○概、戸ヲ納メタル棺。○擡、
 「モダゲル」○辟、避ケル。○變
 貌、論語、鄉黨「見_レ齊衰者、雖_レ狎
 必變_レ齊衰者ハ喪服ヲ著ケタル
 人。○縹緞者、「ナハツキ」罪人

一 道理不可不辨明。而或動聲色、則見器小。道理不
 可_レ不_レ默識。而徒弄_レ光景、則入_レ狂禪。
 二 放鬆任意固不可。安排矯揉亦不可。唯不_レ縱_レ不_レ束、
 從容以養_レ天和、即便敬也。
 三 凡_レ評論古今人、不得_レ不是_レ非_レ。然宜_レ舉_レ其長處、以形
 其短處。又十中七揭_レ是、十中三黜_レ非、亦忠厚。
 四 邦俗途遇_レ樞時、貴人則輿夫擡_レ輿_レ走_レ行、徒行者則
 左右顧_レ而唾_レ太_レ無_レ謂_レ也。宜_レ旁_レ辟_レ佇_レ立_レ少_レ俯_レ。是_レ哀_レ喪_レ而變
 貌_レ也。又途遇_レ縹緞者、則宜_レ亦_レ旁_レ辟_レ勿_レ正_レ視_レ。是_レ惡_レ罪_レ而恤
 人_レ也。瞽者則宜_レ我_レ辟_レ路_レ勿_レ令_レ僮_レ僕_レ喝_レ。是_レ仁_レ者_レ之_レ用_レ心_レ也。
 然在_レ貴_レ人_レ具_レ儀_レ衛_レ騶_レ從_レ、則行_レ路_レ自_レ有_レ常_レ法_レ。不_レ必_レ得_レ如_レ是_レ。

ナリ。○僮僕、從僕。○喝、シ
 カル。○騶從、貴人ガ他出スル
 時、騶馬ニテ前後ニ隨從スル人。
 東齊紀事「祥符中、祭文忠狀元
 及第、上命特給_レ騶從傳呼_一。○繳
 音「シヤク」トドメル。

○周官云云、周官ハ周禮ナリ。
 周禮、春官占夢「以_レ日月星辰
 占_レ六夢之吉凶。一曰、正夢。二曰、
 噩夢。三曰、思夢。四曰、噩夢。五曰、
 喜夢。六曰、懼夢。○畸夢、變リ
 タル「ユメ」。○權教、方便ノ教。

但宜_レ令_レ從_レ者體_レ知_レ此意。至_レ如_レ遇_レ樞若_レ罪人、擡_レ輿_レ疾_レ走_レ、則
 令_レ繳_レ之_レ可_レ也。

一 善念萌時、其夜必安眠。無夢有夢、則或見_レ正人、
 或見_レ君父、或值_レ吉慶事。如_レ周官正夢喜夢之類。又一安
 念起時、其夜必不安眠。眠亦多_レ雜夢、恍惚變幻、或見_レ小
 人、或見_レ婦女、或值_レ危難事。如_レ周官畸夢懼夢之類。及_レ醒
 後、自思察夢中所見_レ正人君父、即我心也。吉慶事、即我
 心也。皆善念所_レ結_レ之象。又其所見_レ小人婦女、亦即我心
 也。危難事、亦即我心也。皆妄念所_レ結_レ之象。蓋一念善妄
 之形、諸夢寐、可_レ不_レ自_レ反_レ乎。死生晝夜之道也。佛氏設_レ地
 獄天堂之權教、亦恐說_レ心之真妄、得_レ無_レ與_レ此夢覺相_レ彷彿。

○六夢、前條ヲ看ヨ。○幾、キザシ、機ト同ジ。○兆、睽、キザシ、睽ハ目兆ナリ、吉凶ノ形兆ヲ謂フ。睽、俗ニ通ジテ睽ニ作ル。

○三不朽、左傳、襄公二十四年「豹聞之、太上有立德、其次有立功、其次有立言、雖久、不廢、此之謂不朽」豹ハ叔孫豹。○有德者必有言、道德アル人ハ必ズ名言アルヲイフ。論語、憲問「子曰、有德者、必有言。有言者、不必有德。仁者必有勇。勇者不必有仁」○補天浴日、昔、女媧氏ガ五色ノ石ヲ鍊リテ天ノ闕ケタルヲ補

ヒ、義和ハ日ヲ甘淵ニ浴セシム。以テ國家ニ大功アルヲイフ。宋史、趙鼎傳「張浚出使川陝、國勢百倍於今。浚有補天浴日之功」○濂洛、濂溪ノ周茂叔ト洛陽ノ二程子ト。○紫陽、朱熹ガ福建省ノ崇安ニ建テタル書院ノ名。因リテ朱子ノ稱トス。○金谿、陸九淵（象山ト號ス）ヲ指ス。○張、呂、張栻、南軒ト呂祖謙（東萊ト）ト。○靜修、劉因（靜修ト稱ス）至元年間ノ人。○魯參、元ノ世祖ノ頃ノ人許衡ノ號、參ハ齋ニ同ジ。○崇仁、縣名、江西豫章道ニ屬ス、吳澄草廬ノ郷里、因リテ吳澄ヲ指ス。○河東、薛瑄（字ニ德温、敬軒ト號ス）ノ郷里、因リテ瑄トス。○餘姚、餘姚ノ人王陽明ヲ指ス。○增城、增城ノ人湛若水（甘泉ト號ス）ヲ指ス。

佛邪。

三 夜間形閉而氣專於內、則成夢。凡晝間所爲、皆可_ニ以現象、不止周官六夢也。如前所說、亦就善妄、以舉其_一一端、不必拘事象也。然天地與我同一氣、而數理、則前定矣。故偶有幾洩於前、以入兆睽者、謂之感夢。唯心清胸虛者、多感夢、常人或尠矣。

三 三不朽、必本於德。有德者必有言。是知德立則言立。德惟善政。是知德立則功立。吾求之古人、兼此三者、不見幾人。苟有之、吾將尙友之、不暇尙何問其小疵。是我志也。

三 先賢有補天浴日大事業。其自視漠然如輕靄浮

雲然。吾聞古有其人矣。今則夢寐而已。

三 濂洛復古之學、實爲孔孟之宗。承之者、紫陽、金谿、及張、呂。雖有異同、而其實皆純全道學。決非俗儒之流。於元則靜修、魯參。明則崇仁、河東、餘姚、增城。是其選也。亦雖各有異、皆一代之賢儒。其遡濂洛、則一也。上下千載、落落唯有此數君子而已。吾取而尙友之。於心樂焉。

凡貳百伍拾伍條

入學說附

吾人爲學、當先自問其入學初心何如也。其心必欲學

爲君子乎不乎於此趣向一錯雖日從事此學而終身無得不徒無得而適足以爲長傲飾非之資故入學之初心乃途蹊之所由分也蓋其心果在於欲爲君子而志願緊切絕無他念則爲學之本立斯可以入學矣既有此志也自能脩飾不敢爲不善但靈光未透事多疑惑不得不詢諸父兄諮於諸友而父兄諸友之誨我輔我者皆我之所未慮及乃敬而聽之信而從之躬於是寡愆行事於是少過舉既是學也要我志之所至也然而父兄諸友得詢而諮之而聖賢前哲則今無由親聞其言矣必欲更進以資之益也於是乎求良師而學焉爲師者教之不乖其方導之不失其序我能聽其指授

○人一己百中庸「人一能之己百之、人十能之己千之」

○倍蓰、倍ハ一倍、蓰ハ五倍。孟子、滕文公上「曰、夫物之不齊、物之情也。或相倍蓰、或相什伯、或相千萬」
○面命、マノアタリ教ヘル。詩經、大雅抑「匪面命之、言提其耳」
○屠昆、音「ソフ」チフ前後相次グ。跡ヲ追ヒテユク。
○芻蕘、賤者ヲイフ。詩經、大雅板「先民有言、詢于芻蕘」先民ハ古ノ賢人、芻蕘ハ草ヲ刈リ薪ヲ采ル者、古人ハ詢フコトヲ尙ビテ芻蕘ニ及ブ、況ヤ其ノ同

以學於古訓、人一己百、反覆熟思、愈入愈深、愈造愈遠。蓋其理致之精微奧妙、果有以懸絕常凡者矣。敬而遵奉之、信而恪守之、驗諸躬而省乎心、習於事而察乎物。聰明日開、義理日晰、動靜語默、將於是乎中其度。處事接物、將於是乎適其宜、而殊覺其有所進益發悟、不翅倍蓰。平昔、尤是學之所在、要亦我志之所至也。然則始之聞諸父兄、口語猶讀書也。後之得於聖賢遺訓、猶面命也。皆自我之志而求之矣。故欲爲君子之志益切、期於屠昆聖賢、以盡人倫、則其求諸己者、所以去人欲、存天理之功、既無不至、而父兄師友、以至於芻蕘、邇言自不得不問。聖賢之遺訓、以至於子史前哲之書、自不

僚ヲヤ。
 ○通言、通ハ近ナリ、淺近ノ言
 ナイフ。中庸、子曰、舜其大知也
 與。舜好問而好察、通言。
 ○以一口耳爲學、耳ニ聞キタル
 コトヲ其マ、口ニ言シテ已ニ
 益スル所ナキ學問、道聽塗說ノ
 學問、耳學問。荀子、勸學、小
 人之學也、入乎耳、出乎口、口耳
 之間、則四寸耳、易足以美七尺
 之軀、哉。
 ○餘蘊、餘シ包ムトコロ。

得不熟讀而深思之。遂其沛然不可禦者、皆無非我一
 志之所流注。是乃爲學趣向之正路。然世之以口耳爲
 學者、入學之志已錯矣。故其弊亦不厘無益也。先賢
 立志之訓、蓋無餘蘊。然此意亦當參互而得之。

言志後錄

言志晚錄

單記積年、又成一堆。及輯錄、則略以類相從事。亦
 多係釋褐後錄起。天保戊戌孟陬月、至嘉永己酉
 仲春月。

一齋老人自題

○單記、一ツ一ツ記錄スル。○
 釋褐、褐ハ毛布ナリ、賤者ノ著
 ルモノ。之ヲトキテ官服ヲ著ク、
 即チ仕宦スル義。正字通、士初入
 仕、謂之釋褐。○天保戊戌、天
 保九年、(二四九)著者六十七歲。
 ○孟陬月、正月ノ異名。○嘉永
 己酉、嘉永二年。著者七十八歲。

一爲學緊要、在心一字。把心以治心、謂之聖學。爲政著
 眼、在情一字。循情以治情、謂之王道。王道聖學、非二。
 二狂者進取、狷者有所不爲。子路冉有、公西華、志在進

バズシテ、守餘リアル者。論語、子路「子曰、不得中行而與之、必也狂狷乎。狂者進取、狷者有所不爲也。」○孟子以爲狂、孟子盡心下「敢問、何如斯可謂狂矣。」曰、如琴張、曾皙、牧皮者、孔子之所謂狂矣。」

○求冠童、論語、先進「點曰、莫春者、春服既成。冠者五六人、童子六七人。浴乎沂、風乎舞雩、詠而歸。夫子喟然歎曰、吾與點也。」點ハ曾參ノ父曾皙ノ名。○討出、タグネイダス。

○源頭來處、ミナモトノ出デ來ル處。

○隤然、柔カニカタマリタル貌。隤音「タイ」

○事上鍊磨、仕事ノ上ニ心ヲ鍊リ磨ク。○沈潛云云、書經、洪範

ノ語。沈潛ハ心ノ沈著ナル義。剛克ハ剛ヲ以テウチカツ。柔克ハ柔ヲ以テウチカツ。

○發憤忘食云云、論語、述而「葉公問孔子於子路。子路不對。子曰、女奚不曰、其爲人也、發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至云爾」

○人心之靈云云、大學章句第五章補傳「蓋人心之靈、莫不有知」

○嵐霧指南、モヤキリノ中ノ指南車。方向ヲ教ヘ示スヲイフ。昔黃帝ガ蚩尤ト戰ヒシ時、蚩尤大霧ヲ作シ兵士皆迷フ。是ニ於テ指南車ヲ作り以テ四方ヲ示シ

取。曾皙獨異其撰。而孟子以爲狂、何也。三子進取在事。曾皙進取在心。

三 曾皙齡老。宜求老友。卻求冠童。不賞幽寂。卻賞豔陽。既浴且風。亦不似老者事。此等處。須善討出。狂者心體。

四 吾人工夫。在於自覓自觀。義理混混而生。似有物。不認源頭來處。似無物。

五 胸次虛明。感應神速。

六 心要平。平則定。氣要易。易則直。

七 人皆知仰而蒼蒼者爲天。俯而隤然者爲地。而不知吾軀皮毛骨骸之爲地。吾心靈明知覺之爲天。

八 爲人沈靜者。工夫尤宜勉事上鍊磨。恢豁者。則工夫

宜不忘靜坐脩養。其實動靜非二。姑因病藥之。卽是沈潛剛克。高明柔克。

九 發憤忘食。志氣如是。樂以忘憂。心體如是。不知老之將至。知命樂天如是。聖人與人不同。又與人不異。

一〇 學者當先自認己有心。而後存養得力。又當自認己無心。而後存養見效。

二 認以爲我者。氣也。認以爲物者。氣也。其知我與物皆爲氣者。氣之靈也。靈卽心也。其本體性也。

三 人心之靈。莫不有知。只此一知。卽是靈光。可謂嵐霧指南。

三 提一燈。行暗夜。勿憂暗夜。只賴一燈。

遂ニ蚩尤ヲ擒ニセシ故事（古今注）ニ本ヅク。嵐霧ハ情欲ニ喻フ。
○天下之物莫不有理、大學章句補傳ノ語。○孟子曰、盡心上ニ出ヅ。天地萬物ノ道理ハ一切自分ノ性ノ中ニ具有シテキル。

○是非窠中、善ト惡トノ穴ノ中。

○逐客、客氣ヲ逐フコト。○克己・復禮、克己ハ一身ノ私欲ニウチカツ。復ハ反ナリ、歸ナリ、天カラ與ヘラレタル自然ノ儀則（禮）ニ復歸スル。論語、顏淵、顏淵問仁。子曰、克己復禮爲仁。
○形後、形有リテ後、即チ形而

下。○形前、形有ル前、即チ形而上。○浩然之氣、浩然ハ盛大流行ノ貌。孟子、公孫丑上「我善養吾浩然之氣」氣トハ理ニ對シテ一身ノ氣ヲイフ。○太極之呼吸、萬有本體ノ運用ヲイフ。
○飛潛、飛ブ鳥ト潛ム魚ト。○深造而自得之、奥深キ仁義ノ道ニ至リテ自ら會得スル。孟子、離婁下「君子深造之以道、欲其自得之也」

○九族、高祖・曾祖・祖父・父・己・子孫・曾孫・玄孫。

四 天下之物、莫不有理。此理即人心之靈。學者當先窮在我之萬物。孟子曰、萬物皆備於我矣。反身而誠、樂莫大焉。即是。

五 倫理物理同一理也。我學倫理之學、宜近取諸身、即是物理。

六 人皆在是非窠中。送日、然多是日閒瑣事、不過利害得失數件。如真是非、則無人討出來。學者須能自覺。七 濁水亦水也。一澄則爲清水。客氣亦氣也。一轉則爲正氣。逐客工夫、只是克己。只是復禮。

八 窮理固窮之亦是理。

九 理本無形。無形則無名矣。形而後有名。既有名、則理

謂之氣、無不可。故專指本體、則形後亦謂之理。專指運用、則形前亦謂之氣。竝無不可。如浩然之氣、專指運用、其實太極之呼吸、只是一誠。謂之氣原、即是理。

三 程子言萬物一體。試思天地間、飛潛動植、有知無知、皆自陰陽陶冶中出來。我其一也。讀易窮理、深造而自得之、真知萬物之爲一體。程子前絕無此發明。

三 我身一也。而有老少焉。知老少之爲一身、則知九族之爲我身。知九族之爲我身、則知古往今來之爲一體。萬物一體、是橫說。古今一體、是豎說。須善忘形骸、而自得之。

三 物我一體、即是仁。我執公情、以行公事、天下無不服。

○周子、周敦頤。○伊川、程頤。○餘姚、王陽明。

○堯以是傳之舜云云、韓愈ノ原道「堯以是傳之舜、舜以是傳之禹、禹以是傳之湯、湯以是傳之文、武、周公、文、武、周公傳之孔子」論語、堯曰「堯曰、吾爾舜、天之曆數在爾躬、允執其中、四海困窮、天祿永終、舜亦以命禹、云云」○濂溪、周敦頤。○明道、程顥。○訓詁、經書ノ意義ヲ講解スル。

○主靜、妄想ヲ去リ、心ヲ靜ニスル。之ヲ爲スニハ靜坐ヲ肝要トス。○圖說、宋學ノ淵源タル周濂溪ノ太極圖說ヲ指ス。○程伯子、兄ノ程明道ヲイフ。○叔子、弟ノ程伊川ヲイフ。○朱、陸、朱熹ト陸九淵ト。

○引滿、十分ニ弓弦ヲ引キシボルト。○正鵠、射的。布ニ畫クヲ正トイヒ、皮ニ棲マシムルヲ鵠トイフ。

○百世不遷、太祖ノ廟ノ定メナリ。○薛王、薛瑄ト王陽明ト。

○伊洛、程頤・程顥ノ二人。伊川、洛陽ニ居リタルガ故。○蜀、朔之與洛爲各黨、宋代學者ノ黨ヲ分チテ相攻メシヲイフ。蜀黨ハ蘇軾ヲ主トシ、朔黨ハ劉摯、王巖叟、劉安世ヲ主トシ、洛黨ハ程頤ヲ主トス。○南渡、高宗ガ都ヲ臨安ニ遷シ南宋ト稱セシヲイフ。○某、朱子自ライフ。○子靜、陸象山ノ字。○建安無、朱元晦云云、建安ハ朱子ノ生地。青田ハ陸子ノ生地。建安ニ亦朱子無ク、青田ニ亦陸子無シ。ドコマデモ論辨セザル可カラズトノ

治亂之機在於公不公。周子曰、公於己者、公於人。伊川又以公理釋仁字。餘姚亦更博愛爲公愛。可并攷。

此學有傳之傳、有不傳之傳。如堯以是傳之舜、舜以是傳之禹、則傳之傳也。禹以是傳之湯、湯以是傳之文、武、周公、文、武、周公傳之孔子、則不傳之傳也。不傳之傳在於心、不在於言。濂溪明道蓋接傳於百世之下矣。如漢儒所云傳則訓詁耳。豈足謂之傳乎。

周子主靜、謂心守本體。圖說自註、無欲故靜。程伯子因此有天理人欲之說。叔子持敬工夫亦在此。朱陸以下、雖各有得力處、而畢竟不出此範圍。不意至明儒、朱陸分黨如敵讐。何以然邪。今之學者、宜以平心待之。

取其得力處可也。

學有次第、猶執弓挾箭、引滿而發、直指本體、猶懸以正鵠、期於必中。

孔孟是百世不遷之祖也。周程是中興之祖。朱陸是繼述之祖。薛王是兄長之相友愛者。

朱陸同宗伊洛、而見解稍異。二子竝稱賢儒、非如蜀朔之與洛爲各黨。朱子嘗曰、南渡以來、理會著實工夫者、惟某與子靜二人。陸子亦謂、建安無朱元晦、青田無陸子靜。蓋其互相許如此。當時門人、亦有兩家相通者。不爲各持師說相爭。至明儒、如白沙、篁墩、餘姚、增城、竝兼取兩家。我邦惺窩、藤公、蓋亦如此。

意。元晦ハ朱子ノ字。○白沙、陳獻章ナリ。字ハ公甫、白沙里ノ人。其學虛靜ヲ尙ブ。白沙集アリ。○篁墩、程敏政ナリ。字ハ克勤。學問該博ニシテ、一時ノ冠タリ。孝宗ノ時經筵ニ直ス。篁墩集アリ。○增城、湛若水ナリ。字ハ元明、甘泉ト號ス。增城ノ人。王陽明ノ學友。○陸文安、陸象山ナリ。文安ハソノ諡。○紫陽、朱子ヲイフ。○遂密、陸オクブカクコマカ。○金溪、陸象山。○濂洛之學、周濂溪ト明道・伊川二程子トノ學。○周軒、岩村侯ノ老職、佐藤勘平ノ號。○後藤松軒、名ハ進。三河ノ儒者。

元惺窩藤公答林羅山書曰、陸文安天資高明、措辭渾浩、自然之妙、亦不可掩焉。又曰、紫陽篤實而邃密、金溪高明而簡易、人見其異、不見其同。一旦貫通同歟、異歟、必自知、然後已。余謂我邦首唱濂洛之學者、爲藤公。而早已并取朱陸如此。羅山亦出於其門。余曾祖周軒受學於後藤松軒、而松軒之學亦出自藤公。余欽慕藤公、淵源所自、則有乎爾。

元博士家古來遵用漢唐註疏。至惺窩先生始講宋賢復古之學。神祖嘗深悅之。舉其門人林羅山。羅山承繼師傳、折中宋賢諸家。其說與漢唐殊異。故稱曰宋學而已。至於闡齋之徒、則拘泥過甚、與惺窩羅山稍不同。

○鷲峯、春齋ト號ス。羅山ノ子。

○尊德性云云、中庸「君子尊德性而道問學」德性ハ我が天ヨリ受ケタル本性即チ至誠ノ徳。問學ハ學問。

○廣視豁步、悟脫大觀ノ意。○南軒、張栻字ハ敬夫、朱子ノ學友ナリ。

言惺窩羅山課其子弟、經業大略依朱氏、而其所取舍、則不特宋儒、而及元明諸家。鷲峯亦於諸經有私考、有別考。乃知其不拘一家者顯然。

三尊德性。是以道問學。道問學、卽是尊德性。先立其大者、則其知也。眞能迪其知、則其功也。實。畢竟一條路、往來耳。

三明道定性書。精微而平實。伊川好學論。平實而精微。伊洛之源在此、非二也。學者眞能知之、則異同紛紜之論可息矣。

三周子程伯子爲道學之祖。然門人或誤成廣視豁步之風。南軒嘗病之。朱子因矯以逐次漸進之說。然而後

○乖悟、ソムキモトル。

○無極・太極、宋史、周茂叔傳「自無極而爲太極」ト、朱子ハ自爲ノ二字、前賢ノ累ヲ爲シ、後學ノ疑ヲ啓クトテ之ヲ改メテ「無極而太極」(無中有在を生ずる意)ト作ス。朱子文集ノ記濂溪傳「答陸子靜」書ノ二文ニ見ユ。太極ハ天地ノ未ダ開ケザル時ヲイフ。○錚錚、金鐵ノ聲。スゲレタル人物ニイフ。後漢書、劉盆子傳「聊所謂鐵中錚錚者」

○象山、陸象山。名ハ九淵、字ハ子靜。

○南軒、東萊、張南軒・呂東萊。○象山、龍川、陸象山・陳龍川。

人又誤成支離破碎。恐與朱子本意乖悟可省。

朱陸異同、在無極太極一條。余謂朱子所論爲精到不可易。然象山尙往復數回不已。亦交遊中錚錚者。但疑兩公持論與平昔所言各異。朱子說無、陸子說有。如易地然何邪。

學人徒是非訓註之朱子、而不知道義之朱子。是非言語之陸子、而不知心術之陸子。道義心術途無兩歧。象山雖以濂溪明道爲依據、而太厭立門戶。嘗曰此理所在、安有門戶、可立學者各要護門戶。此尤鄙陋。信此言也、足見心之公平。

南軒東萊、朱子之親友也。象山龍川、朱子之畏友也。

後之學者、分黨相訟、恐非朱子之本意。

象山宇宙內事、皆已分內事、此謂男子擔當之志如是。陳澹引此註射義極是。

吳隨處體認天理。吳康齋有此言、而甘泉以爲宗旨、餘姚致良知亦其所自得。但覺餘姚爲緊切。

古之儒、立德之師也。師嚴而道尊。今之儒、則立言耳。言不由德、竟是影響。何嚴之有、可不自反乎。

余沈思義理時、覺胸中寧靜、氣體收斂。講說經書時、覺胸中醒快、氣體流動。

講說時、只要我口之所言入我耳、耳之所聞再返於心、以爲自警。吾講已有益於我、不必問聽者如何。

○陳澹、元代ノ學者、字ハ雲柱、江西昌都ノ人。禮記集說ヲ著ス。○射義、禮記ノ篇名、故男子生、桑弧六、蓬矢六、以射天地四方。天地四方者、男子之所有事也。註「宇宙內事皆已分內事。此男子之志也」。○吳康齋、明ノ人吳與弼。學者康齋先生ト稱ス。○甘泉、湛若水。明ノ增城ノ人。○立德、立言、左傳、襄公二十四年「大上有立德、其次有立功、其次有立言、雖久不廢、此之謂不朽」。○師嚴而道尊、師ガ嚴格ナレバ自然ニ其道モ尊嚴ナリ。禮記、學記「師嚴然後道尊、然後民知敬學」

○君子喻於義云云、論語、里仁
 「君子喻於義、小人喻於利」○
 嚼蠟、甚ク味無キニ喻フ。楞嚴
 經「當橫陳時、味如嚼蠟」○象
 山說此、象山ノ朱子ヲ南康ニ訪
 ヒシ時、朱子之ヲ白鹿洞書院ニ
 迎ヘ、門人ノ爲ニ此章ノ講述ヲ
 請ヒシヲイフ。
 ○伯兄、長兄。○季、末弟。○
 如網在綱、條理ノ整然タルヲ
 イフ。書經盤庚「如網在綱、有
 條而不紊」○雲出岫、陶淵明
 歸去來辭「雲無心而出岫」本體
 ヨリ說キ起シテ自然ニ出ヅルヲ
 イフ。岫トハ山ノ「ホラアナ」
 ○詩、詩經。○書、書經。○註
 脚、註解ノ義。古書ノ註解ハ本
 文ノ下ニ兩行ニ記スルガ故ニ脚
 トイフ。宋史、陸九淵傳「六經
 注我、我注六經。學苟知本、六經
 皆我注脚」
 ○習語、平生イヒナラハシノ言
 葉。
 ○魯論、今ノ論語。

○通鑑綱目、五十九卷。朱子、
 司馬光ノ資治通鑑ニ據リテ此書

望講說在其人、不在口辯。如君子喻於義、小人喻於利、
 常人說此嚼蠟無味、象山說此、則使聽者愧汗、勿視爲
 易事。

講大學、如網在綱。講中庸、如雲出岫。
 望易是性字、註脚。詩是情字、註脚。書是心字、註脚。

望講書與作文不同。作文只要翻習語、做漢語。講書則
 翻漢語、以做習語。於教授爲第一緊要事。不可視爲容
 易。

望經書不可不講明。就中以易書魯論爲最緊要。
 望朱子不作春秋傳、而作通鑑綱目、不註戴記、而編儀

ヲ撰ス。○戴記、大小戴禮ヲイ
 フ。戴德・戴聖二人ノ作ル所ナ
 ルガ故。○啓蒙、易學啓蒙三卷。
 朱子撰ス。○楚辭註、楚辭ハ周
 ノ末、楚ノ大夫屈原ノ詞賦ヲ集
 メタルモノ。朱子、楚詞集註ハ
 卷ヲ撰ス。○陰符、陰符經一卷、
 黃帝ノ撰ト稱スレドモ、後人ノ
 依托ナリ。朱子、陰符經考異一
 卷ヲ撰ス。○參同、周易參同契
 三卷。朱子考異一卷ヲ撰ス。佛
 書ノ參同契ト異リ。

○因噎廢食、一度ムセビシニ
 ヨツテ食物ヲヤメル。些少ノ障
 礙ニヨリテ肝要ナルコトヲ廢ス
 ルニ喻フ。淮南子、説林訓「有
 以噎死者、而禁天下之食、則悖
 矣」

○達意、論語、衛靈公「子曰、辭
 達而已矣」○言志、書經、舜典
 「詩言志」○綺語、キレイデア
 ナノアル言葉。
 ○脩辭立誠、易、文言「脩辭立
 其誠、所ニ以居業也」

○王文成、王陽明、文成ハソノ
 諡。王文成公全書アリ。○陳龍

禮經傳通解、可謂一大識見。啓蒙不可欠。小學亦好撰
 但楚辭註、韓文考異、在可有可無之間。至於陰符參同、
 則竊驚訝。何以弄此泛濫之筆邪。

望著書只要自怡悅。不要初有示人之念。

吾文詞筆翰、藝也。善用之、則於心學亦有益。或以溺志
 病之、是因噎廢食。

吾文能達意、詩能言志。如此而已。綺語麗辭、比之佞口。
 吾曹所不屑焉。

吾文詞可以見其爲人。況復留貽於後。宜以脩辭立誠
 爲眼目。

望王文成、拔本塞源論、尊經閣記、可謂古今獨步。陳龍

川、宋ノ陳亮。龍川文集三十卷アリ。○方正學、明ノ方孝孺。正學ハソノ書齋ノ名。遜志齋集二十四卷アリ。○顏頴、鳥ガ飛ンデ上ルヲ頴トイヒ、飛ンデ下ルヲ頴トイフ。勢力相上下シテ甲乙ナキヲイフ。詩經、邶風、燕燕「燕燕于飛、頴之頴之」○倚伏、互ニヨリツキマトフ。老子「禍兮福之所倚、福兮禍之所伏」

○狂聞、耳ニキキナレル。

○鎔化、トカシテ我ガ物トスル。

○入路、「ハイリミチ」

川、酌古論、方正學、深慮論、隔世而相頴頴。竝爲有識之文。
 宇宙開一氣斡旋。開先者必有結後。持久者必有轉化。抑者必揚、滯者必通。一隆一替、必相倚伏。恰是一篇好文辭。
 吾獨得之見似私。人驚其驟至。平凡之議似公。世安其狂聞。凡聽人言、宜虛懷而邀之。勿苟安。狂聞可也。
 吾自得畢竟在己。故能取古人得力處。而鎔化之。今人無自得。故鎔化亦不能。
 吾古人各有得力處。舉以指示可也。但其入路各異。後人不能透會得之。乃偏於所受。執一以爲宗旨。終至於

○即便、「スナハチ」○舵、「カチ」

○顏淵、仲弓、論語、顏淵「顏淵問仁。子曰、克己復禮爲仁……」顏淵曰、回雖不敏、請事斯語矣。同篇「仲弓問仁。子曰、出門如見大賓……」仲弓曰、雍雖不敏、請事斯語矣。○子張、論語、衛靈公「子張問行。子曰、言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦、行矣……」子張書諸紳。○子路、論語、子罕「子曰、不枝不求、何用不臧。子路終身誦之。」○服膺、胸ニツケテ忘レナイ。中庸「拳拳服膺而弗失之。」○標目、目ジルシ。

生流弊。余則欲透會爲一、不立名目。蓋其不立名目、即便我宗旨也。人或議曰、如是、則如無舵之舟、不知泊處。余謂、心即舵也。其著力處、在各人自得。不必同也。蓋執一廢百、卻不得泊處。
 顏淵、仲弓、請事斯語。子張書諸紳。子路終身誦之。在孔門、往往有服膺一二要語。如是、可謂親切矣。與後人標目之類不同。
 吾余年少時、於學多有疑。至中年亦然。每一疑起、見解少變。即覺學稍進。及至近年、則絕無疑念。又覺學亦不進。乃始信白沙所云、疑者、覺悟之機也。斯道無窮、學亦無窮。今雖老矣、可不自厲乎。

○白沙、明儒、陳獻章、字ハ公甫、其學靜ヲ以テ主ト爲ス。仕ヘズシテ白沙里ニ居リ、性命ノ學ヲ講ズ、門人白沙先生ト稱ス。

白沙集十二卷有リ。○厲、礪ニ同ジ。

○精義入神云云、易、繫辭下傳「精義入神以致用也。利用安身以崇德也」折中ニ曰ク「精義入神ハ、則チ知ル所ノ者精深ナリ、窮理ノ事ナリ。利用安身ハ、則チ行フ所ノ者純熟ス、盡性ノ事ナリ」○燧取火、燧ヲ以テ火ヲ取ルガ如シノ意。○室、刀ノ「サヤ」

○地頭、猶ホ地面トイフガ如シ。地頭不同ハ段ガチガフ意。○輿儻、從者「ケライ」○熈、クラブ。比較スル。○隻焉、ハルカナル貌。○窠臼、「アナ」

○考據、考證スル。○時好、トキノコノミ。

吾少而學、則壯而有爲。壯而學、則老而不衰。老而學、則死而不朽。

空精義入神、燧取火也。利用安身、劍在室也。

空今之學者、不失於隘而失於博、不失於陋而失於通。

空心理是豎工夫、博覽是橫工夫、豎工夫、則深入自得、

橫工夫、則淺易汎濫。

空漢儒訓詁之傳、與宋賢心學之傳、地頭不同。況於清

人考據一派、真是漢儒輿儻、媿諸宋賢所爲、隻焉不同。

我黨勿墜渠窠臼可。

空清初考據之學盛行、其閒唯李二曲、顧黃梨洲、宗義

湯潛菴、斌彭南、昀定求、彭樹廬、士望、諸輩、竝於此學爲

○從大者云云、孟子、告子上「從其大體爲大人、從其小體爲小人」ト。朱註ニ「大體ハ心ナリ、小體ハ耳目ノ類ナリ」ト。○攷據、前條ノ考據ニ同ジ。攷ハ古文。○器使、道具ノ各、ソノ用ヲ異ニスルガ如ク、ソノ人ノ材能ニ從ヒテ用フルコト。論語、子路「子曰、君子易事而難說、說、及、其使、人也、器之」○屹屹、極メテ勉強スル貌。○忸怩、深ク心ニ恥ヅル。

○心學、享保中石田梅巖(勘平)手島堵庵(嘉衛門)アリ。天明中、中澤道二アリ。神儒佛三教ノ趣旨ヲ平易ニ説キテ俗人ヲ教化スルモノ。一ニ道話トイフ。○鄉愿、鄉黨ノ僞君子。○武弁、武士、弁ハ武人ノ冠。

○林兆恩、莆田ノ人。字ハ懋助、龍江又子谷子ト號ス。世ニ三教ノ先生ト稱ス。○三教、儒佛道ノ三教。○心齋、王良、字ハ汝

有見要與時好殊異、學者不妨讀其書以取舍之。

空從大者爲大人、從小者爲小人。今之讀書人、以攷據

瑣猥爲能事、畢生事業止此。亦可嘆。於此有一大人焉。

將曰、人各有能、可器使、使彼屹屹考索、而我取以用之、

我不勞力、而彼亦效其能、便也。試思、使大人視己、以爲

器使、一輩中物、能無忸怩乎。

空世有一種稱心學者、於女子、小人、非無寸益。然要爲

鄉愿之類。士君子學此、則汨流俗、失義氣、尤非武弁所

宜。人主誤用之、使士氣怯懦、殆不可。

空明季、林兆恩合三教爲一。蓋學心齋、龍溪而失者也。

與此、閒一種心學、誘愚夫愚婦者、相類、要不足齒牙耳。

止。王陽明ノ高弟。學者心齋先生ト稱ス。泰州ノ人。○龍溪、王畿、字ハ汝中、明ノ浙江山陰ノ人。王陽明ノ高弟。學者龍溪先生ト稱ス。龍溪全集アリ。○不足齒牙、齒牙ニ掛クルニ足ラズノ略。論議スルニ足ラナイ。史記、叔孫通傳「此特羣盜鼠竊狗盜耳。何足置之齒牙間」。○楊慈湖、楊簡、字ハ敬仲、陸象山ニ學ブ。學者慈湖先生ト稱ス。○金溪、陸九淵、即チ象山。○鄒東廓、名ハ守益、字ハ謙之、正徳ノ進士第一タリ。學者東廓先生ト稱ス。○歐陽、名ハ徳、字ハ崇一、南野ト號ス。王陽明ノ門人。○聶、名ハ豹、字ハ文蔚、雙江ト號ス。吉安永豐ノ人。王陽明ノ説ヲ好ミ、弟子ヲ以テ自ラ處ル。○彬彬、文ト質ト兩ナガラ盛美ナル貌。○萎茶、シボミツカルル。茶音「テツ」疲ナリ。○委吏、委積ヲ司ル役。倉番。○乘田、牛羊ヲ畜フ役人。孟子、萬章下「孔子嘗爲委吏矣。曰、會計當而已矣。嘗爲乘田矣。曰、牛

究王龍溪幾爲餘姚晚年弟子。受教日淺、其說過高妙。遂來陽儒陰釋之譏。猶與宋代有楊慈湖貽累於金溪同一類。其他門人如鄒東廓守益歐陽南野德聶雙江豹、竝爲彬彬有用人物。宜無混看。吉我當視人之長處。勿視人之短處。視短處則我勝彼。於我無益。視長處則彼勝我。於我有益。志出人上。非倨傲之想。身甘人後。非萎茶之陋。聖人之心。見於辭氣容貌。於其地與人各異。未知孔子爲委吏乘田時。於長官果何如。鄉黨不載。學者宜推勘。或曰、和悅而諍。目觀者、口能言之。耳聞者、口能言之。至於心得者、則

羊茁壯長而已矣。○鄉黨、論語ノ鄉黨篇。此篇ニ多ク孔子ノ容貌言行ヲ記錄ス。○逆而得之、孟子、萬章上「不以文害辭、不以意逆志、是爲得之」。○打做、一片、合セテ一ツニスル。○涉目、目ヲ通ス。○默契、口ニ言ハズシテ心ニ會得スル。○主靜、妄想ヲ去リ、心ヲ靜カニスル。朱熹曰ク「明道教人靜坐、李先生亦教人靜坐。始學工夫須是靜坐。則本原定」。又曰「不必盡日讀書、或靜坐存養、皆是用功處」。○各半工夫、讀書ト靜坐トヲ半分ツツ分ケテスル。○蚊蠶、カト「ア」ト。○瞑目、調息之空觀、目ヲ閉ヂ呼吸ヲトトノヘル野狐禪ナドノツマラヌ行。

口不能言。即能言亦止一端。在學者之逆而得之。吾欲把讀書靜坐打做一片。因自試之。讀經時寧靜端坐。披卷涉目。一事一理。必求之於心。乃能默契之。恍有自得。此際真是無欲。即是主靜。不必做一日各半工夫。端坐讀經時、閒思妄念、自然消滅。猶香氣滿室、蚊蠶不能入。不似瞑目調息之空觀。矣。讀經宜以我之心讀經之心。以經之心釋我之心。不然、徒爾講明訓詁而已。便是終身不曾讀。主人爲地氣之精英。生於地而死於地。畢竟不能離地。宜察地體爲何物。朱子謂地卻是有空闕處。天之氣貫

○彷彿、ボンヤリト似テ居ル。夢覺ニ同ジ。

○震爲乾陽初起、震ノ卦☳震下震上ノ象ニ就イテイフ。一陽一陰ノ下ニ生ジ動キテ上ル。雷ノ象アリ。○離虛、離ノ卦☲離下離上、兩陽一陰ノ外ニ著シ。ソノ象ヲ火トナス。中ハ陰ニシテ虚ナリ。○坎實、坎ノ卦☵坎下坎上、坎ハ陷ナリ。一陽二陰ノ中ニ陷ル。ソノ象ヲ水ト爲ス。陽陰中ニ陷ル、外ハ虚ニシテ中ハ實ナリ。

○良、其背ニ云云、易ノ良卦ノ象辭。本義「良其背、則止於所當止也。止所當止、則不隨身而動矣。是不有其身也。如是則雖有於庭除有入之地、而亦不見其人矣。蓋良其背、而不獲其身者、止而止也。行其庭

在地中、卻虛有以受天之氣、理或然。余所作地體圖、不知能得彷彿否。

○震爲乾陽初起、即氣原也。其發而感離虛、則爲雷霆。觸坎實、則爲地震。於人爲志氣。動天驚地、事業亦不外此震氣。

○充人身、膺爲受氣之蒂、則震氣自此而發。宜畜實於膺下、函虛於膺上、呼吸與膺上相消息、筋力自膺下而運動。思慮云爲、皆根柢於此。凡百技能亦多如此。

○良其背、不獲其身、行其庭不見其人、敬以存誠也。震驚百里、不喪匕鬯、誠以行敬也。震良正倒、工夫歸於一。坐暗夜者、忘體軀、行明晝者、辨形影。

△誠意兆於夢寐、不慮之知使然。

△以天感者、不慮之知也。以天動者、不學之能也。

△靈藥誤用、則斃人。利劍倒柄、則自傷。學術乖方、則自戕、又賊人。

△治心法、須認得至靜於至動中。呂涇野謂、用功不必山林、市朝亦做得。此言然。

△體實而虛、心虛而實。中孚之象、卽是。

△引滿中度、發無空箭。人事宜如射然。

△余好觀演武技、觀之不以目而以心。必先收呼吸、以邀渠呼吸、不問勝敗、而視其順逆、甚適也。此亦是學。凡爲士君子者、今皆稱武士、宜自顧其名、以責其實。

而不見其人者、行而止也。動靜各止其所、而皆主夫靜焉。所以得无咎也。○震驚百里、易、震卦ノ象辭。雷ノ聲ノ百里ヲ驚カスモノアリトモ、宗廟ノ祭祀ニヒ鬯ヲ執ルモノハ、誠敬ヲ致スガ故ニソレヲ取リ落サナイ。ヒハ「サジ」鬯ハ地ニ灌イデ神ヲ降スニ用フル鬯ノ酒。○震良正倒、震ハ☳ニテ正ナリ。良ハ☱ニテ倒ナリ。

○不慮之知、孟子、盡心上「人之所不學而能者、其良能也。所不慮而知者、其良知也」。○倒柄、エヲサカサニ持ツ。○戕、ソコナフ。

○呂涇野、明ノ高陵ノ人、呂柟ナリ。字ハ仲木、涇野ハ其號。○中孚之象、易ノ中孚ノ卦☱兌下巽上ノ象ニ「澤上有風、中孚」程傳「澤上有風、感于澤中、水體虛故風能入之。人心虛故物能感之。風之動乎澤、猶物之感于中。故爲中孚之象」。

務其職以副其名。

士而志於文。是居武而學文也。勿虛文以柔情。勿虛武以躁暴。

國亂而殉身。易世治而壘身難。

前人謂英氣害事。余則謂英氣不可無。但露圭角爲不可。

刀槩之技。懷怯心者。屺賴勇氣者。敗必也。泯勇怯於一靜。忘勝負於一動。動之以天。廓然太公。靜之以地。物來順應。如是者。勝矣。心學亦不外於此。乙於甲。藏甲於乙。謂之護身之堅城。壘形以方止。勢以圓動。城陣行營。其理一也。

○壘、身ヲ粉ニクダク。

○前人、程子。○英氣、剛明秀發ノ氣象。○圭角、カドダチテ物ニ觸レ易シ。孟子集註序說「程子曰、孟子有英氣、才有英氣、便有圭角、英氣甚害事。如顏子、便渾厚不同。渾厚ハ圭角ナク圓満ナリ。」

○刀槩之技、擊劍ト槍術。○屺、音「ヂク」敗ルル。○廓然、空シク大ナル貌。○物來順應、動クベキニ動クヲイフ。程明道ノ定性書「君子之學、莫若廓然而太公、物來而順應。」

○乙・甲、乙ハ柔日（乙・丁・己・辛・癸）甲ハ剛日（甲・丙・戊・庚・壬）仍リテ剛柔ノ義トス。列子

「欲剛必以柔守之、欲強必以弱保之」

○軍旅、イクサノコト。

○震良工夫、前ノ八〇條參看。

○髣髴、サモニタリ。

○不獲其身、前ノ八〇條參看。

○自反而縮、孟子、公孫丑上「自反而縮、雖千萬人吾往矣」縮ハ直ナリ。

○吳子、一卷、戰國ノ時、吳起ノ撰セシ兵書。語ハ圖國篇ニ出ヅ。

○務攬英雄之心、三略上「主將之法、務攬英雄之心」主將タル者ノ心得ハ第一ニ羣雄ノ歡心ヲ得ルヲイフ。○以天下之所從云云、孟子、公孫丑下「以天下之所順、攻親戚之所畔。故君子有不戰、戰必勝矣」

矣軍旅亦有禮樂。

矣兵家說鍊心膽。與震良工夫髣髴。

矣無我則不獲其身。即是義無物則不見其人。即是勇。

矣自反而縮者。無我也。雖千萬人吾往矣。無物也。

道者所以反本復始。語見吳子。吾不意兵家講破此道學。

此道學。

務攬英雄之心。霸者以之。以天下之所從。攻親戚之所畔。王者以之。

前徒倒戈。攻于後。以北。武王之心。此時果何如。以爲快乎。蓋亦惻然痛或有愧焉。

知彼知己。百戰百勝。知彼似難而易。知己似易而

後「以北」○有愧焉、書經、仲虺之誥「惟有慙德」トアルヲ用フ。

○知彼知己云云、孫子、謀攻「知彼知己、百戰不殆」

○避實擣虛、孫子、虛實「夫兵形象水。水之形、避高而趨下、

兵之形、避實而擊虛」

○當頼人心、孟子、公孫丑下「地利不如人和」ノ意。○師律、軍律、イクサノ「キマリ」律ハ法ナリ。易、師卦「坎下坤上」

「初六、師出以律」

○都城、江戸ノ城下。○侯家、諸侯ノ城下。

○國初、徳川幕府ノ初期。○顧盼、フリカヘリテヨコ目ニ見ル。後漢書、馬援傳「武陵蠻反。援又請行。帝怒其老。援被甲上馬、據鞍顧盼、以示可用。帝曰、嬰鏢哉是翁也」

○梓弓「アツサユミ」

難シ

二四 敵在背後、兵家之所忌。避實擣虛、兵家之所好。地利得失、防禦形勢、宜以此致察。

三五 勿頼器械、當頼人心。勿問衆寡、當問師律。

二六 都城置十隊、八方之防火。極有深慮。蓋不專在撲滅、而在指揮操縱之熟。侯家亦宜體其意、勿令騎將徒華麗其服、以競觀美爲得。

二七 國初、武士上下皆能泅泳、與調騎相若。今則或不慣、恐爲缺事。軍馬宜用野產。古來駿馬多野產。余少時好馭野產。今則老矣、不能據鞍顧盼、可嘆。

二八 我邦自古長弓箭。然於古皆木弓。卽所謂梓弓。或

謂、木弓、騎上最便、須查。

二九 有攻法、必有守法。禦大炮、聞西蕃用鍛牛革形屋大須查。

三〇 戎器中、宜眞縮遠鏡、又齋大小壺盧、竝爲有用物。不可欠。

三一 竊地道之祕者、可以語霸。極天道之蘊者、可以言王。

三二 天地間、事物必有對、相待而固。不問嘉耦、怨耦、相爲資益。此理須商思。

三三 英傑、非常人物、固爲不世出。然屈於下位、不得志、則不能肆其能。幸得地位、則或圖遠略。古今往往有之。

○西蕃、西夷ナリ。○屋大、家程ノ大キサ。

○戎器、兵器。○縮遠鏡、望遠鏡。○壺盧、瓢箪。

○蘊、奥深イ處。

○嘉耦、怨耦、善イ相手ト惡イ相手。○商思、ハカリオモフ。

○海警、海防ノ警戒。○金城湯池、極メテ堅固ナ城ト「ホリ」漢書、蒯通傳「必將嬰城固守、皆爲金城湯池、不可攻也」○巨煩、大砲。○寇戎、來リアダスル戎狄。

○趨避、オモムクト避ケルト。○聲端、戰ヲ開ク「イトグチ」○異域、外國。

○崎、長崎。○不逞之徒、ヨロシカラザルトモガラ。○蕃舶、西洋ノ船。○漢・滿、支那ト滿洲。○徒聞、イタヅラニ心ヲ用ヒズシテ聞ク。

○將卒必驕云云、史記、項羽紀「戰勝而將驕卒惰者敗」トアルト同意。○衄、敗北スル。

○敵國外患、法家拂士、孟子、告子下「入則無法家拂士、出則無敵國外患、國恆亡」朱註「法家ハ法度アル世臣、拂士ハ輔弼ノ

不知當今諸蕃君長人物果何如。蓋有備無患。我惟當致警於無事之日耳。

二四 海警不可不豫備。然環浦之廣其可以盡爲防禦乎。莫若固結民心以爲金城湯池。沿海皆能如是。外寇不足爲虞。不然雖設數萬巨煩亦足以資寇戎無益也。

二五 士氣不振則防禦不固。防禦不固則民心亦不能固然。其振起士氣在人主之自奮以爲率先。無復別法可設。

二六 膺海防之任者以得民和爲先。器械次之。又須校彼此長短以爲趨避。尤要勿啓聲端以貽後患。

二七 我邦獨立不仰異域。海外人皆知之。不如確守舊

法之爲善。功利人好事不可濫聽。

二八 余往年遊於崎聞崎人之話曰。漢土有不逞之徒多出奔於滿州。自滿再投於蕃舶。故蕃舶中往往有漢人爲之耳目。可憎之甚。今漢滿一家。關門不嚴不可奈何。此話非可徒聞。

二九 戰伐之道勝於始者將卒必驕。驕者怠怠者或衄乎終。衄於始者將卒必憤。憤者厲厲者遂勝乎終。故爲主將者不必論一時之勝敗。只能振厲士氣鼓舞義勇使之勝而不驕。衄而不挫。是爲要而已。

三〇 人主宜以敵國外患爲藥石。以法家拂士爲良醫。則國不足治。

賢士ナリ。拂音「ヒツ」弼ニ同ジ。○盤、醫ニ同ジ。○矜不能云云、論語、爲政「舉善而教不能則勸」○乘數、掛ケ算。○讒慝、人ヲザンゲンスル惡心アル者。左傳、僖公二十八年「開執讒慝之口」○物情、人情。○除數、割リ算。

○三軍、周代ノ制、大諸侯ノ出ス兵數。一軍ハ一萬二千五百人。轉ジテ三軍ハ大軍ノ義トス。○書云、書經、皐陶謨ニ出ヅ。人臣ガ互ニ同ジク謚ミテ、恭敬ヲ協ヘ、心ヲ和ゲテ公事ニ奉ズルヲイフ。○一串、一貫ト同ジ。○王荆公、王安石、荆國公ニ封ゼラル、故ニイフ。○羣宵、多クノ小人。羣小ト同ジ。○輔相、宰相。

三 舉賢才、則百僚振、矜不能、則衆人勸。乘數也。猜大臣、則讒慝興、疏親戚、則物情乖。除數也。須能慎幾、先以慮來後。

三 凡事有似有功而無功、有似有弊而無弊。況於經數年、見效之事、宜先熟圖其終始、而後做起。不然、功必不完、或中廢、至於不可償。

三 三軍不和、難以言戰。百官不和、難以言治。書云、同寅協恭、和衷哉。唯一和字、一串治亂。

三 王荆公本意、在堯舜其君、而其所爲皆在功利、則羣宵希旨、競以利進、遂一敗不能保終。究亦自取、可惜。後之爲輔相者、所宜鑑。

○公溥、公平ニシテ普通ナルコト。○執拗、ガウジヤウデ心ガネジケル。

○創業、守成、創業ハ業ヲ前ニ造ル。孟子、梁惠王下「君子創業垂統、爲可繼也」守成ハ造リシ業ヲ守リ續ケル。漢書、公孫

三 有才而無量、不能容物。有量而無才、亦不濟事。兩者不可得兼、寧舍才而取量。

三 居相位者、最宜明通公溥。不明通則偏狹、不公溥則執拗。

三 氣運有常變、常是變之漸、不見痕迹。故謂之常變。是漸之極、見痕迹。故謂之變。如春秋是常、夏冬是變。以其漸與極也。人事常變、亦係氣運之常變。故當變革之時、天人齊變。有大賢出世、必又有大奸出世。以其變也。常漸之時、則於人亦無大賢奸。

三 創業、守成之稱、泛言開國繼世耳。其實則創業中有守成、守成中有創業。唯能守成、是以創業。唯能創業、

弘傳「守成上文、遭遇右武」貞觀政要「唐太宗謂侍臣曰帝王之業、草創與守成孰難」○成湯之續禹舊服、書經、仲虺之誥、出「舊服」元「服」行「事」業、續「繼」ナリ。○武王之反「商」政、云云、書經、武成ニ出「出」グ。紂ノ虐政ニ反シテ、先王ノ舊政ヲ用フル。○成王之立「政」云云、書經、立「政」ニ出「出」グ。○畢公之道云云、書經、畢命ニ出「出」グ。升降ハ隆汚トイフガ如シ。

○成「趣」、庭園ノ木石ナドノ位置ヲカヘテ、佳キ趣ヲ成ス。歸去來辭「園日涉以成趣」

○臺閣、尙書省ヲイフ。今ノ内閣。

是以守成。如成湯之續禹舊服。茲率厥典。武王之反商。政由舊。是創業之守成也。如成王之立政。立事。畢公之道。有升降。政由俗革。則謂之守成之創業。可也。但氣運有常變。故人與物亦從之。

一、物得所。是爲治。事乖宜。是爲亂。猶治園也。樹石位置。得其恰好。則朽株敗瓦。亦皆成趣。故聖人之治世。無棄人。

二、歷代開國之初。人人自靖。治務太閒。昇平日久。則上自臺閣。下至諸局。規則完備。簿書累堆。愈久愈多。於是瑣末式法。不勝繁蕪。亦勢之必至此。時唯當以務除苛細。歸諸簡淨。爲要。平世著眼處。蓋在此。

○興利云云、元史、耶律楚材傳「楚材每言興一利、不若除一害、生一事、不若減一事」

○著龜、著、音「シ」。「メドギ」其莖ヲ筮（うらなひ）ニ用フ。龜ハカメノ甲、マタトニ用フ。卜筮ノ間違ナキニ喩フ。中庸「見乎蓍龜、動乎四體」○磊磊落落、胸中ノ俗達ナル貌。晉書、石勒載記「大丈夫行事、當磊磊落落、如日月之皎然」一本ニ磊ヲ確ニ作ル同ジ。

○巖穴之心、山ノ中ニ隱居シタル人ノ心地。

○左者、違フモノ。○容、可ト略、同ジ、許容ノ意アリ。不「容」、豈容ト連用シ、單用スルコト希ナリ。

○水至清云云、孔子家語「水至清則無魚。人至察則無徒」○彼有遺秉云云、詩經、小雅太田「彼有遺秉、此有滯穗。伊寡婦之

一、賑財不如免租。興利不如除害。

二、仕爲吏者。宜視官事如家事。守公法如著龜。待僚友如兄弟。則爲能盡職分。唯大臣胸次。磊磊落落。當如長松老檜。不爲風雨振撼。則其治務必不在人後。

三、抱巖穴之心者。可以居臺閣。得禮樂之實者。可以任將帥。

四、國有道時。言路開。可慶也。但怕功利之徒。乘時紛起。羣奏其實。或有大相左者。不容不深察。

五、世清時。亦就有小失處。世濁時。亦就有小得處。

六、水至清則無魚。木過直則無蔭。爲政者之深戒也。彼有遺秉。此有滯穗。伊寡婦之利。飢做政事。亦儘好。

利遺秉ハステタル稻タバ、滯穂ハオチタル稻穂。ソノ僅ナルモノモ、寡婦ハ我が生命ヲツナグヲ喜ブ。政モ少シハ遺滯アルヤウニセヨト戒メタルナリ。

○儘「マアソレデ」

○說命、書經ノ篇ノ名。○后王、天子。○君公、諸侯。○漢、支那ト和蘭。○渠、彼ナリ。○神祖、徳川家康ヲ尊ンデイフ。○嬖、比ナリ。○土崩瓦解、土ノ崩レテ墜ツルガ如ク、瓦ノ解ケテ離ルルガ如ク潰亂スルヲイフ。○鬼谷子抵巇、土崩瓦解而相伐射。○堯舜之澤、聖天子ノ徳澤。○柳柳州、唐ノ柳宗元。○封建論、封建トハ國土ヲ分チ建テテ君ト爲スヲイフ。宗元ノ論ハ唐宋八家文讀木卷七ニ出ヅ。蓋シ唐興リテヨリ疏屬盡ク王タリ。太宗ノ時ニ至リテ、名臣共ニ封建ノ事ヲ論ズ。宗元是ニ於テ深クソノ本ヲ探リ、古ニ據リ今ヲ驗シテ此論ヲ作ル。一ハ論旨ハ、封建ノ由リテ起ルハ、生人ノ初メニ在リテ、聖人ノ已ムヲ得ルニ非ザルヲイフ。而シ

三 說命、明王奉若天道、建邦設都、樹后王君公、承以大夫師長。据此、封建之制、天道也。唐虞三代相沿、保治久遠。秦已後變爲郡縣、而世數亦促。余聞、西洋諸國、周回地球、分爲五大洲、而封建之邦、惟我爲然。又獨立自足、無仰異域、厘有漢、蘭二國、許渠來貿易、是亦良法也。雖在我邦、古代則制、襲漢土、至神祖、郡縣存其名、而封建行其實。可謂神算無媿矣。郡縣之世、王室失政、海內輒土崩瓦解。惟封建、則列侯各守其土、庶民亦皆爲其主保護。是其所以固也。然國有興廢、則氣數之自然、以人力守之、又人道之當然。我幸生此土、沐浴堯舜之澤、可不知所以自慶乎。柳柳州封建論、吾所不取。

テ周秦以下各代ノ史實ヲ引キテ之ヲ詳論セリ。通篇一個ノ勢ノ字ヲ以テ字眼トス。

○觀觀、身分不相應ノコトヲウカガヒ願フ。ココハ外國ガ侵略セントスルヲイフ。○懲、コリテ戒メル。○鱗介、魚介。ココハ西洋人ヲ賤ミテイフ。

○閭内、閭門内。○擘初頭、劈頭第一ノ意。○關雎、詩經、開卷第一ノ篇ノ名、雎鳩(みまこ)ノ雌雄ノ攀ニシテ別アルヲ興ジ、文王ト后妃トノ琴瑟和樂ノ情ヲ敘セシモノ。故ニ詩ノ序ニ「關雎、后妃之德也」ト。

○葛覃、卷耳、關雎ノ次ニアル二篇ノ名。葛覃ノ序ニ曰ク「后妃在父母家、則志在女功之事。躬儉節用、服澣濯之衣。云々」又卷耳ノ序ニ「后妃之志也。云云。朝夕思念、至於憂勤也」ト。

○牝牡、鳥ノ「メス」ト「ヲス」ト。○牝牡、獸ノ「メス」ト「ヲス」ト。天成、天然自然。

三 沿海、侯國皆爲鎮兵、外寇不易覬覦。但問内治何如而已。内治有何別法。謹守祖宗之法、勿循名以喪實。敬體祖宗之心、勿偷安而忘危。然後天變不足畏、人言不足懲。況於區區鱗介之族、尙足虞乎。

三 人主閭内之事、外人所不知。然外廷感應之機、在此。國風、擘初頭、關雎、卽此意。

四 關雎之化、在葛覃卷耳。勤儉之風、宜自此起基。

四 婦德、一箇貞字。婦道、一箇順字。

四 婦女以服飾美麗爲習。殆不可。人之有男女、與禽獸之有雌雄、牝牡同。試見雄牡羽毛有飾、而雌牝無飾。天成之狀如是。

○外症、外科。○宮闈、宮中。○内症、内科。

○女誠、一卷、後漢ノ曹昭(班固の妹)著ス。ココハ下ノ女訓ト同ジク廣ク女ノ訓誡書ヲ指ス。○國雅、和歌。○筆札、テガミ。○マタ習字。○鬪香、香ヲアハセシマテ儀、茶ノ湯。○箏曲、絃歌、「ゴト」シヤミセン」

○視效、「ミナラフ」

○先入爲主、先ニ耳ニ入りタル言ガ主トナリテ後入ノ言ヲ聽クコト能ハザル義。漢書、息夫躬傳「觀覽古戒、反覆參考、無以先入之語爲主」

○商思、オモヒハカル。商量思慮ノ義。○易慢、カロンジアナドル。

○披瀝肝膽、心ノ中ヲ少シモ隠サズ、ウチアケル。○面從、目ノ前ノミニテ從フ。○乖忤、ソムキモトル。○所挾、鼻ニカケル。○媚疾、ネタミニクム。大學ニ、書經、秦誓ノ語ヲ引キテ「人之有技、媚疾以惡之」媚、音「ボウ」忌ミ嫉ム義。○恩怨分明、恩ヲ受ケタル者ニハ、恩ヲ以テ之ニ報イ、怨アル者ニハ、怨ヲ以テ之ニ報ユルコト

大臣弄權、病猶外症、劇劑一瀉可除也。若權在宮闈、則是内症、雖有良藥、不易施、如之何。

方今諸藩置講堂及演武場、以課子弟。但至宮闈、則未聞有教法。吾意欲於闈内區爲女學所、使衆女官學女事、宜延女師、謹飭者、使之講解女誠、女訓、國雅、諸書、并女禮、筆札、鬪香、茶儀、各有師以課之、旁復許箏曲、絃歌、不淫靡者、則闈内必肅然。

人主之賢不肖、係一國之理亂。妙年嗣立者、最宜擇交友、其所視效、或不良、則後遂誤邦家、可懼也。

凡事有真是非、有假是非、假是非、謂通俗之所可否。年少未學、而先了假是非、迨後欲得真是非、亦不易。

所謂先入爲主、不可如何耳。

人主好飲、太有害。除式禮外、宜自禁止。百弊皆自此興。

視官長、猶父兄、宜主敬順。吾議若有不合、則宜姑置前言、替他商思、竟有不可、則非可苟從。必當和悅而爭、不敢生易慢之心。

處僚友、須能披瀝肝膽、視如同胞。雖不可面從、而亦不可乖忤。有所黨、不可有所挾。不可有所媚疾。最不可。

恩怨分明、非君子之道。德之可報、固也。至於怨、則當自怨其所以致怨。

ト、一「キツパリ」トスルコト。呂氏童蒙訓「恩讎分明、此四字非有道者之言也」怨、讎ト同ジ意。

○蹉跌、ツマヅキテ失敗スル。○顛踏、タフレル。失敗ヲイフ。踏、音「ボウ」

○假心、本氣デナイコト。○習心、習慣トナリテ、意ヲ用ヒザル心。○繳住、滯リトドマル。

○說大人ニ云云、「貴顯ノ人ニ説クニハ之ヲ輕視シテソノ威光ヲ見ザルヲイフ。是レ我が氣ヲ屈セシメザランガ爲ナリ。藐ハ輕視スル義。孟子、盡心下「說大人則藐之、勿視其巍巍然」

一五 人情向背、在敬與慢。施報之道、亦非可忽。恩怨或自小事起、可慎。

一六 居官者、事未到、手如攀阪路。步步艱難、卻無蹉跌。事既到手、如下阪路。步步容易、輒致顛踏。

一七 應酬事物、當先見其事之輕重、而後處之。勿以假心。勿以習心。勿厭多端、以苟且。勿過穿鑿、以繳住。

一八 說大人、則藐之。勿視其巍巍然。勿視在心、目則熟視、亦不妨。

一九 心忘勢利、而後權貴可與語。

二〇 權貴之德、在下。賢士之德、在驕。權貴。又上官屬事於我、我宜要敬慎。鄭重下吏、請事於我。

我宜要區處敏速。但事非一端、則鄭重愆期、敏速誤事、亦容有之。須善先慮其輕重、以從事之爲要。

二一 人做事、須就其事、自揆我量與才與力之可及、又把事之緩急、與齡之老壯相比照、而後做起。不然、妄意下手、殆不免狼狽。

二二 果斷有自義來者、有自智來者、有自勇來者、有并義與智而來者。上也。徒勇而已者、殆矣。

二三 爲長官者、勿忘小心翼翼。爲吏胥者、勿忽天網恢恢。

二四 凡處官事、宜先以心爲簿書、而簿書又照之。勿專任簿書以爲心。

○徒勇、義理ニ本ヅカザル血氣ノ勇。○小心翼翼、翼翼ハ恭慎ノ貌。詩經、大雅大明「維此文王、小心翼翼」。○吏胥、小役人。○天網恢恢、天ノ網ハ恢恢ト廣大デ其目ハ疏ナレドモ、善惡ノ報漏ラス所ナシ。老子「天網恢恢、疎而不失」。失一本ニ漏ニ作ル。○簿書、帳簿書面。

○揆、ハカル。○比照、比較照合スル。○殆、危ナリ。

○權衡、ハカリノ「オモリ」ト「サヲ」ト。物ノ鈞合ヲ取ルコトニ轉用ス。ココハ轉義。○用其申於民、中庸「執其兩端、用其中於民」

○覺、音「キン」「キズ」

○曉曉、ヤカマシキ貌。○角爭、クラベ争フ。○銖銖、銖ハ量ノ名、一兩ノ二十四分ノ一、銅ハ六銖。共ニ極メテ少量ノ義トス。○德源、ススメル。

二三 公私在事、又在情。事公而情私者、有之。事私而情公者、有之。爲政者、宜權衡人情、事理輕重、處以用其中於民。

二四 吏人相集、言談多是仕進榮辱、貨利損益、吾甚厭然。平日慣聽、不覺偶自冒可戒。

二五 人做事各有本職。若事涉職外、假令有功、亦多取覺。譬如夏日之冷、冬日之煖、似宜非宜。

二六 人各有好尚。以我好尚、爭彼好尚、究不見真是非。太抵事不干真是非、則任彼好尚、亦有何妨。乃曉曉憑己、以角爭銖銖、祇見局量之小。

二七 游蕩子弟、亦非可棄。德源學問脩爲、卽悔悟法也。

○冥升云、易、升ノ卦、上六ノ爻辭。程傳「六以陰居升之極、昏冥於升。知進而不知止者也」。本義「以陰居升極、昏冥不已者也。但可反其不已於外之心、施之不息之正、而已」

○補瀉、「オギナヒグスリ」ト「クダシグスリ」

○周匝、アマネク行届クコト。

○不慮而知、孟子、盡心上「人之所不慮而知者、其良知也」。○慮而後得、大學「知止而后有定」

一旦悔悟、舊惡不可追。況其爲無賴、亦出於才。才則有所爲。易云、冥升、利于不已之貞。謂此。

二八 勸學之方不一。各因其人施之。有稱而勸之。有激而勸之。又有不稱不激、待其自勸者。猶醫人、應病施劑、補瀉不一、必先察其症然。

二九 問事於人、要虛懷、不可毫有所挾。替人處事、要周匝、不可稍有所缺。

三〇 我言語、吾耳可自聽。我舉動、吾目可自視。視聽既不愧於心、則人亦必服。

三一 勿以口而謗己行、勿以耳而聞人言。

三二 不慮而知、本體之發也。慮而後得、工夫之成也。知

定而后能靜。靜而后能安。安而后能慮。慮而后能得。○二套、二ツノ事件、

○慎獨、中庸「君子慎其獨也」大學「莫出」○稠人、多人數。史記、武安侯傳「稠人廣衆、薦寵下輩」

○君子以人治人、其人ノ能ク知リ能ク行フ所ノ道ヲ以テカヘリテ其人ノ身ヲ治メル。中庸第十三章「君子以人治人、改而止」

○放心、物欲ニ蔽ハレテ仁心ヲ放逸（はな）らにがすスル。孟子、告子上「學問之道無他、求其放心而已矣」

者、即得者、非有二套。

一 慎獨工夫、當如身在稠人廣坐中一般。應酬工夫、當如閑居獨處時一般。

二 仁者、以己克己。君子、以人治人。

三 持敬者如火。使人可畏而親之。不敬者如水。使人可狎而溺之。

四 心要現在。事未來、不可邀。事已往、不可追。纔追、纔邀。便是放心。

五 慎視聽、以固心之門戶。謹言動、以嚴心之出入。

六 人當自禮拜吾心。自問安否。以吾心即天之心。吾身即親之身也。是謂事天。是謂終身之孝。

○人之大欲、禮記、禮運「飲食男女、人之大欲存焉。死亡貧苦、人之大惡存焉。飲食男女トハ人ノ大ナル欲情ノ存スルモノナレバ、謹ヲ加フベキヲイフ。○澹然、欲ノサツバリトウスクナリタル貌。

○他日、前日。

○過越、スギ、コユル。ヤリスギヲイフ。○過愆、アヤマリ、アヤマツ。

○聞也、達也。聞トハ、己ニ其ノ實ナクシテ、虛名ノ人ニ稱セラ

一 去人欲、學人皆口之。而工夫太難。余嘗謂、當先去大欲。人之大欲、莫如飲食男女。故專戒此二者。余中年以後、此欲漸薄。今則澹然。精神與壯者無太異。可謂幸矣。

二 凡學、宜認做挽回轉化法。今日好賢之心、即是他日之好色。今日好德之心、即是他日之好貨。

三 欲有大小。大欲之發、我自知。克己或易。小欲、則不自覺。其爲欲。克己卻難。

四 過越過愆、字同而訓異。余見世人過越者、必過愆。是其所以爲同字。故人事寧不及勿過。

五 管絃在堂、聲聞四方。聞也。巖石倒谷、響徹大地。達

ルルワイフ。達トハ通ナリ、内ニ實德アリテ、名譽ノ自ラ達スルナリ。論語、顔淵「子張問、士何如斯可謂之達矣。子曰、何哉爾所謂達者。子張對曰、在邦必聞、在家必聞。子曰、是聞也、非達也。云云」

○消長之數、榮枯盛衰ノ理法。○檢、シラベル。

○感應、マゴコロガ物ニコタヘヒビク。

也。

一三 名譽、人之所爭求。又人之所羣毀。君子只是一實而已。寧有實響、勿有虛聲。

一四 人一生有順境、有逆境。消長之數、無可怪者。余又自檢、有順中之逆、有逆中之順。宜處其逆、不敢生易心。居其順、不敢作惰心。惟一敬字、以貫逆順可。

一五 天下人皆爲同胞。我當著兄弟相。天下人皆爲賓客。我當著主人相。兄弟相、愛也。主人相、敬也。

一六 物我之爲一體、須就感應上認之。有淺深、有厚薄、自不可誣、不可不察。

一七 書室中、自机硯書冊以外、凡平生所使用物件、雖

無知覺、而皆有感應。宜撫愛之、莫或毀損。是亦慎德之一。

一八 愛敬之心、即天地生生之心。樹藝草木、飼養禽蟲、亦唯此心之推。

一九 物集於其所好、人也事赴於所不期、天也。

二〇 勿羨富人、渠今之富、安知其不招後之貧。勿侮貧人、渠今之貧、安知其不胎後之富。畢竟天定、各安其分、可也。

二一 人事赴於所不期、究非人力。如人家貧富、有係於天、有係於人。然其係於人者、竟亦係於天。處世能知此理、省苦惱一半耳。

○物集云云、スベテ物ハ其好ム人ノ處ニ聚ルワイフ。歐陽修、集古錄目序「物常聚於所好、而常得於有力之強、有力而不好、好之而無力、雖近且易、有不能致之」

○胎、ハラム。○天定、天ガ自然ニ定ムルトコロ。

○起然、馬ノ急ギテ走ル貌。

○觸忤、人ノ心ニフレサカラフ。

○不好話、ヨクナイハナシ。

- 一五 見人之有禍、知我無禍之爲安、見人之有福、知我無福之爲穩。心安穩處、卽身極樂處。
- 一六 人皆圖將來而忘過去、殊不知過去乃爲將來之路頭。知分知足、在於不忘過去。
- 一七 人當回顧從前履歷、以占安穩地。若趕然不知駐步處、必墜淵壑。
- 一八 人有好爲觸忤者、不但失德、而取怨之道的在此。可戒之至。
- 一九 有人雖不自談不好話、而誘動他人、教談己則在側、與衆共聞快笑之、以取一場興、太爲失德。究與自談不好話一般。

○背撻、セナカヲムチウツ。○脇撻之癢、脇ノ下ヲクスグラレル。カユサレ

○調、カラカフ。○旅葵、書經、周書ノ篇名。曰ク「玩人喪德、玩物喪志」

○霰、詩經、小雅頌弁「如彼雨雪、先集維霰」トアルニヨリテ霰ヲ以テ前兆ノ意トス。

○舍爾靈龜云云、易、頤卦 ䷚ノ初九ノ爻辭。本義「靈龜、不食之物。朵、垂也。朵頤、欲食之貌。初九陽剛在下、足以不食。乃上應六四之陰、而動於欲、凶之道也」
○知足、心ニ足ルコトヲ知ル。老子「知足者富」

- 一五 背撻之痛、易耐、脇撻之癢、難忍。
- 一六 愛敬二字、爲交際之要道。勿傲視、以凌物、勿侮笑、以調人。旅葵、玩人喪德、真是明戒。
- 一七 甲冑則有不可辱之色。人服禮讓、以爲甲冑、誰敢辱之。
- 一八 太寵、是太辱之霰。奇福、是奇禍之餌。事物大抵以七八分爲極處。
- 一九 舍爾靈龜、觀我朵頤。靈龜不可舍矣。凡覬諸外者、皆朵頤之觀也。
- 二〇 人各有分。當知足。但講學、則當知不足。
- 二一 天道無窮盡。故義理無窮盡。義理無窮盡。故此學

○堯舜之上善無盡、王陽明ノ語。

○閱歷、コレマデニ經歷シ來リシコト。

○糟糠之妻不下堂、家貧ニシテ「カス」ヤ「ヌカ」ヲ嘗メテ、共ニ艱難セシ妻ハ堂ヨリ下サズ、愛敬スルヲイフ。後漢書、宋弘傳「建武二年、爲大司空、時帝姊湖陽公主新寡、帝與共論朝臣、微觀其意、主曰、宋公威容德器、羣臣莫及、帝曰、方且圖之。後弘被引見、帝令主坐屏風後、因謂弘曰、諺言貴易、交富易妻、人情乎。弘曰、臣聞貧賤之交不可忘、糟糠之妻不下堂。帝顧謂主曰、事不諧矣。」

○生知、新ラシク知リタル人。

○熟知、久シク知リ合ヒタル人。

○混看、同一ニ看ル。

○老彌、「ラウ」ミ「ミ」老イタル沙彌即チ老僧。

無窮盡。堯舜之上善無盡。謂此。

二四 藥物、甘自苦中生者多有效。人亦閱歷艱苦、則思慮自濃、恰好濟事。與此相似。

二五 艱難能堅人心。故共經艱難者、結交亦密。竟不能相忘。糟糠之妻不下堂、亦此類。

二六 接人衆多者、一視生知熟知。處事鍊熟者、混看難事易事。

二七 脩禪、老彌、樸實、老農、語往往起人。但使渠言而我聽之、可也。不必詰問。

二八 武人多是胸次明快。文儒卻闊弱。禪僧或有自得。儒者無自得、竝可愧。

○瞞、ゴマカス。

○毛孔、「ケアナ」

○察言觀色云云、能ク人ノ言語ヲ察シ、顔色ヲ觀テ、其心ニ欲スル所ヲ知リ、又事ヲ處スルニ當ニ熟慮シテ失敗ナカラシムニ心掛ケ、謙遜ヲ以テ人ニ下ル。論語、顔淵篇ニ出ヅ。孔子ノ語。○涉世法、世渡リノ「シカ」タシ。

○天籟、天然自然ノ音響。莊子、齊物篇ノ字面。

○饋、多シ。

二九 不欺人者、人亦不敢欺。欺人者、卻爲人所欺。

三〇 眞僞不可誣。虛實不可欺。邪正不可瞞。

三一 不自欺者、人不能欺。不自欺、誠也。不能欺、無間也。

譬如生氣自毛孔出。氣盛者、外邪不能襲。

三二 察言而觀色。慮以下人。涉世法不出此二句。

三三 遠怨之道、一箇恕字。息爭之道、一箇讓字。

三四 赤子之一啼一啖、皆天籟也。老人之一話一言、皆活史也。

三五 人得意時、輒饒言語。逆意時、即動聲色。皆見養之不足。

三六 存養之足不足、宜於急遽時事自驗。

○深造、深ク道ニイタル。孟子ノ字面。本錄二〇參看。○助長、速ニ成長センコトヲ欲シ無理ニヒキノバシテ卻リテ害スルニイフ。孟子、公孫丑上「勿助長也。無若宋人然。宋人有閔其苗之不長而振之者。芒芒然歸。謂其人曰今日病矣。予助苗長矣。其子趨而往視之。苗則槁矣。」○矜心、ホコル心。
○不讓於師、論語、衛靈公「當仁不讓於師」

○鼓缶而歌、缶ハ樂器「ホトギ」易、離卦三三九三ノ爻辭「日昃之離、不鼓缶而歌、則大耋之嗟、凶」本義「重離之閒、前明將盡。故有日昃之象。不安。常以自樂。則不能自處。而凶矣」
○樽晦宴息、易、隨卦三三ノ象辭「澤中有雷隨。君子以樽晦入宴息」程傳「君子晝則自強不息。及樽昏晦。則入居於內。宴息以安其身。起居隨時。適其宜也」

○避嫌、マギラハシク似タルヲヨケル。○孔子川上之嘆、論語、子罕「子在川上。曰。逝者如斯夫。不舍晝夜」○顏子云云、論語、子罕「顏淵喟然歎曰。仰之彌高。鑽之彌堅。云云」孔子ノ聖德ヲ讚美シタル言葉ナリ。
○曾子云云、論語、里仁「參乎。吾道一以貫之。曾子曰。唯」○朱子一旦豁然、一朝スラリト悟ルコト。大學ノ朱子補傳「至於用力之久。而一旦豁然貫通焉」

三七 求道要懇切。不要迫切。懇切則深造。迫切則助長。深造是誠助長是偽。

三八 學須要心事合一。吾做一好事。自以為好。因要人知其好。是即矜心不除。便是心事不合一。

三九 人事百般。都要遜讓。但志則不讓於師。可。又不讓於古人。可。

四〇 人於此學。片時不可忘。晝夜一串。老少一串。鼓缶而歌。亦是學。嚮晦宴息。亦是學。

四一 處事接物。鍊磨此心。則人情事變。亦一併鍊磨。

四二 石重故不動。根深故不拔。人當知自重。

四三 人皆知洒掃一室。而不知洒掃一心。遷善不遺毫髮。改過不留微塵。吾欲洒掃如是。而未能力全。

四四 凡事勿嫌似。而誤真。勿拘名。而失實。勿執偏。而害全。

四五 覺悟釋之常言。儒家避嫌而憚言。非也。心有所感發。皆謂之悟。孔子川上之嘆。是道體之悟也。顏子喟於仰鑽。曾子唯於一貫。非悟乎。朱子一旦豁然。亦是悟境。但當問所悟為何事。

四六 至富不自知其為富。至貴不自知其為貴。道德功業。其至者。或亦不自知。然歟。

四七 眞孝忘孝。念念是孝。眞忠忘忠。念念是忠。

四八 事親之道。在忘己。教子之道。在守己。

○利道、スラスラト導ク、道ハ導ニ同ジ。○助長、前ノ二一七ニ解ス。

○李英公、唐ノ宰相李勣。英國公ニ封ゼラル。弟病ム。親ラ粥ヲ煮テ、鬚ヲ燒ク。弟曰ク、家ニ僮僕多シ、何爲ゾ自ラ苦ムコト此ノ如クナルト。勣曰ク、豈人ニ乏シキガ爲ナランヤ、願フニ今姊年老イ、勣モ亦老イタリ。屢姊ノ爲ニ粥ヲ煮ント欲スト雖モ復得ベケンヤト。

○自新、ミヅカラ心ヲ新タニスル。

○責善、善キコトヲセヨト責ムル。○遜以出之、ヘリクダリテ言葉ニ出ダス。論語、衛靈公篇ノ語。遜ヲ孫ニ作ル。同ジ。○絮叨、クダクダシ。○謹叟、サウザウシクシヤベル。○形迹之嫌、何カ形迹ノアラハレタル嫌疑。○无妄之災、无妄ハ易ノ卦ノ名。妄ナルコト无ク、正シク誠ナル意。ココハ正道ヲ履ミナガラ受クル災ヲイフ。六三「无妄之災」○槌子、誠ヲ以テ「ツチ」トシテ打チ破レトノ意。子ハ助語。

○天行、天ノ運行。

三九 父道當嚴中存慈。母道當慈中存嚴。
四〇 父道貴嚴。但育幼之方。則宜從其自然。而利道之勿助長以戕生氣可。

四一 兄弟友愛者有之於姊妹則或否。勿傲侮以不順李英公爲姊煮粥可學。

四二 人之生。父氣猶種子。母胎猶田地。余年來閱人。夫性厚重而婦順良。或慧敏則生子多有材幹。夫雖有才幹而婦暗弱。或姦黠則生子多不才。或不良。十中八九如是。然未謂必然。

四三 責人之過失。不要十分。宜餘二三。分使渠不甘自棄。以覓自新可。

四四 責善之言。尤宜遜以出之。勿絮叨。勿謹叟。

四五 形迹之嫌。不可以口舌辯。无妄之災。不可以智術免。莫如把一誠字。以爲槌子。

四六 銳進工夫。固不易。退步工夫。尤難。惟有識者庶幾焉。

四七 人做事。須要不緩不急。如天行一般。吾性急迫。有時過緩。書以自警。

四八 晝夜有短長。而天行無短長。惟無短長。是以能成晝夜。人亦然。緩急在事。心則忘緩急可也。

四九 凡爲事。以意氣而已者。於理每有障礙。
五〇 人不可無恥。又不可無悔。知悔則無恥。知恥則無

○聖賢貧樂、論語、學而「子貢曰、貧而無詭、富而無驕、何如。子曰、可也。未若貧而樂、富而好禮者也」

恥。

一 衣薄不著寒相、食貧不見餒色、唯氣充者為能而聖賢貧樂、則非此之類。

二 人不能無苦樂、唯君子心安苦樂、而苦不知苦、小人心累苦樂、而樂不知樂。

三 與人共事、渠擔快事、我任苦事、事雖苦、意則快、我擔快事、渠任苦事、事雖快、意則苦。

四 人各有所長、有所短、用人宜取長、舍短、自處則當忘長、以勉短。

五 不言己長處、不護己短處、宜舉己短處、虛心以詢諸人、可。

○真率、天真ノママニテ飾ラヌ。南史、陶潛傳「我醉欲眠、卿且去。其真率如此」

○日間鎖事、平生ノ小事件。

○後圖、ノチノハカリゴト。

○妥貼、「オダヤカ」穩當ナリ。

○常故、普通ニアリフレタル事柄。○概棄、スベテ一概ニ棄テ

一 人貴重、不貴、遲重、尙真率、不尙輕率。

二 勿賣恩、賣恩、卻惹怨、勿干譽、干譽、輒招毀。

三 日間鎖事、不背世俗、可立身操守、背於世俗、可

四 小才禦人、大才容物、小智耀於一事、大智明於後

圖。

五 人就我謀事、須要妥貼、易簡、不生事端、即是智、若過為穿鑿、逞己才智、卻惹他禍、殆是不智。

六 人才有、小大有、敏鈍、敏大固可用也、但日間鎖事、

小鈍者、卻能成用、如敏大、則輕蔑、常故、是知、人才各有

用處、非可概棄。

七 人情趨吉避凶、殊不知、吉凶是善惡之影響也、余